

松崎新堀遺跡

－ 福岡県小郡市松崎所在遺跡の調査報告 －

小郡市文化財調査報告書第 367 集

2 0 2 5

小郡市教育委員会

序

小郡市内では、「旧松崎宿旅籠油屋」のような近世以降の重要史跡から、「花立山穴観音古墳」や「小郡官衙遺跡」といった古代の史跡が残っており、復元されたものの多くが幅広く活用されています。そんな小郡市では「小郡官衙遺跡公園」の総柱建物群の柱位置の復元や「花立山穴観音古墳」の古墳の内部公開、「旧松崎宿旅籠油屋」の近世の建造物の復元などを行い市民に文化財をより広く知ってもらう取り組みに力を注いでいます。

今回報告します松崎新堀遺跡は本調査が初ですが、「旧松崎宿旅籠油屋」のすぐ南に位置しているためこれらの歴史に関する資料や情報を含んでいると思われ、これらをより多く蓄積し、歴史をより深く、厚みを持って後世に伝えていかなければなりません。本書がその一助になれば幸いです。

最後になりますが、今回の調査におきまして、地元松崎地区の皆様には多大なご協力を賜りましたこと記して感謝申し上げます。

令和7年3月31日

小郡市教育委員会

教育長 秋永晃生

例 言

1. 本書は小郡市松崎に所在する埋蔵文化財包蔵地・松崎新堀遺跡地内で計画された、物流倉庫建設工事に先立って実施した発掘調査の報告書である。
2. 本報告書に記載した遺構図面は（株）埋蔵文化財サポートシステム福岡支店に委託した。一部の個別遺構図面は調査担当者の高橋渉・三津山靖也・柏原孝俊と、学生参加者の島田聖・仲田美乃里・森山陽奈・矢野稜馬・山上尚也が作成した。
3. 発掘現場での個別遺構写真は調査担当者が撮影し、遺構全景写真については（有）空中写真企画に委託した。
4. 巻末写真図版の遺物写真の撮影は（有）システム・レコに委託した。
5. 出土遺物の洗浄・復元には佐々木智子・佐藤優子・久佐木美樹・牛原真弓・永富加奈子の協力を得た。遺構図面のデジタルトレースは宮崎美穂子が、遺物実測は三津山靖也・上田恵が、遺物実測図の製図は久住愛子と林知恵が行った。
6. 本調査に関わる出土遺物・写真・カラスライド等は小郡市埋蔵文化財調査センターにて保管されている。広く活用されることを希望する。
7. 本報告書の執筆は三津山・高橋が行い、編集は三津山が担当した。

凡 例

1. 本書で用いた北は座標北を基準とし、図上の座標は国土座標第Ⅱ系（世界測地系）に拠っている。
2. 本書で用いた標高は東京湾平均海水面（T.P.）を基準としている。
3. 本書で用いている略号は以下のとおりである。

土坑：SK 溝：SD 井戸：SE 掘立柱建物跡：SB ピット：P

本文目次

第1章 調査の経緯と経過	1
調査の経緯	
調査の組織	
調査の経過	
第2章 位置と環境	3
地理的環境	
歴史的環境	
第3章 調査の内容	5
A1区 遺構と遺物	5
A2区 遺構と遺物	9
B1区 遺構と遺物	13
B2区 遺構と遺物	14
B3区 遺構と遺物	14
B4区 遺構と遺物	15
C1区 遺構と遺物	20
C2区 遺構と遺物	21
C3区 遺構と遺物	23
D1区 遺構と遺物	27
D2区 遺構と遺物	29
D3・D4区 遺構と遺物	29
E1・E2区 遺構と遺物	35
第4章 調査成果のまとめ	44

挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図、薩摩街道配置図 (S=1/25,000)	4
第2図 A1区 13号土坑 土層断面図 (S=1/40)	6
第3図 A1区 1号、2号、4号、17号溝 土層断面図 (S=1/40)	7
第4図 A1区 1号、2号溝 出土遺物実測図 (S=1/3)	8
第5図 A1区 17号溝、A2区 28号、29号溝 出土遺物実測図 (S=1/3)	9
第6図 A2区 28号、29号溝 土層断面図 (S=1/40)	10
第7図 A2区 1号井戸 土層断面図 (S=1/40)	10
第8図 A1区 遺構平面図 (S=1/300)	11
第9図 A2区 遺構平面図 (S=1/200)	12
第10図 B1区 2号、14号溝 土層断面図 (S=1/40)	13
第11図 B2区 17号溝 土層断面図 (S=1/40)	14
第12図 B3区 17号、27号溝 土層断面図 (S=1/40)	14
第13図 B1区 2号、14号、16号溝、B3区 17号溝、11号土坑 出土遺物実測図 (S=1/3)	16
第14図 B1区 遺構平面図 (S=1/300)	17
第15図 B2、3区 遺構平面図 (S=1/300)	18
第16図 B4区 遺構平面図 (S=1/200)	19
第17図 C1区 20号、21号溝 土層断面図 (S=1/40)	20
第18図 C1区 9号土坑 平面図・断面図 (S=1/40)	20
第19図 C1区 1号掘立柱建物跡柱穴痕 平面図・断面図 (S=1/40)	21
第20図 C2区 18号溝 土層断面図 (S=1/40)	21
第21図 C2区 8号土坑 土層断面図、平面図・断面図 (S=1/40)	22
第22図 C3区 20号、30号溝切り合い土層断面図 (S=1/40)	23
第23図 C1区 20号溝、C2区 23号溝、C3区 20号、30号溝 出土遺物実測図 (S=1/3)	23
第24図 C1区 遺構平面図 (S=1/300)	24
第25図 C2区 遺構平面図 (S=1/300)	25
第26図 C3区 遺構平面図 (S=1/200)	26
第27図 D1区 37号、38号、39号、40号、41号溝 土層断面図 (S=1/40)	28
第28図 D1区 37号、39号溝、D4区 31号溝 出土遺物実測図 (S=1/3)	30
第29図 D4区 31号、32号、33号溝 土層断面図 (S=1/40)	31
第30図 D1区 遺構平面図 (S=1/300)	32
第31図 D2区 遺構平面図 (S=1/200)	33
第32図 D3、4区 遺構平面図 (S=1/300)	34

第 33 図	E1 区 6 号、7 号、8 号溝、E2 区 6 号、7 号、 11 号、13 号溝 出土遺物実測図 (S=1/3) …	37
第 34 図	E1 区 6 号、7 号溝、E2 区 7 号、11 号、12 号、 13 号溝 土層断面図 (S=1/40) …	38
第 35 図	E2 区 4 号、5 号、6 号、7 号土坑 土層断面図、 平面図・断面図 (S=1/40) …	39

第 36 図	E1、2 区 遺構平面図 (S=1/300) …	40
第 37 図	その他遺物、石器、土製品、瓦、銅製品、 ガラス瓶等 遺物実測図 (1 ～ 6・11 ～ 13 は S=1/3、7 ～ 9 は S=2/3、10・14 ～ 16 は S=1/2) ……	43
第 38 図	松崎新堀遺跡 地籍図合成 (S=1/1,200) …	45

写真図版目次

図版表紙

松崎新堀遺跡位置写真（南上空から花立山方向）

図版 1

- ① 松崎新堀全調査区 全景合成写真（上空から）
- ② A1 区 全景写真（上空から）

図版 2

- ① A1 区（左）、A2 区（右） 全景写真（上空から）
- ② B1 区（左）、B2 区（右） 全景写真（上空から）

図版 3

- ① B3 区 全景写真（上空から）
- ② B4 区 全景写真（上空から）

図版 4

- ① C1 区 全景写真（上空から）
- ② C2 区西地点 全景写真（上空から）

図版 5

- ① C2 区東地点（左）、C3 区（右） 全景写真（上空から）
- ② D1 区 全景写真（上空から）

図版 6

- ① D2 区 全景写真（上空から）
- ② D3 区（左）、D4 区（右） 全景写真（上空から）
- ③ E1 区（左）、E2 区（右） 全景写真（上空から）

図版 7

- ① A1 区 1 号溝完掘（南から）
- ② A1 区 2 号溝完掘（東から）
- ③ A1 区 1、2 号溝西壁土層断面（東から）
- ④ A1 区 4 号溝西壁土層断面（東から）
- ⑤ A1 区 17 号溝東壁土層断面（西から）
- ⑥ A1 区 13 号土坑西壁土層断面、完掘（東から）

図版 8

- ① A2 区 28 号溝完掘（東から）
- ② A2 区 29 号溝完掘（東から）
- ③ A2 区 28 号溝土層断面（北から）
- ④ A2 区 29 号溝土層断面（西から）
- ⑤ A2 区 1 号井戸南壁土層断面（北から）
- ⑥ B1 区 2、16 号溝北壁土層断面（南から）

図版 9

- ① B1 区 2、16 号溝完掘（北から）

- ② B1 区 14 号溝土層断面（北から）

- ③ B2 区 17 号溝完掘（北から）

- ④ B2 区 17 号溝北壁土層断面（南から）

- ⑤ B3 区 17 号溝完掘（北東から）

- ⑥ B3 区 17 号溝南壁土層断面（北東から）

図版 10

- ① B3 区 27 号溝完掘（南西から）
- ② B3 区 27 号溝東壁土層断面（南西から）
- ③ B3 区 10 号土坑完掘（西から）
- ④ B3 区 11 号土坑完掘（北から）
- ⑤ B3 区 12 号土坑完掘（東から）
- ⑥ B4 区 2 号掘立柱建物跡？（東から）
- ⑦ C1 区 1 号掘立柱建物跡完掘（南から）
- ⑧ C1 区 20 号溝完掘（西から）

図版 11

- ① C1 区 20 号溝南壁土層断面（北東から）
- ② C1 区 波板状土坑痕跡（南西から）
- ③ C2 区西地点 18 号溝完掘（北から）
- ④ C2 区西地点 18 号溝北壁土層断面（南東から）
- ⑤ C2 区西地点 8 号土坑完掘（南西から）
- ⑥ C2 区東地点 23 号溝完掘（南東から）
- ⑦ C3 区 20 号溝完掘（北から）
- ⑧ C3 区 20 号溝北壁土層断面（南から）

図版 12

- ① C3 区 30 号溝完掘（南から）
- ② D1 区 37 号溝南壁土層断面（北から）
- ③ D1 区 38 号溝完掘（東から）
- ④ D1 区 38 号溝土層断面（東から）
- ⑤ D1 区 39 号溝西壁土層断面（東から）
- ⑥ D1 区 40 号溝完掘（東から）
- ⑦ D1 区 40 号溝北壁土層断面（南から）

図版 13

- ① D1 区 41 号溝完掘（東から）
- ② D1 区 40、41 号溝西壁土層断面（東から）
- ③ D2 区 43 号溝完掘（西から）
- ④ D4 区 31 号溝完掘（東から）
- ⑤ D4 区 31 号溝西壁土層断面（東から）

⑥ D4 区 31 号溝北壁土層断面（南西から）

⑦ D4 区 32 号溝完掘（南から）

図版 14

① D4 区 32 号溝南壁土層断面（北から）

② D4 区 33 号溝完掘（西から）

③ D4 区 33 号溝東壁土層断面（西から）

④ E1 区 6、7 号溝完掘（南から）

⑤ E1 区 6 号溝北壁土層断面（南から）

⑥ E1 区 7 号溝北壁土層断面（南から）

⑦ E1 区 6、7 号溝土層断面（南から）

図版 15

① E1 区 8 号溝完掘（北から）

② E1 区 9 号溝完掘（東から）

③ E2 区 7 号溝完掘（北から）

④ E2 区 11 号溝完掘（南から）

図版 16

① E2 区 7 号溝土層断面（北から）

② E2 区 11 号溝土層断面（北から）

③ E2 区 12 号溝完掘（南から）

④ E2 区 13 号溝完掘（南から）

⑤ E2 区 12 号溝土層断面（北から）

⑥ E2 区 13 号溝土層断面（南から）

図版 17

① E2 区 4 号土坑完掘（南から）

② E2 区 4 号土坑土層断面（南から）

③ E2 区 5 号土坑完掘（南から）

④ E2 区 5 号土坑土層断面（南から）

⑤ E2 区 6 号土坑完掘（北から）

⑥ E2 区 6 号土坑土層断面（北から）

図版 18

出土遺物①

図版 19

出土遺物②

図版 20

出土遺物③

図版 21

出土遺物④

図版 22

出土遺物⑤

付 図

松崎新堀遺跡 全体遺構平面図 (S=1/600)

第 1 章 調査の経緯と経過

調査の経緯

小郡市松崎に所在する松崎新堀遺跡は、本調査が初である。本調査地の周辺には古代の下高橋官衙遺跡（大刀洗町）や近世の松崎城跡、旧松崎宿旅籠油屋が存在し、今回の調査で松崎新堀遺跡はこれら近世以降の時期の遺構が確認された。また、江戸時代前半から明治まで交通の要となった薩摩街道が近隣にあったことから幕末以降も大きな町があったと思われる。

本遺跡の調査は、物流倉庫建設に先立って「埋蔵文化財の有無に関する照会」（事前審査番号 19028）が提出されたことに始まる。これを受けて試掘調査を実施した結果、埋蔵文化財の存在を確認したため、物流倉庫のような重量鉄骨建造物に耐えうるよう杭など地盤改良が施工されるため、遺構への影響が大きい建物部分については発掘調査による記録保存が必要な旨を回答した。その後、施工業者と小郡市教育委員会で協議し、令和 4・5 年度事業として発掘調査を実施し、令和 6 年度に調査報告書を刊行することで同意を得た。

調査の組織

調査に関わった組織と担当者は下記の通りである。

＜小郡市教育委員会＞

教育長 秋永 晃生
教育部長 藤吉 宏（～ R5. 3. 31） 熊丸直樹（R5. 4. 1 ～）
文化財課長 杉本 岳史
係長 山崎 頼人
技師 高橋 渉 三津山 靖也（会計年度任用職員）
柏原 孝俊（再任用）

＜調査参加者＞ 井樋博志 岩本眞行 岡藤成子 岡村茂俊 瓦田かおる 木村哲郎 木下正一
草場誠子 黒田祐治 古賀弘文 小柳真由美 権藤秀明 陶山博 惣福脇誠
田嶋道博 棚町俊一 筒井行久 富高佐智雄 中武奈津子 中村康博 西初代
野口一秀 平林昌代 元石みつ 諸藤収吉 吉岡広志（以上五十音順）

〔学生参加者〕

矢野稜馬 山上尚也（別府大学学生）
島田聖 仲田美乃里 森山陽奈（福岡大学学生）

調査の経過

発掘調査は令和 5 年 3 月 22 日から 9 月 30 日にかけて実施した。本調査は農地転用や撤去不可の水路がある関係上、いくつかの地区に分割しての調査となった。調査区は現況地表から 10 ～ 60cm と深さが各地区でまばらで、近年の耕作土を重機で慎重に掘り下げその後人力で遺構の検出・掘削を行った。

以下に調査日誌より調査の経過の概略を記す。

令和 5 年 3 月 22 日 重機による調査区表土の掘削開始。

3月24日 機材搬入

3月27日 人力による遺構検出、掘削開始。A1区、B1・2区、E1・2区を調査。

溝、土坑、ピット多数を検出。ほぼ全て時期は近世・近代以降と推定。

4月28日 E2区の調査中、攪乱内から散弾銃の薬莢（未使用）を計8発発見。警察に届出。

6月5日 調査期間短縮のため作業員を増員、2班体制に。新班はC区を担当。

6月13日 A1区、B1・2区、C2区西地点、E1・2区の空撮（1回目）

6月14日～7月19日 調査済の地区の埋め戻し、新しい地区の表土剥ぎ。

7月17日 セスナ機による上空からの航空写真撮影。

7月20日 旧班：A1区の残り・A2区、新班：B3・4区、C1・C2東地点・C3区の調査。

溝、土坑、井戸跡、掘立柱建物跡、ピット多数を検出。

8月29日 A1区の残り・A2区、B3・4区、C1区・C2区東地点・C3区の空撮（2回目）

8月29日～9月3日 D区表土剥ぎ

9月4日 旧班：D1区、新班：D2～4区の調査。溝、ピット多数を検出。

9月22日 D区の空撮（3回目）

9月23日～9月30日 測量済の調査区から順次埋め戻し。

現状復旧を行い、土地の引き渡し。発掘調査終了。

以後、埋蔵文化財調査センターにおいて、図面・出土遺物の整理作業を実施。

第2章 地理的・歴史的環境

地理的環境

小郡市は福岡県の中央部に位置し、博多湾から南東に約25km、有明海から北東に約30kmの内陸部にある。市域は東西約6km、南北約12kmの総面積約45.5km²を有する南北に長い行政区を持つ。また、小郡市の中央には宝満山を水源とする宝満川が東西を分断する形で南北に流れている。小郡市の北西部の脊振山から派生する丘陵部（通称：三国丘陵）と、北東部の花立山（標高約130m）から伸びる丘陵が南側へ緩やかに下る平坦な台地に移行し筑後平野へと連なる。

本遺跡は宝満川の東岸の低位段丘上、筑後平野東西官道と大刀洗町下高橋官衙遺跡に繋がる南北官道（松崎六本松遺跡3、4）のすぐ南に位置する。

歴史的環境

小郡市は古来より筑前、筑後、肥前を結ぶ交通の要衝となってきた。古代、集落の形態が変化し、個々の集落の規模の大規模化が見られ、その要因として官衙関連遺跡の展開が大きく影響していると思われる。当地域周辺の官衙遺跡は小郡市の上岩田遺跡（4）、大刀洗町の下高橋官衙遺跡（10）が広く知られ、松崎六本松遺跡（8）ではこれらの官衙関連遺跡を結ぶと思われる官道の存在も明らかになっており、こうした官道や官衙遺跡の周辺での遺跡展開が顕著になっている。

その後時代は近世頃まで進み、江戸時代、第三代将軍徳川家光の参勤交代制度により、参勤交代をより行き来しやすいように街道が飛躍的に発達し、小倉と長崎を結ぶ『長崎街道』や筑前山家から分岐して松崎宿などを通り鹿児島へと至る『薩摩街道』など主要街道が整備されていった。

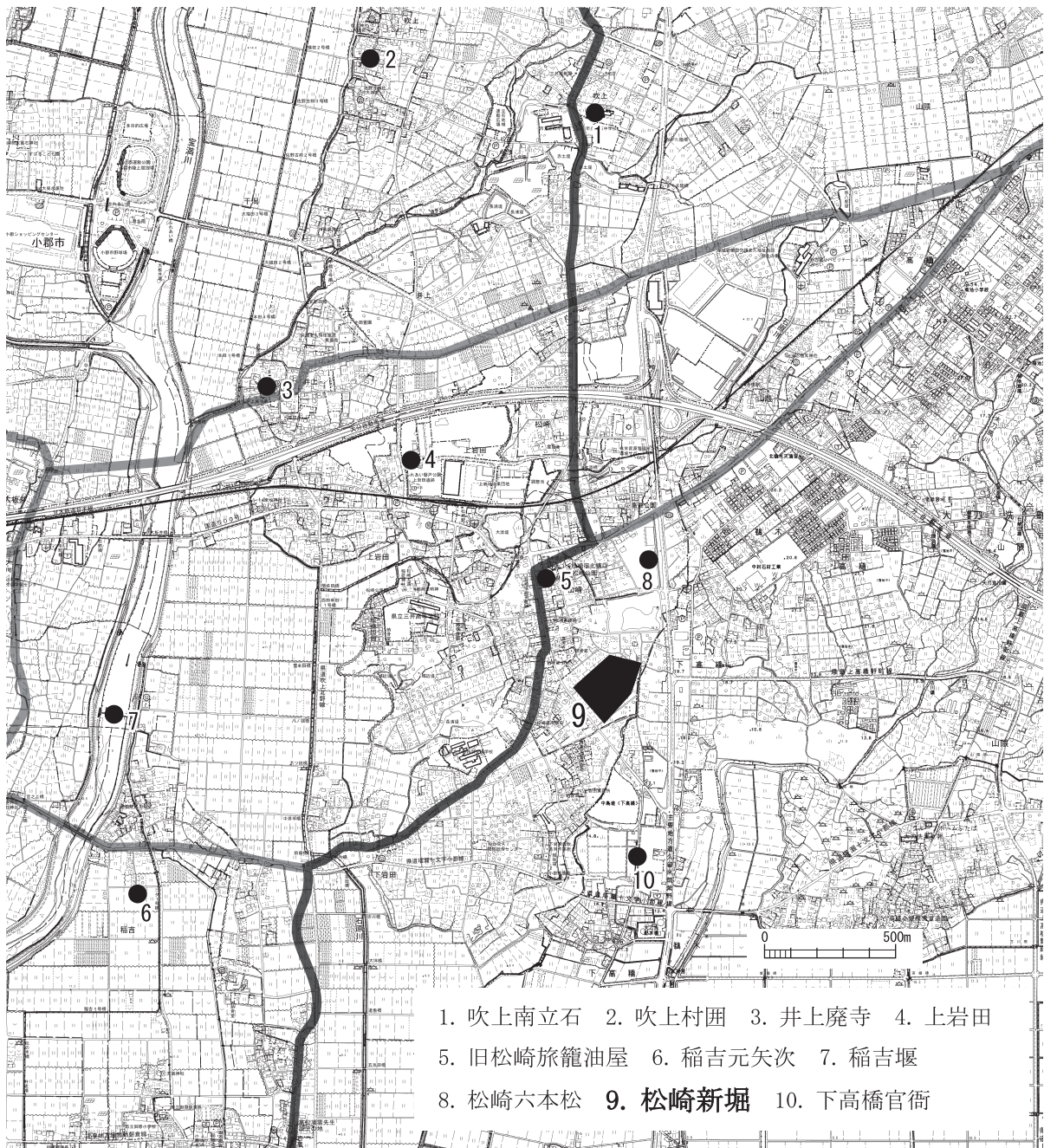
1668年（寛文8年）久留米藩第四代藩主有馬頼元が家督を相続し、二代藩主の忠頼の養子であった有馬豊範が1668年（寛文8年）から1684年（貞享元年）まで19ヶ村1万石（松崎藩）を分知されたのをきっかけに、豊範は松崎に居館を構え、松崎宿の整備と松崎宿を通る街道の設計を行い1678年（延宝6年）に街道が開通。参勤交代をはじめとした多くの旅人客を受け入れる一方で、繁華街としての性格があった松崎宿は主要な宿場町として重視され、繁栄していった。その松崎宿は1866年（慶応2年）の記録によると、本陣を含めて旅籠が26軒、町の総軒数は129軒にも及び街道開通から200年近くも続き、当時のその繁栄ぶりが窺える。

その後時代は変わり、明治に入り参勤交代制度もなくなり、明治、大正と時代が移るにつれて旅籠も建て替えられたり取り壊されたりして、その多くは姿を消した。しかし、いま現在でも松崎は宿場町としての面影を残しており、宿場町の入口である南北の構口の石垣（小郡市指定史跡）が残っており、また宿屋の一つ、『旧松崎宿旅籠油屋』の復元建造物（5）がある。

そうした小郡市周辺は南北を縦断する形で国道3号線、九州自動車道、JR鹿児島本線、西鉄天神大牟田線が走り、東西には大分自動車道、国道500号線が走っているように、現在でも交通の要衝となっている。

参考文献

- 小郡市教育委員会 2007 第218集『松崎宿北構口・南構口』
- 小郡市教育委員会 2008 第234集『旧松崎旅籠油屋』
- 小郡市教育委員会 2018 第317集『旧松崎旅籠油屋2』
- 小郡市教育委員会 2022 第349集『松崎六本松遺跡4』



第1図 周辺遺跡分布図、薩摩街道配置図 (S=1/25, 000)

第3章 調査の内容

当遺跡は調査の関係上、複数の調査区に分割して調査を行った。以下が調査区とそれぞれで検出した遺構である。

A1区：溝5条、土坑1基、ピット多数	C3区：溝2条、ピット複数
A2区：溝2条、井戸1基、ピット多数	D1区：溝8条、ピット多数
B1区：溝4条、ピット複数	D2区：溝1条、ピット多数
B2区：溝1条	D3区：溝2条
B3区：溝2条、土坑3基、ピット複数	D4区：溝3条
B4区：ピット複数（掘立柱建物跡か？）	E1区：溝5条、ピット多数
C1区：溝2条、土坑1基、掘立柱建物跡1軒	E2区：溝5条、土坑4基、ピット多数
C2区：溝6条、土坑1基、ピット多数	

遺構の幅・長さ・深さ等の各数値はそれぞれ各地区内で検出した数値である。また、溝の一部には隣り合う地区で重複しあうものがある（A1区2号溝とB1区2号溝等）。遺構時期はどれも近世・近代以降のものと思われる。

A1区 遺構と遺物

溝

1号溝（SD1）（第3図，図版7-①，7-③）

調査区中央付近から検出した溝で、最大幅2.2m、長さ68m、深さ最大90cmである。溝は途中折れ曲がっているところから2号溝に切られる形で一部重なり、溝は両端とも北側の調査区外にまで続いている。総延長距離は少なくとも70m以上あると思われる。また、1号溝と4号溝の合流地点の遺構検出面前後からは土管と木杵らしき木片を検出した。出土遺物や形態からして現代の耕作地となるまで水路として使用されていた可能性が高い。溝は東から西に向かって曲がり、北上する方向に傾いている。担当者のミスにより、16号溝が1号溝に切られる形となっているが、本来は1号溝の上を16号溝が走る形となる。出土遺物は溝全体から出土した。

〔出土遺物〕（第4図，図版18）

1は須恵器の甕と思われる口縁の一部。2と3は陶器の蓋。3は上面に花卉の文様が描かれている。4は陶器の鉢。口縁の一部のみで注ぎ口がある。5は陶器の小壺。6は陶器の瓶。7は陶器の壺の底部と思われる。8は白磁の紅皿。9は白磁の盃。10は磁器の仏飯具。11は磁器の染付碗。12は磁器の染付の瓶。13は磁器のお猪口。色絵を施しており、高台内に文字がある。14は陶器の鉢。15は陶器の碗。胴部に下絵付を施している。16は陶器製の窯道具と思われる。

2号溝（SD2）（第3図，図版7-②，7-③）

調査区西側から検出した溝で、最大幅1.8m、長さ25m、深さ最大60cmである。溝の途中で1号溝の上を少し走る。溝は南北を貫いて、北側は調査区外まで、南側はB1区を通り南の調査区外まで続く。総延長距離は少なくとも60m以上はあると思われる。溝は北に向かって傾いている。遺物は溝全体か

ら出土した。

〔出土遺物〕（第4図，図版18）

17は土師器の火鉢。内面にわずかにススが付着している。18は陶器の壺の底部。19は磁器の染付の瓶。20は磁器の染付の皿。口縁全体を輪花形としており、高台内は蛇ノ目凹型で兜巾あり。21は磁器の染付の碗。22は陶器の大型甕。胴部に2条の突帯をめぐらせてから棒状のようなもので押しつぶして波打つような形にしている。

4号溝 (SD4) (第3図，図版7-④)

調査区東側の北よりから検出した溝で、最大幅1.5m、長さ3.5m、深さ最大70cmである。溝の北側は調査区外まで続き南側は1号溝と合流する。1号溝に合流、もしくは一部切られる形となっているため、1号溝より古い時期か同時期の溝と思われる。溝は北に向かって傾いている。出土遺物はわずかだが全て小片のため図示出来なかった。

16号溝 (SD16)

調査区西側から検出した溝で、最大幅90cm、長さ24m、深さ最大30cmである。溝は南北を貫いて北側調査区外まで続き、南側はB1区の16号溝にあたる。担当者のミスにより1号溝が切る形になっているが、正確には16号溝が1号溝の上を走る形となる。出土遺物はなし。現代の溝と思われる。

17号溝 (SD17) (第3図，図版7-⑥)

調査区東側から検出した溝で、最大幅1m、長さ26m、深さ最大60cmである。溝の北側は1号溝に合流する手前で丁字のように二手に分かれて1号溝と合流、南側は調査区外まで続き、B2区の東側で検出する。また、その先のB2区とB3区の間で東に曲がりB3区の中央付近で再度検出してそのまま東側調査区外まで続く。1号溝との合流地点では1号溝が17号溝の上を走る。総延長距離は少なくとも70m以上はあると思われる。溝は東から西に曲がり北に向かって傾いている。遺物は溝全体から出土した。

〔出土遺物〕（第5図）

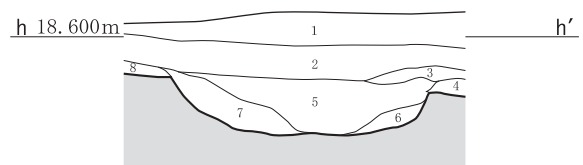
1は須恵器の鉢の底部。2は陶器の取っ手部。器形は不明。取っ手の裏にススが付着している。3は陶器の灯火具。4は土師質の火鉢か？脚部の一部がアーチ状になっている。

土坑

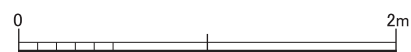
13号土坑 (SK13) (第2図，図版7-⑥)

調査区西側の隅付近から検出した土坑で、長軸1.3m、短軸1.3m、深さ最大30cmの不整形である。北側は調査区外に続いている。土坑の平面は隅丸方形である。土層は黒色土が水平に堆積している。出土遺物はわずかだが全て小片のため図示出来なかった。

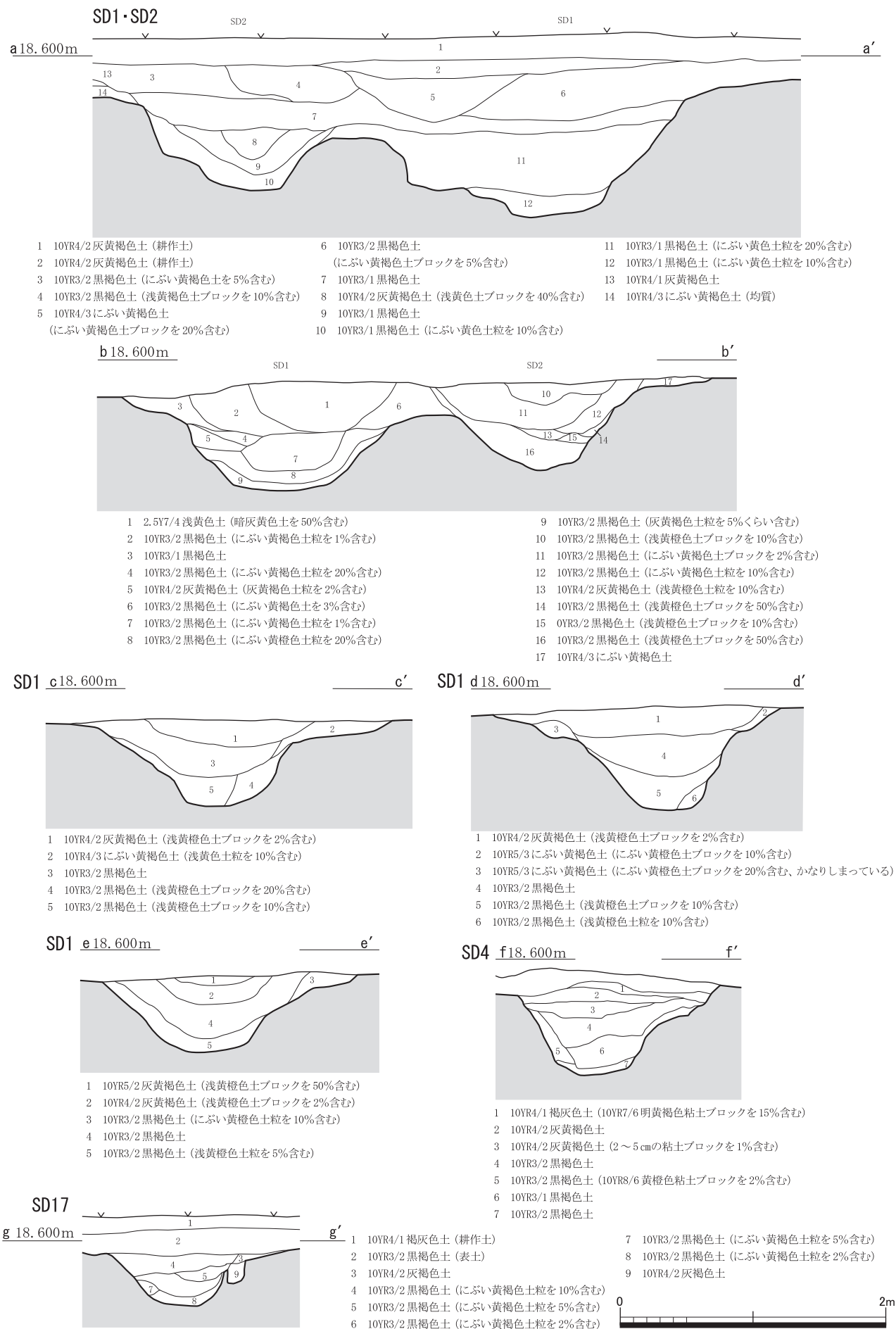
SK13



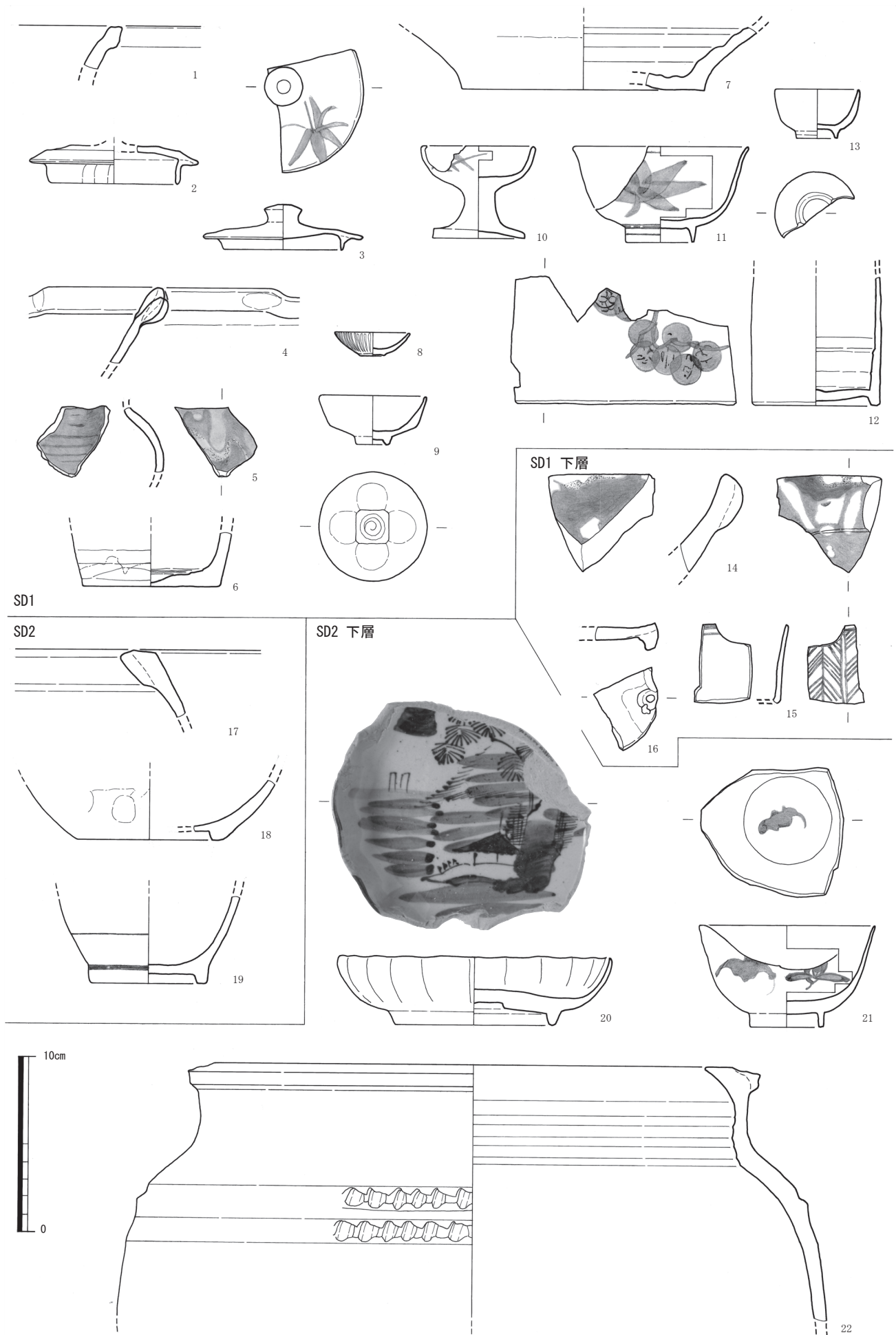
- 1 10YR4/2 灰黄褐色土 (耕作土)
- 2 10YR3/2 黒褐色土 (にこい黄褐色土を5%含む)
- 3 10YR4/1 灰黄褐色土
- 4 10YR4/3 にこい黄褐色土 (均質)
- 5 10YR3/1 黒褐色土 (にこい黄褐色土ブロックを5%含む)
- 6 10YR3/2 黒褐色土 (にこい黄褐色土ブロックを5%含む)
- 7 10YR3/2 黒褐色土 (にこい黄褐色土ブロックを10%含む)
- 8 10YR3/2 黒褐色土 (均質)



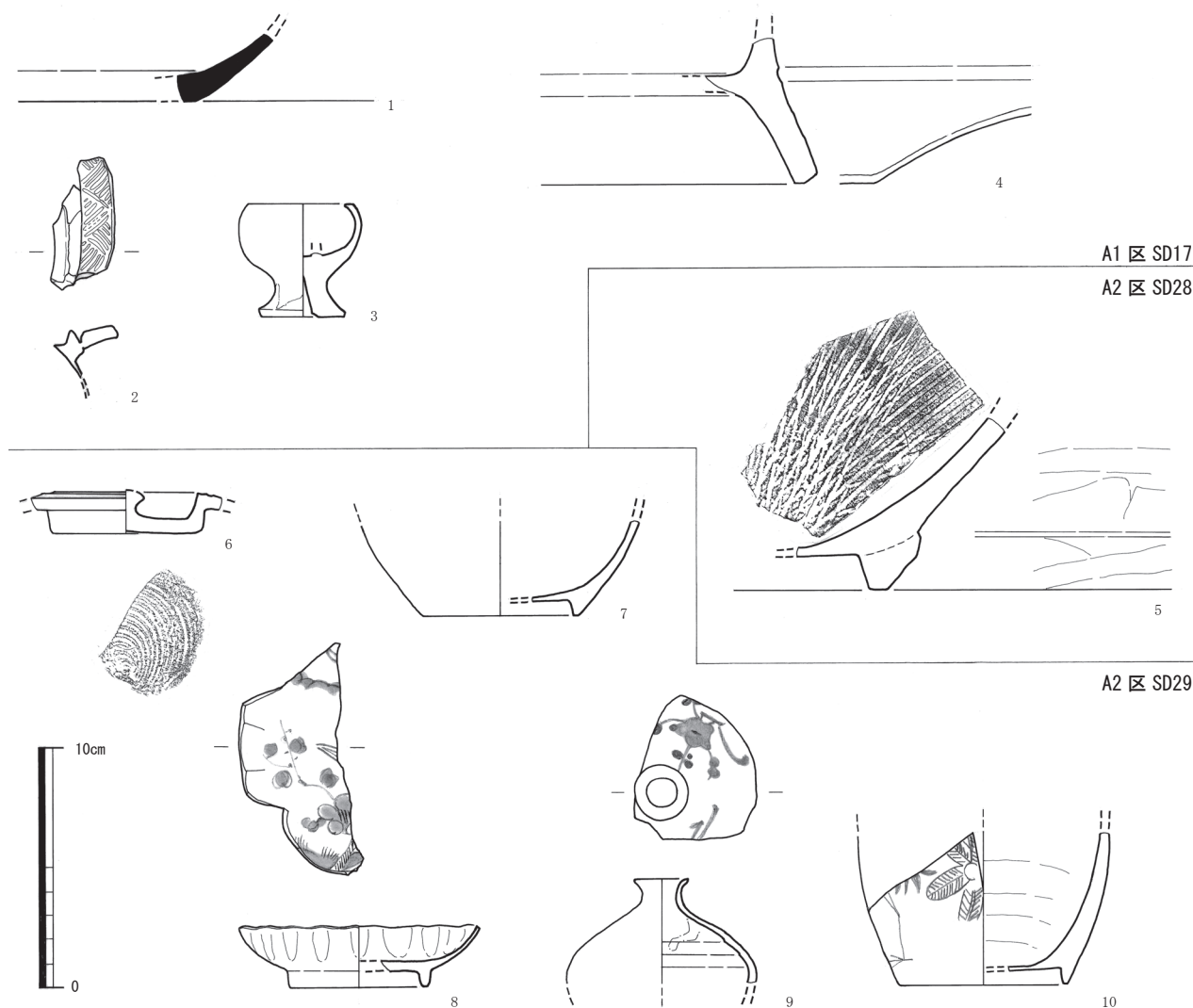
第2図 A1区 13号土坑 土層断面図 (S=1/40)



第3図 A1区 1号、2号、4号、17号溝 土層断面図 (S=1/40)



第4図 A1区 1号、2号溝 出土遺物実測図 (S=1/3)



第5図 A1区 17号溝、A2区 28号、29号溝 出土遺物実測図 (S=1/3)

A2区 遺構と遺物

溝

28号溝 (SD28) (第5図, 第6図, 図版8-①, 8-③)

調査区西側から検出した溝で、最大幅1m、長さ12.3m、深さ最大65cmである。溝の北側は調査区外へ、もう一端は調査区の西側中央あたりで西に曲がり29号溝に合流、西側調査区外へと続く。出土遺物はわずかで5の陶器のすり鉢の底部から胴部の一部のみで、すり目は少なくとも7～8条一組である。他は全て小片のため図示出来なかった。

29号溝 (SD29) (第6図, 図版8-②, 8-④)

調査区西側から検出した溝で、最大幅1.5m、長さ16.8m、深さ最大50cmである。28号溝の上を切る形で走る。溝の一端は西側調査区外に、南側もそのまま調査区外へと続くが、南地点のB3区で溝の続きを確認していないため、A2区とB3区の間で西か東に曲がるか、途中で途切れていると思われる。

溝は北に向かって傾いている。出土遺物はわずかである。

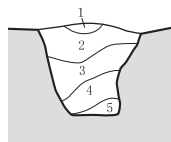
〔出土遺物〕（第5図、図版19）

6は陶器の蓋。底部に糸切りの跡あり。7は陶器の瓶。底部は碁笥底となる。8は磁器の染付皿。梅木文を描く。9は磁器の徳利。梅木文を描く。10は磁器の瓶。色絵付を施しており、花と鳥の足の
ような文様あり。

A2 区

SD28

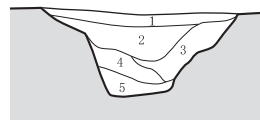
a 18.800m a'



- 1 10YR3/2 黒褐色土（にぶい黄褐色土粒を10%含む）
- 2 10YR3/1 黒褐色土（にぶい黄褐色土粒を10%含む）
- 3 10YR3/1 黒褐色土（にぶい黄褐色土粒を5%、灰色土粒を5%含む）
- 4 10YR3/1 黒褐色土（灰色土ブロックを10%含む）
- 5 10YR3/1 黒褐色土（灰色土粒を5%、にぶい黄褐色土粒を5%含む）

SD29

b 18.800m b'



- 1 10YR3/1 黒褐色土
- 2 7.5YR3/1 黒褐色土（10YR7/5 黄橙色粘土ブロックをわずにか含む）
- 3 10YR3/2 黒褐色土（10YR7/5 黄橙色粘土ブロックを若干含む）
- 4 10YR3/2 黒褐色土
- 5 10YR3/3 暗褐色土



第6図 A2 区 28号、29号溝 土層断面図 (S=1/40)

井戸

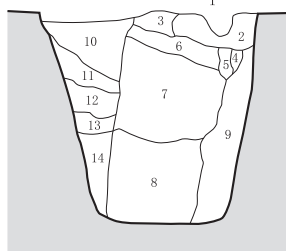
1号井戸 (SE1) (第7図、図版8-⑤)

調査区南壁付近から検出した井戸跡で、長軸 1.3m、短軸 80cm、深さ最大 1.1m の不整形形である。全体の約半分しか確認できず、調査区南壁の土層断面から素掘りの井戸と推定する。出土遺物はわずかであった。上層の埋土からのみの出土で、裏込め埋土や井戸枠内埋土からの出土遺物はなかった。遺物は全て小片のため図示出来なかった。

A2 区

SE1

c 18.800m c'

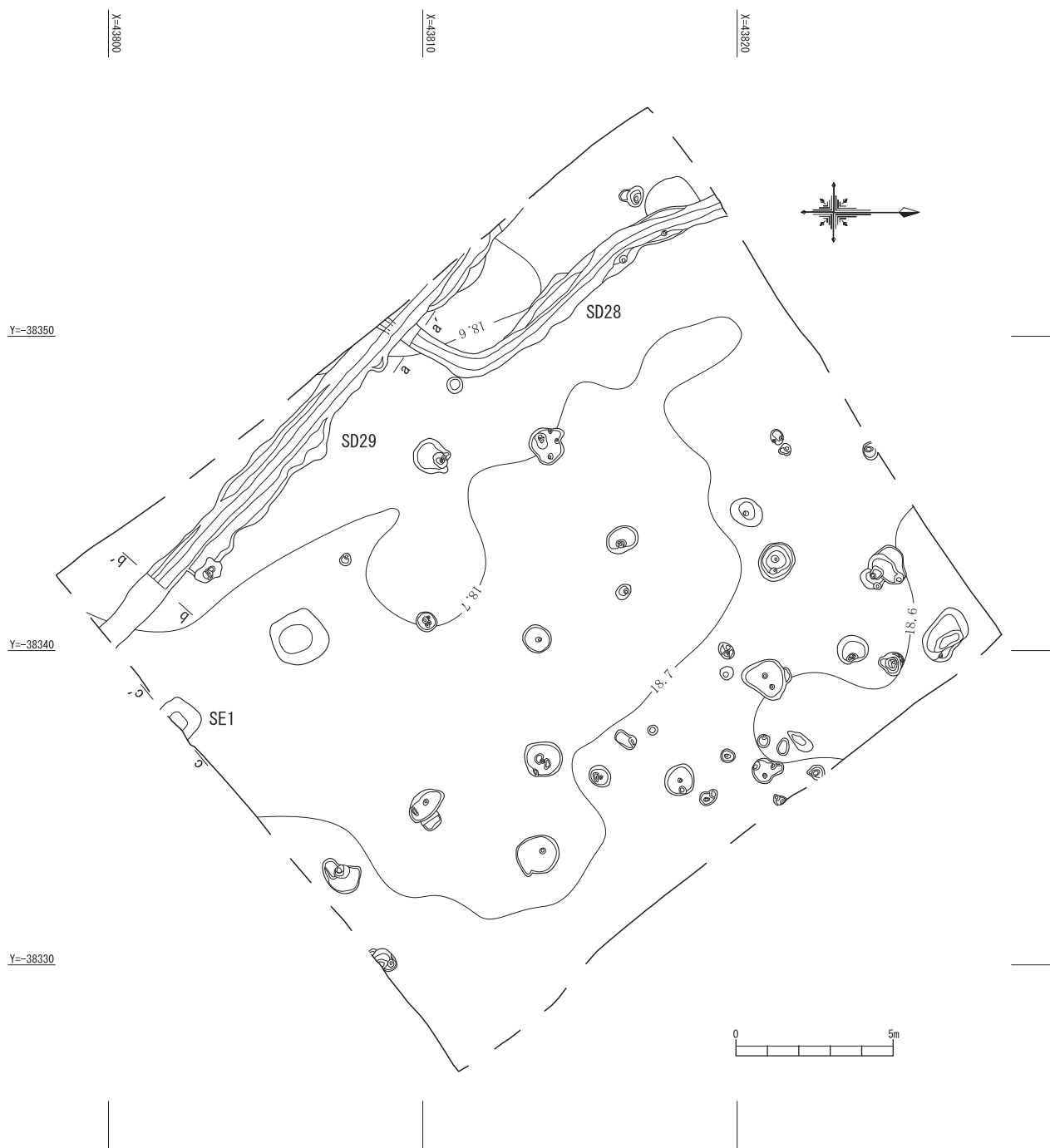


- 1 10YR4/1 褐灰色土（耕作土）
- 2 10YR4/1 褐灰色土（灰色土ブロック 70%含む）
- 3 10YR3/1 黒褐色土（灰色土ブロック 5%含む）
- 4 10YR3/1 黒褐色土（灰色土ブロック 10%含む）
- 5 10YR3/1 黒褐色土（灰色土ブロック 5%含む）
- 6 10YR4/1 褐灰色土（灰色土ブロック 10%含む）
- 7 10YR3/1 黒褐色土（灰色土ブロック 10%、淡黄褐色土粒を 10%含む）
- 8 10YR3/1 黒褐色土（灰色土ブロック 30%含む）
- 9 10YR7/2 明褐色土（にぶい褐色土ブロック 50%含む）
- 10 10YR4/1 褐灰色土（灰色土ブロック 50%含む）
- 11 10YR4/1 褐灰色土（灰色土ブロック 30%含む）
- 12 10YR3/1 黒褐色土（灰色土ブロック 5%含む）
- 13 10YR5/2 灰褐色土（灰色土ブロック 5%含む）
- 14 10YR7/2 明褐色土（にぶい褐色土ブロック 30%含む）

井戸枠内埋土

裏込め埋土

第7図 A2 区 1号井戸 土層断面図 (S=1/40)



第9図 A2区 遺構平面図 (S=1/200)

B1 区 遺構と遺物

溝

2 号溝 (SD2) (第 10 図, 図版 8-⑥, 9-①)

調査区中央から検出した溝で、最大幅 1.3m、長さ 23.5m、深さ最大 50cm である。溝の北側は A1 区からの続きで南側はそのまま調査区外まで続く。溝は A1 区の 2 号溝同様、北に向かって傾いている。遺物は溝全体から出土した。

〔出土遺物〕(第 13 図, 図版 19, 図版 20)

1 は陶器の土瓶の蓋。底部に糸切りの跡。2 は陶器の灯明皿。底部に糸切りの跡。3 は磁器の碗。色絵付を施しており何かしらの魚類を描いている。4 は磁器の皿。見込みに墨書あり。

14 号溝 (SD14) (第 10 図, 図版 9-②)

調査区西側から検出した溝で、最大幅 1m、長さ 18m、深さ最大 50cm である。溝は北に向かって傾いており、2 号溝とほぼ平行して走っているため同時期の溝と思われる。遺物は溝全体から出土した。

〔出土遺物〕(第 13 図, 図版 20)

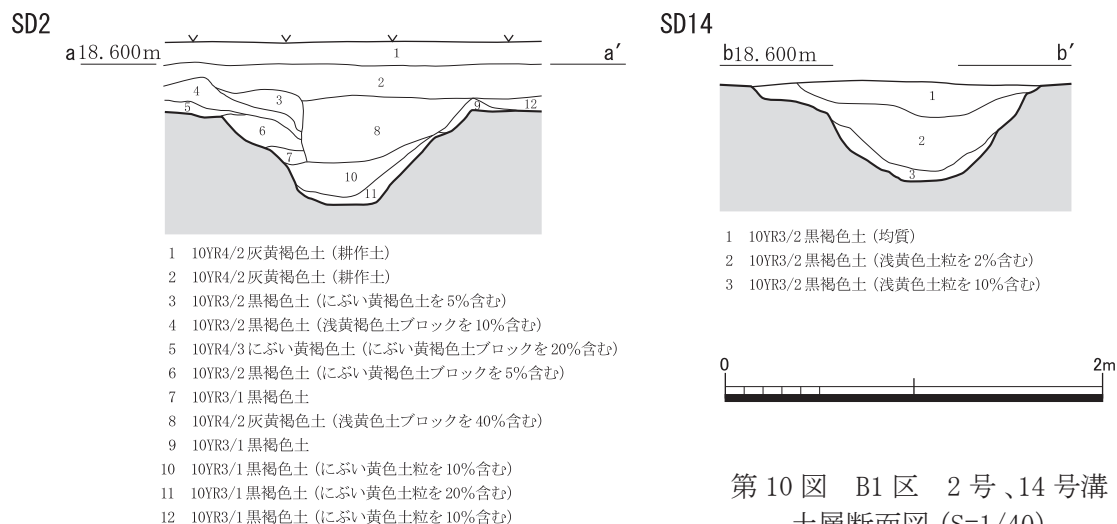
5 は陶器の火鉢。6 は陶器の五徳。7 は磁器の小壺。胴部のごく一部に金彩を施してある金欄手と思われる。

15 号溝 (SD15)

調査区中央付近南側から検出した溝で、最大幅 80cm、長さ 6.3m、深さ最大 30cm である。溝は東側に向かって終端となり西側は 2 号溝に切られるが、2 号溝の反対からは続きを検出していない。出土遺物はわずかだが全て小片のため図示出来なかった。

16 号溝 (SD16) (第 13 図, 図版 8-⑥, 9-①)

調査区中央付近北よりから検出した溝で、最大幅 70cm、長さ 3.1m、深さ最大 20cm である。溝は南に向かって終端となり北側は調査区外に続く。直線的位置関係から A1 区の 16 号溝の続きである。現代の溝と思われる。出土遺物はわずかで 8 の陶器の灯明皿の底部のみで底面に糸切りの跡がある。他は全て小片のため図示出来なかった。

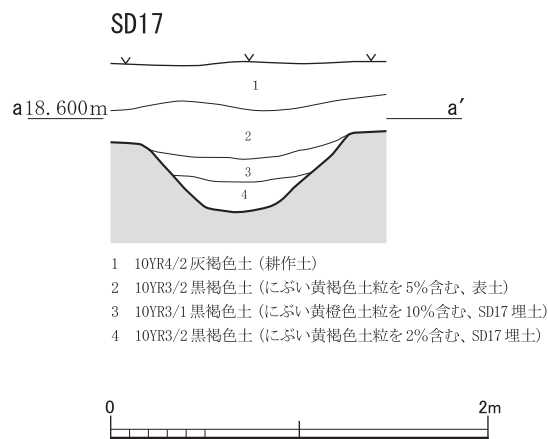


B2 区 遺構と遺物

溝

17 号溝 (SD17) (第 11 図, 図版 9-③, 9-④)

調査区東よりから検出した溝で、最大幅 1m、長さ 18.5m、深さ最大 35cm である。溝は A1 区の 17 号溝の続きで、隣の B3 区へ曲がり抜けていく。溝は北に向かって傾いている。出土遺物はわずかだが全て小片のため図示出来なかった。



第 11 図 B2 区 17 号溝 土層断面図 (S=1/40)

B3 区 遺構と遺物

溝

17 号溝 (SD17) (第 12 図, 図版 9-⑤, 9-⑥)

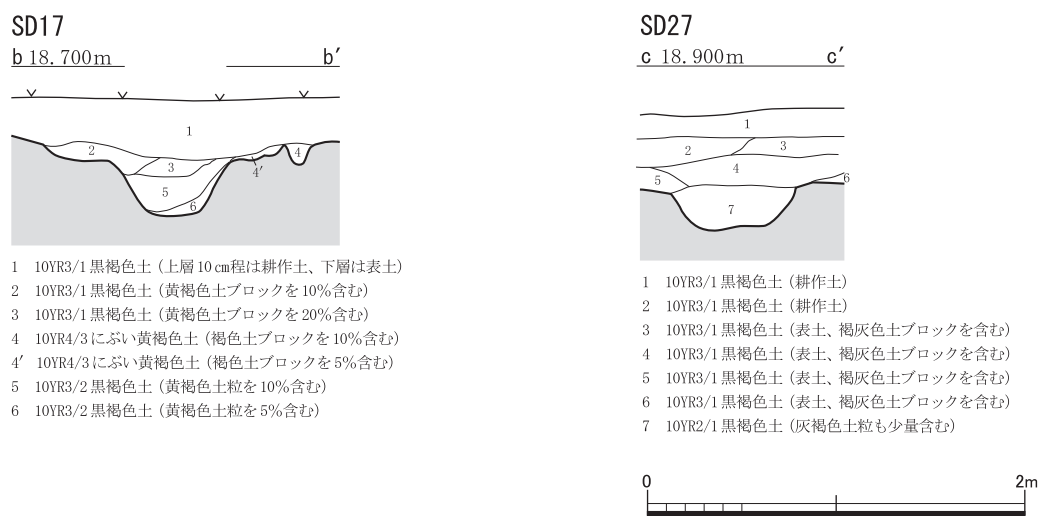
調査区中央付近東西に抜ける形で検出した溝で、最大幅 1m、長さ 22.5m、深さ最大 30cm である。西側の B2 区から曲がってきた溝で、そのまま東側調査区外まで続く。溝は西に向かって傾いている。出土遺物はわずかである。

〔出土遺物〕(第 13 図)

10 は陶器の鉢。口縁の一部のみで、すり鉢の可能性あり。11 は磁器の染付皿。見込みに蛇ノ目釉剥ぎの跡あり。

27 号溝 (SD27) (第 12 図, 図版 10-①, 10-②)

調査区の南壁に沿う形で検出した溝で、最大幅 80cm、長さ 22m、深さ最大 25cm である。溝の断面は U 字形を呈する。溝は西側から東側に走り調査区外に続く。溝は西に向かって傾いている。出土遺物はわずかだが全て小片のため図示出来なかった。



第 12 図 B3 区 17 号、27 号溝 土層断面図 (S=1/40)

土坑

10号土坑 (SK10) (図版 10-③)

調査区中央付近 17号溝の北から検出した。直径 1m の不整円形を呈し、深さは約 10cm である。また土坑内に小さなピットが群集している。上部をかなり削平された落とし穴状遺構の可能性がある。出土遺物はなし。

11号土坑 (SK11) (第 13 図, 図版 10-④)

調査区中央付近 17号溝の北から検出した。形として直径 2m の不整円形を呈したと思われるが、土坑北側は表土剥ぎの際、剥ぎすぎにより消失した。深さは約 10cm である。土坑のほぼ中心に直径 10cm、深さ 40cm のピットが一つある。10号土坑同様、落とし穴状遺構の可能性がある。出土遺物はわずかで、9の陶器の鉢の口縁のみである。口縁は受け部と考えられる形をしているため器形は他の可能性もある。他は全て小片のため図示出来なかった。

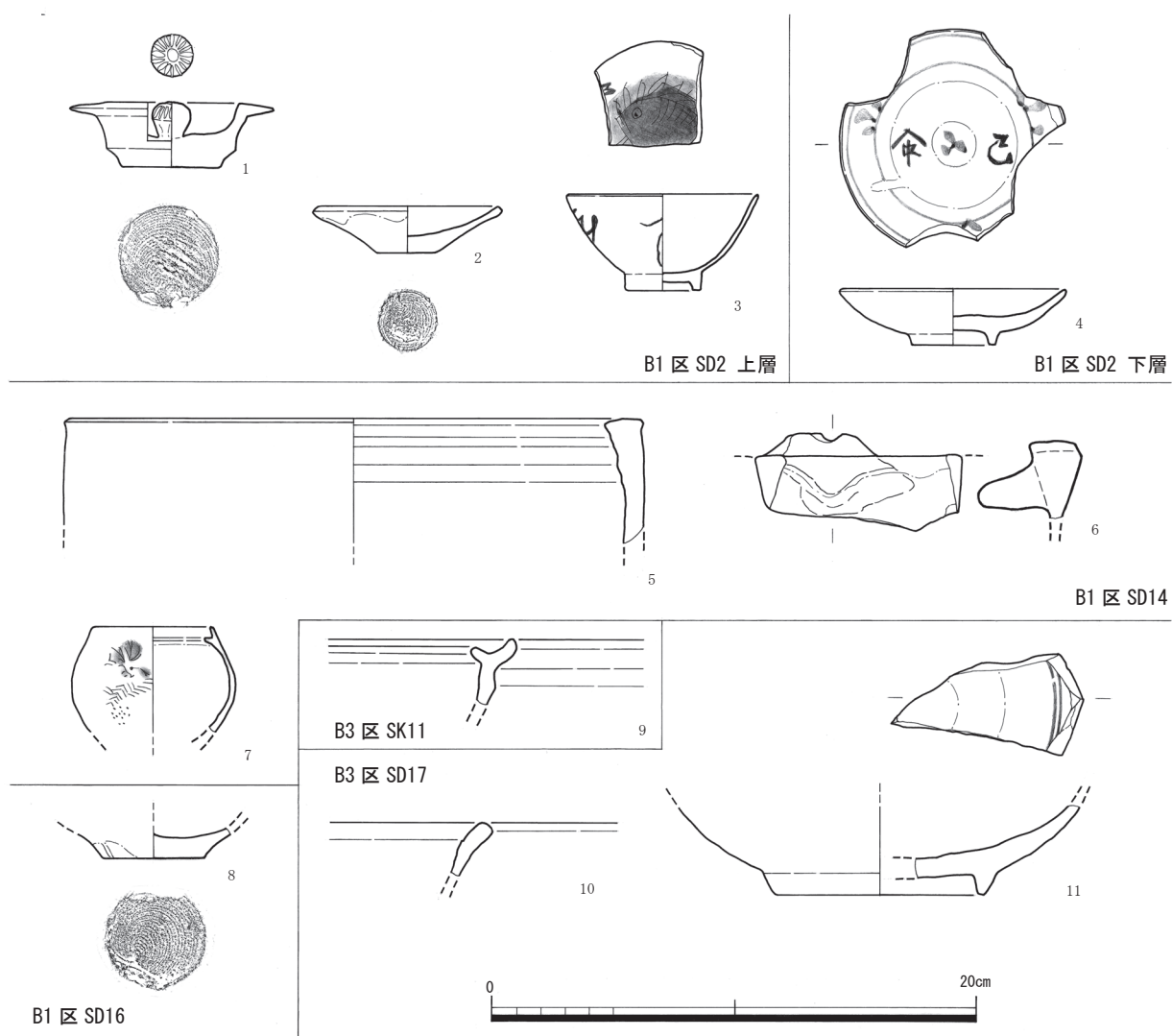
12号土坑 (SK12) (図版 10-⑤)

調査区中央付近 17号溝の北から検出した。直径約 1.5m の不整円形を呈し、深さは約 20cm である。土坑内に深さ約 20cm のピットがいくつかある。10号、11号土坑同様、落とし穴状遺構の可能性がある。出土遺物はなし。

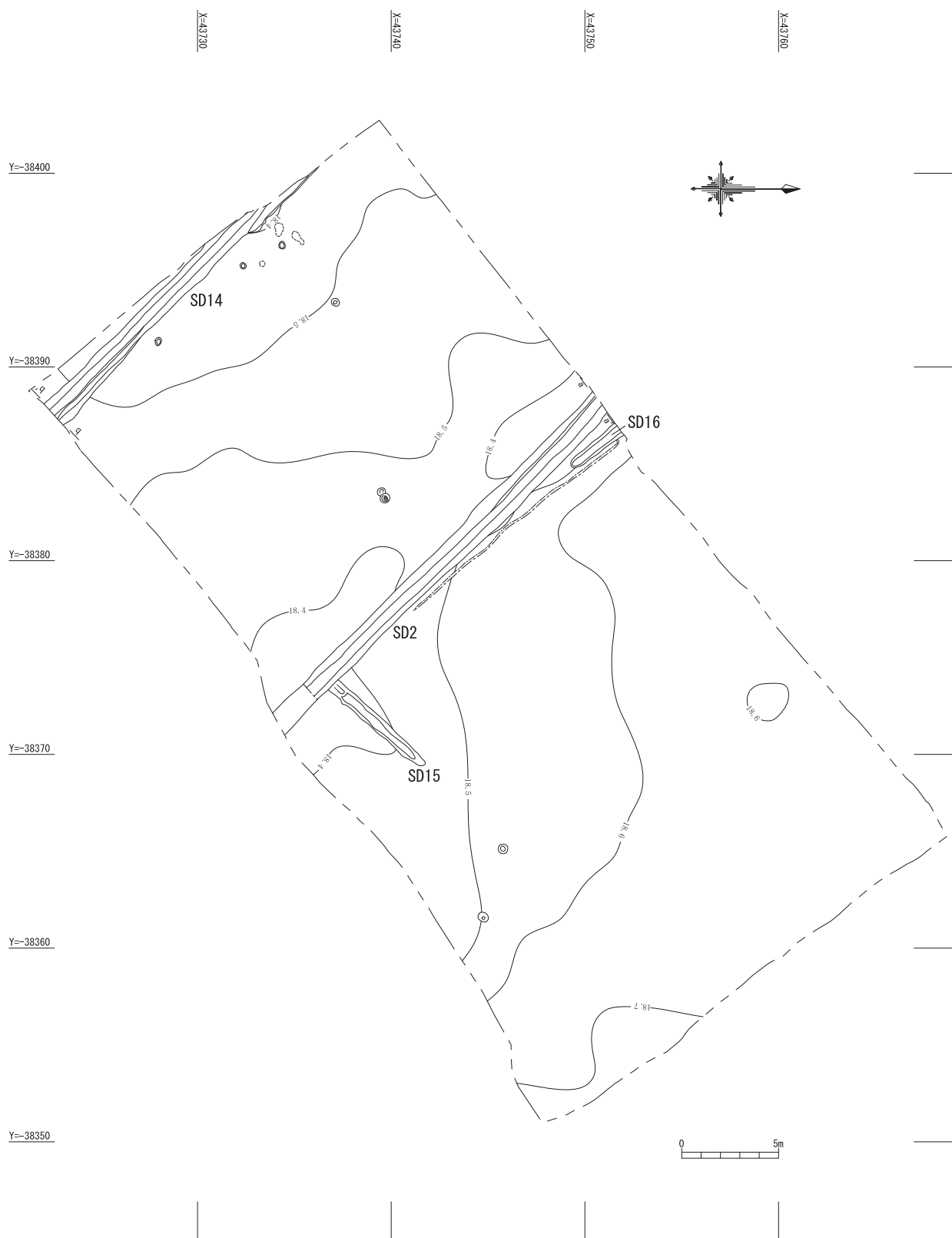
B4区 遺構と遺物

掘立柱建物跡 (第 16 図, 図版 10-⑥)

B4区の北側から掘立柱建物跡と思われるピットを7つ検出した。規模は $4.7 \times 4.6\text{m}$ を測り、ピットの深さは 5 ～ 20cm とまばらで 1間 \times 2間または 3間の東西に長い形となるが、調査区外まで建物は続くと思われる。遺構検出面からもピット内からも遺物は出土しなかった。ピットは等間隔に並んでいるため何かしらの建物が建つと考えられるが、ピットの間隔が 4.6 ～ 4.7m と広すぎることで、遺物が出土していないことから断定は出来ず、遺構時期も不明である。



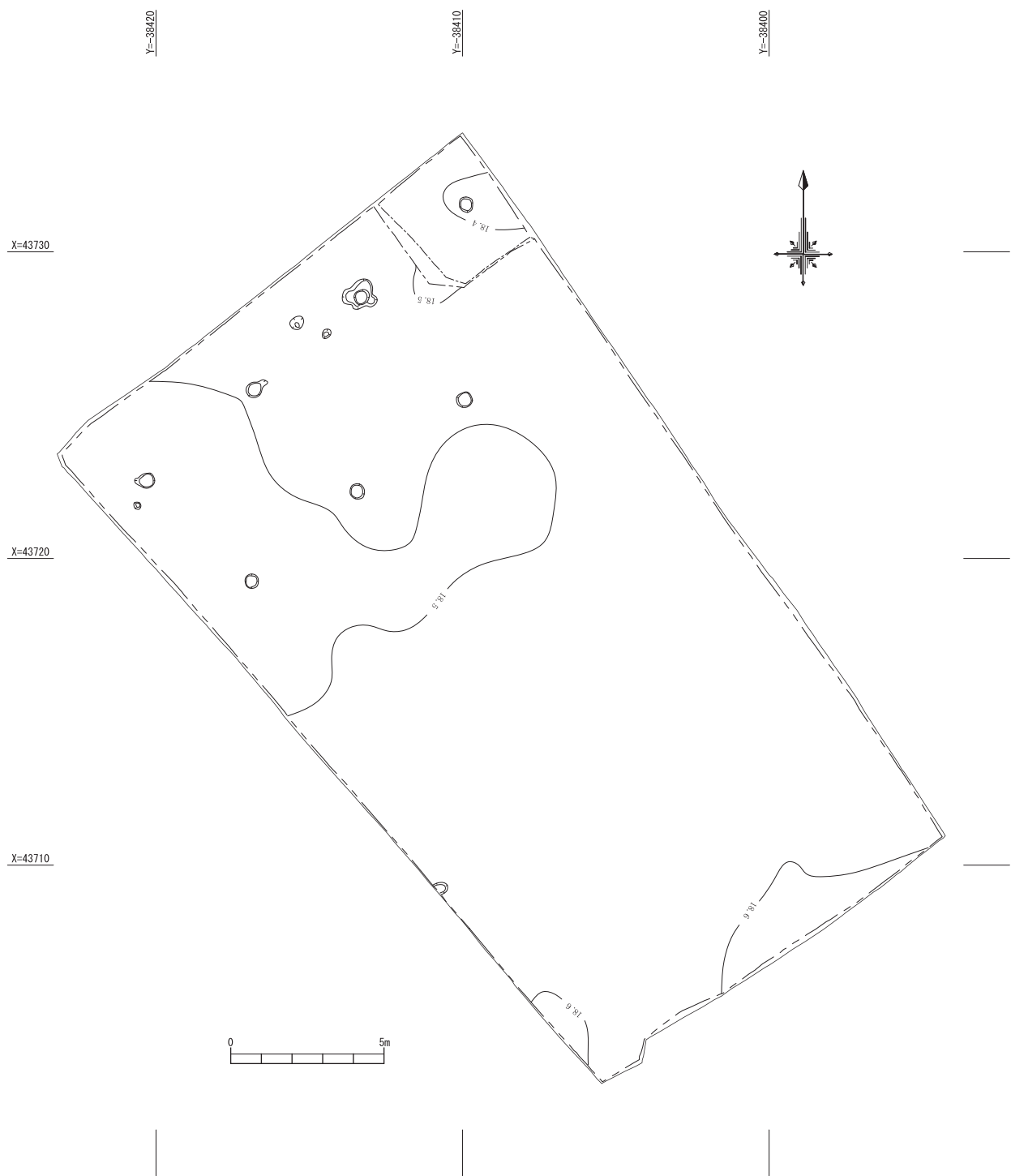
第13図 B1区 2号、14号、16号溝、B3区 17号溝、11号土坑 出土遺物実測図 (S=1/3)



第 14 図 B1 区 遺構平面図 (S=1/300)



第 15 図 B2、3 区 遺構平面図 (S=1/300)



第 16 図 B4 区 遺構平面図 (S=1/200)

C1 区 遺構と遺物

溝

20 号溝 (SD20) (第 17 図, 図版 10-⑧, 11-①)

調査区中央付近から検出した溝で、最大幅 1.2m、長さ 29.5m、深さ最大 20cm である。調査区中央付近で南側に直角に曲がりその後 C3 区まで続く。総延長距離は少なくとも 60m 以上はあると思われる。溝は南に向かって傾いている。また、本溝のすぐ北側に波板状土坑があるが、関連性は不明である。出土遺物はわずかである。〔出土遺物〕(第 23 図, 図版 20)

1 は陶器のすり鉢。6～7 条のすり目を有する。2 は陶器の碗。見込みに道具痕あり。3 は磁器の染付碗。見込みに道具の痕あり。4 は磁器の染付皿。見込みに道具の痕あり。

21 号溝 (SD21) (第 17 図)

調査区中央付近から検出した溝で、最大幅 40cm、長さ 5.5m、深さ最大 5cm である。溝は西側に向かって終端となり、東側の調査区外へと続く。出土遺物はわずかだが全て小片のため図示出来なかった。

土坑

9 号土坑 (SK9) (第 18 図)

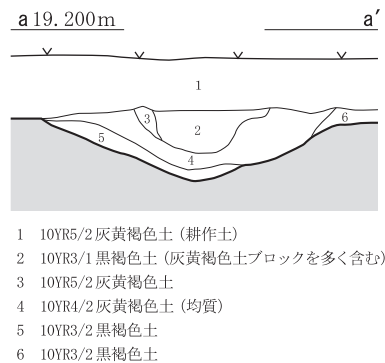
調査区の東側壁付近から検出した土坑で、長軸 90cm、短軸 80cm、深さ最大 25cm を測る。土坑の平面は隅丸長方形である。土層は黒色土が水平に堆積している。出土遺物はわずかだが全て小片のため図示出来なかった。

掘立柱建物跡

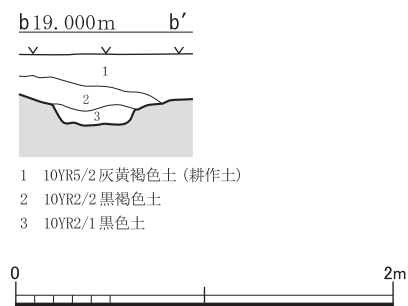
1 号掘立柱建物跡 (SB1) (第 19 図, 図版 10-⑦)

調査区中央付近の南よりから検出した掘立柱建物で、20 号溝が囲繞している。1×1 間の南北に長い掘立柱建物である。規模は 2.7m×1.3m を測り、柱穴の深さは 20cm ほどである。出土遺物はなし。

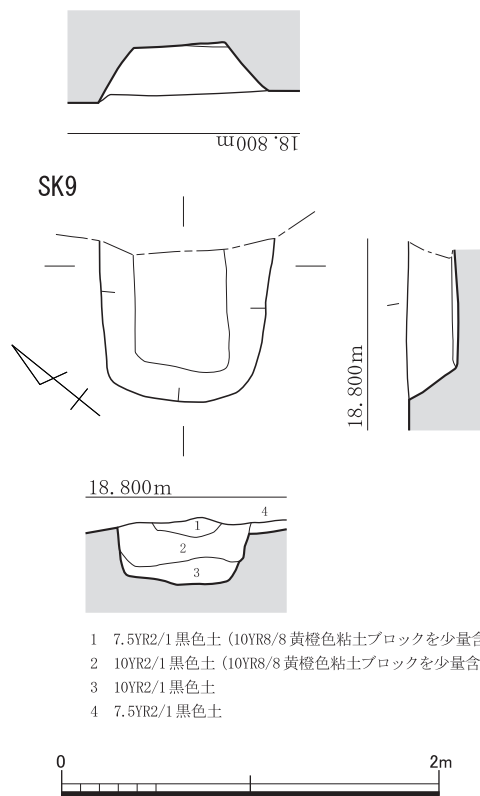
SD20



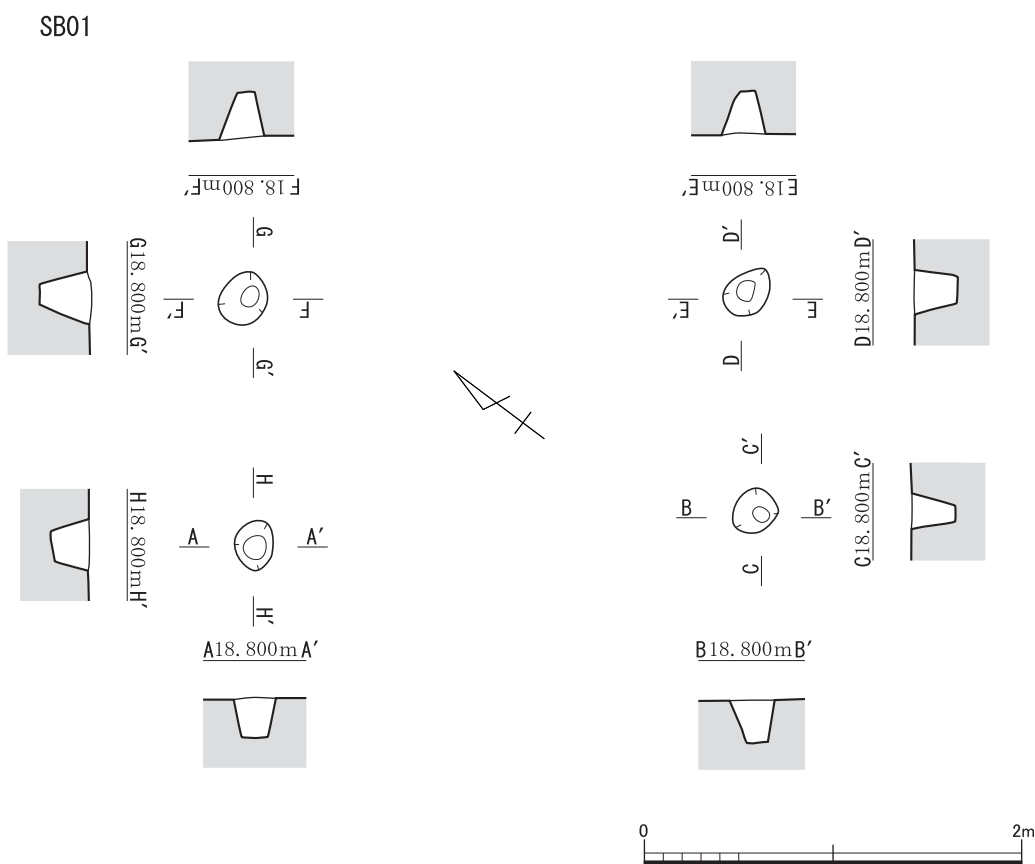
SD21



第 17 図 C1 区 20 号、21 号溝
土層断面図 (S=1/40)



第 18 図 C1 区 9 号土坑
平面図・断面図 (S=1/40)



第 19 図 C1 区 1 号掘立柱建物跡柱穴痕 平面図・断面図 (S=1/40)

C2 区 遺構と遺物

C2 区は西地点、東地点の二つに分かれている。

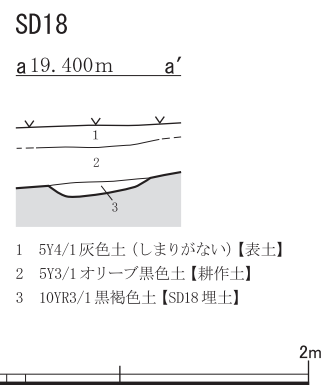
溝

18 号溝 (SD18) (第 20 図, 図版 11-③, 11-④)

C2 区西地点の調査区北西の隅付近から検出した溝で、最大幅 60cm、長さ 10m、深さ最大 5cm である。溝は直角に曲がり、北側へと続く。溝の直角する付近で 8 号土坑に切られる。出土遺物はなし。

19 号溝 (SD19)

C2 区西地点の中央付近東よりから検出した溝で、最大幅 60cm、長さ 14m、深さ最大 5cm である。溝は東西に走る浅い溝で両端は調査区内で終端となっている。しかし、位置的に C2 区東地点の 25 号溝の続きである可能性が高



第 20 図 C2 区 18 号溝
土層断面図 (S=1/40)

い溝と思われる。

23 号溝 (SD23) (第 23 図, 図版 11-⑥)

C2 区東地点の調査区中央付近から検出した溝で、最大幅 40cm、長さ 27m、深さ最大 15cm である。24・25・26 号溝に切られる。溝は調査区を縦断する形で途切れながら南北調査区外まで続く。後述する D2 区の SD43 と同一の溝と思われる。出土遺物はわずかで 5 の磁器の染付碗のみで、他は全て小片のため図示出来なかった。

24 号溝 (SD24)

C2 区東地点の調査区南側から検出した溝で、最大幅 40cm、長さ 11m、深さ最大 10cm である。溝は東西に走る形で、東に向かって終端となり、西側は調査区外まで続く。しかし、C2 区西地点で溝の続きを検出していないため、C2 区の二地点の間で途切れるものと思われる。遺構検出面が浅く、溝も浅いため、現代の溝と思われる。

25 号溝 (SD25)

C2 区東地点の調査区ほぼ中央よりから検出した溝で、最大幅 80cm、長さ 9.2m、深さ最大 2cm である。溝は途切れながらも東西に続き、東に向かって終端となり、西側は調査区外まで続く。また、前述したが、直線的位置関係で西地点の 19 号溝の続きである可能性が高い。遺構検出面が浅く、溝の深さも浅いため、現代の溝と思われる。

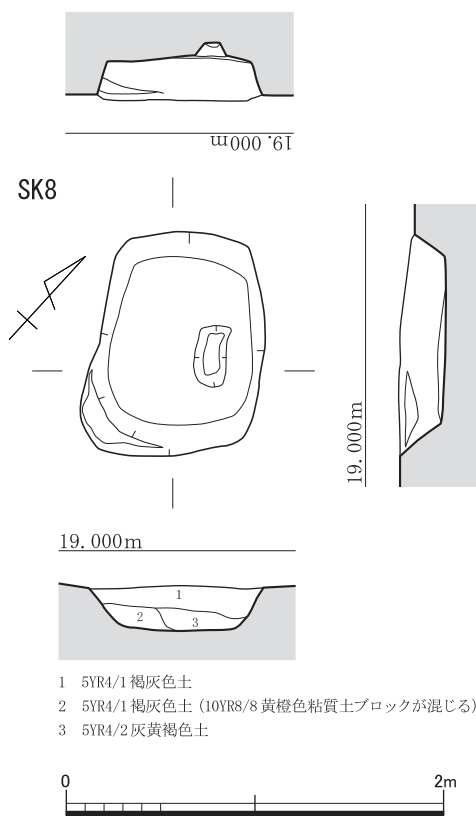
26 号溝 (SD26)

C2 区東地点の調査区北よりから検出した溝で、最大幅 40cm、長さ 11m、深さ最大 5cm である。溝は東西を走る形で、東に向かって終端となり、西側は調査区外まで続く。しかし、C2 区西地点で溝の続きを検出していないため、C2 区の二地点の間で途切れるものと思われる。遺構検出面が浅く、溝の深さも浅いため、現代の溝と思われる。

土坑

8 号土坑 (SK8) (第 21 図, 図版 11-⑤)

C2 区西地点の調査区西側から検出した土坑で、長軸 1.2m、短軸 0.9m、深さ最大 25cm を測る。18 号溝を切る。遺構の平面は方形で、底面が一部ピット状に窪む。土層は水平に堆積している。出土遺物はわずかだが全て小片のため図示出来なかった。



第 21 図 C2 区 8 号土坑土層断面図、
平面図・断面図 (S=1/40)

C3 区 遺構と遺物

溝

20 号溝 (SD20) (第 22 図, 図版 11-⑦, 11-⑧)

調査区中央付近東よりから検出した溝で、最大幅 1m、長さ 22m、深さ最大 30cm である。溝は南北を走る形で、北側は調査区外まで続き、前述の C1 区の続きである。そのまま南に下らず、東側調査区外に折れ曲がり続く。また、折れ曲がる直前で 30 号溝と直角に合流する。溝は南に向かって傾いているが、壁際の曲がり角付近も 30 号溝の合流地点に向かって傾いており、そのままぶつかって 30 号溝の方へ流れ込むものと思われる。出土遺物はわずかである。

〔出土遺物〕(第 23 図, 図版 21)

6 と 7 はともに磁器の染付碗。6 は見込みにコンニャク印判の文様。7 は見込みの文様の上に重ね焼きによる輪状の痕跡がある。

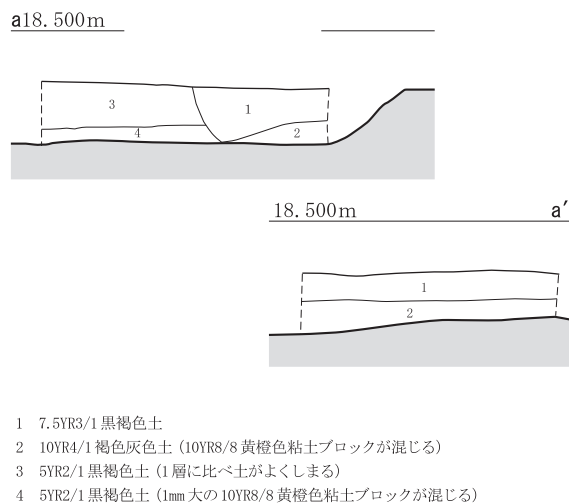
30 号溝 (SD30) (第 22 図, 図版 12-①)

調査区中央付近南よりから検出した溝で、最大幅 1.4m、長さ 9.3m、深さ最大 35cm である。東西に走る形で、東側は調査区外まで続き、西側は 20 号溝に合流する。出土遺物はわずかである。

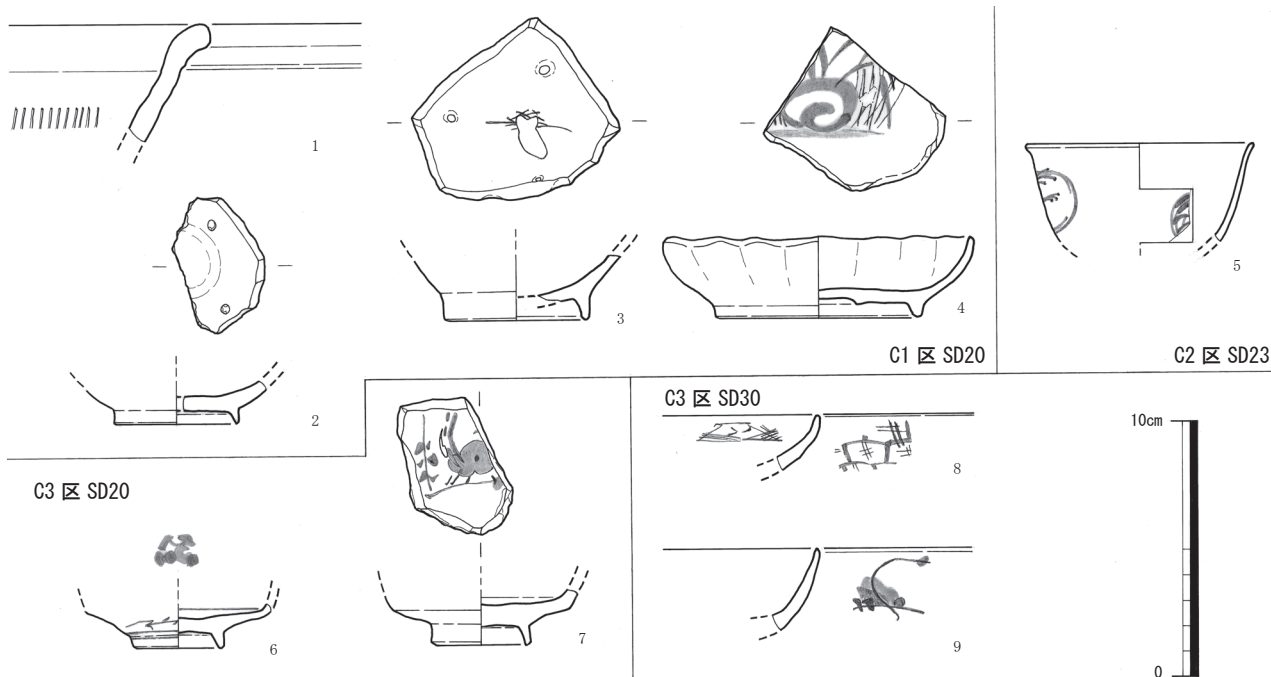
〔出土遺物〕(第 23 図)

8 は磁器の染付皿。9 は磁器の染付碗。

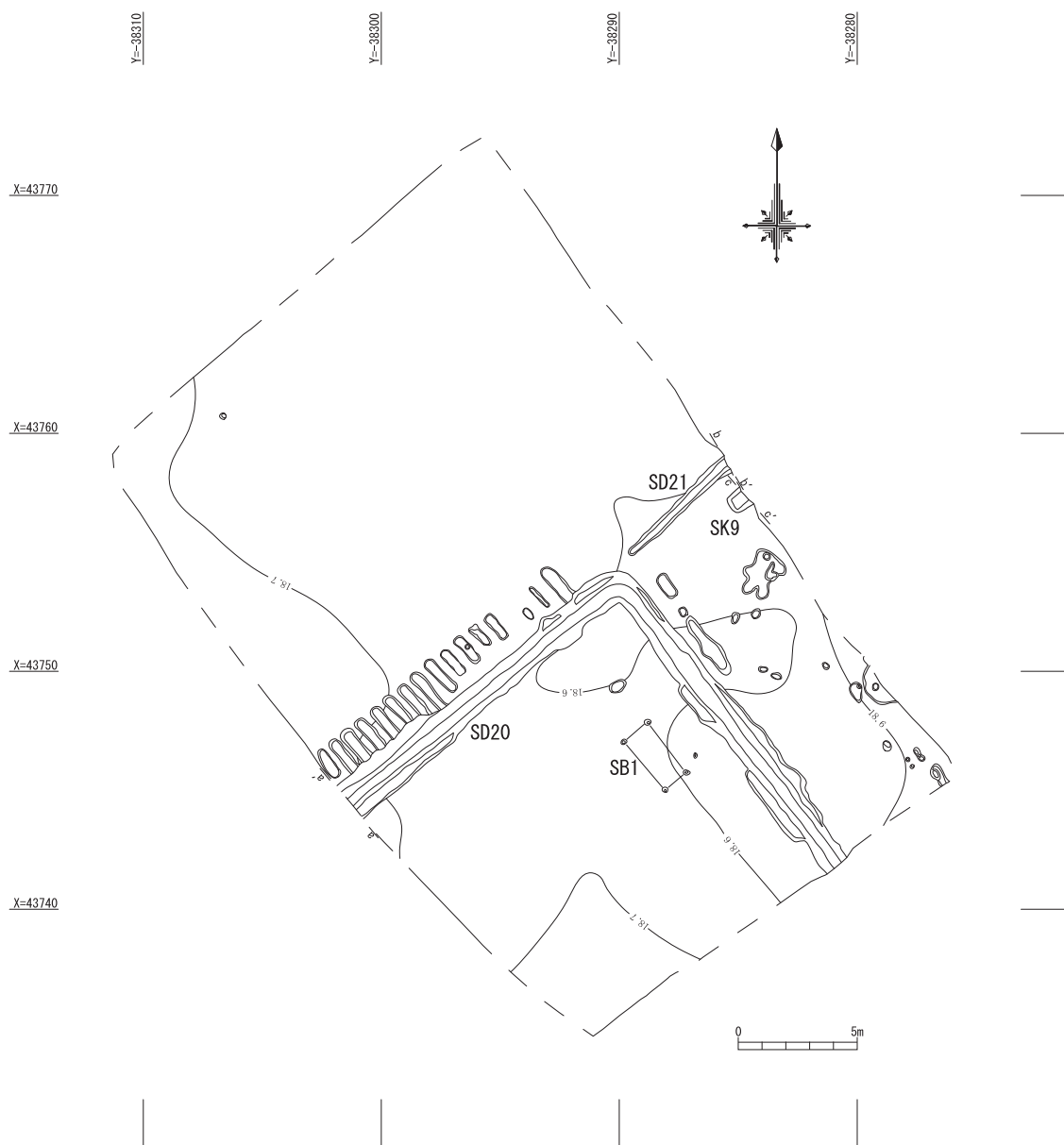
SD20・SD30



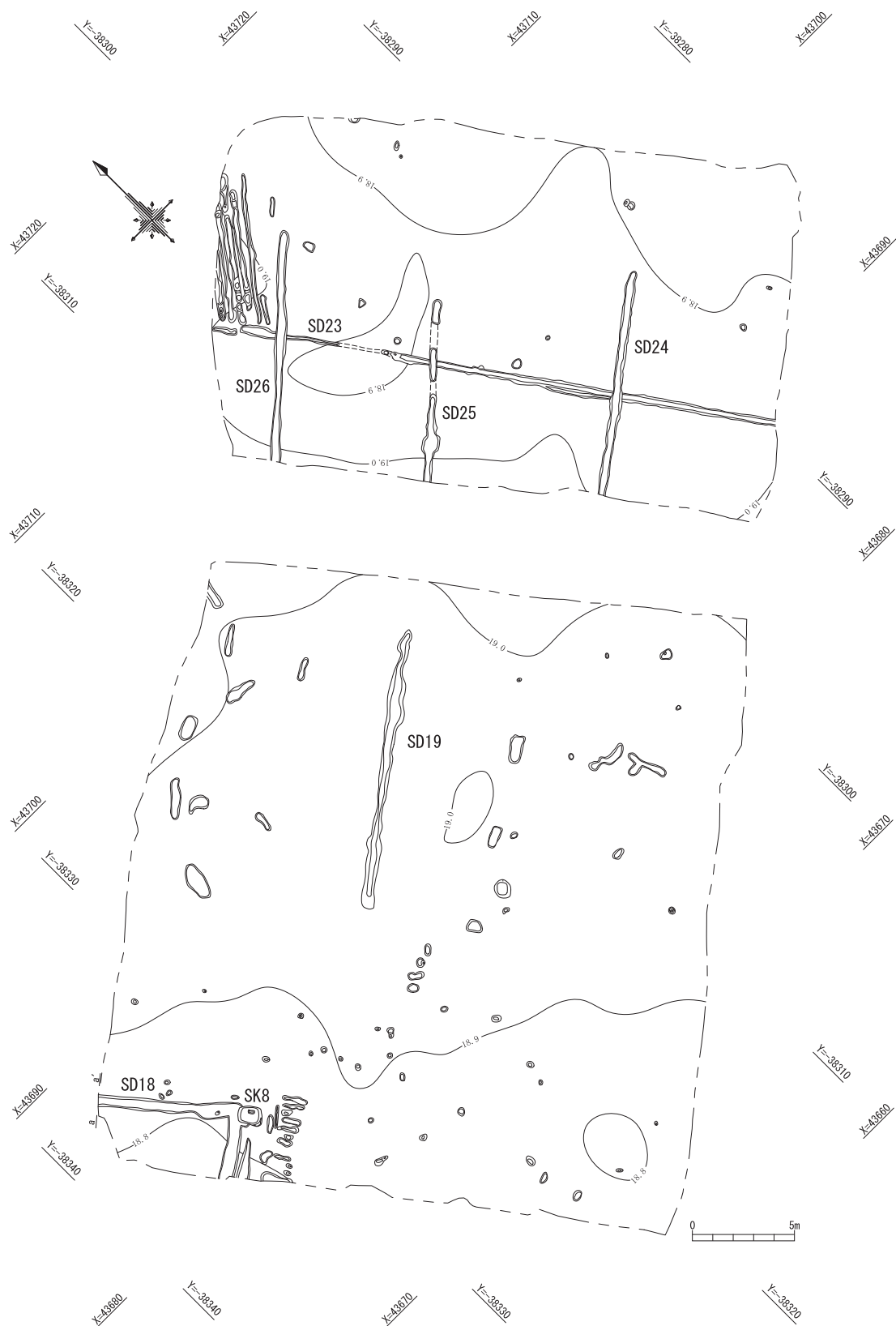
第 22 図 C3 区 20 号、30 号溝
切り合い土層断面図 (S=1/40)



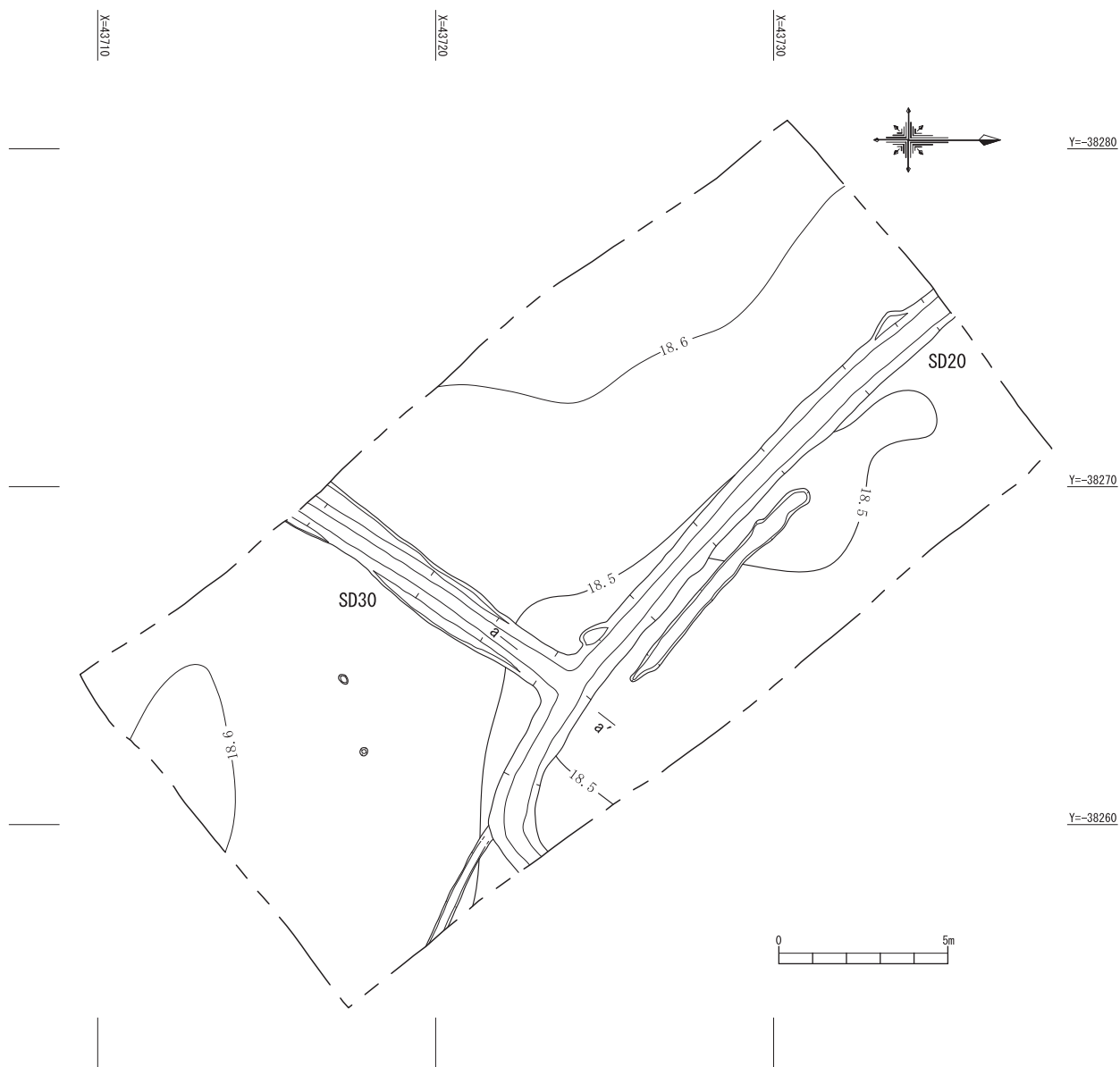
第 23 図 C1 区 20 号溝、C2 区 23 号溝、C3 区 20 号、30 号溝 出土遺物実測図 (S=1/3)



第 24 図 C1 区 遺構平面図 (S=1/300)



第 25 図 C2 区 遺構平面図 (S=1/300)



第 26 図 C3 区 遺構平面図 (S=1/200)

D1 区 遺構と遺物

溝

34 号溝 (SD34)

調査区の北東よりから検出した溝で、最大幅 30cm、長さ 23m、深さ最大 10cm である。溝は北西から南東に走る形で、両端ともにそのまま調査区外まで続くが、北側の C2 区と南側の E2 区で溝の続きを検出していないことから D1 区の周りで途切れるものと思われる。掘削中、溝の中からビニールの堆肥袋等が出てきたこと、遺構検出面が浅いことや溝の深さが浅いことなどから、現代の溝と思われる。また、後述する 35 号、36 号溝も形態からして同様の溝であると思われる。

35 号溝 (SD35)

調査区西側から検出した溝で、幅 30cm、長さ 23m、深さ最大 20cm である。溝は南北の調査区外まで続く。前述した 34 号溝と同様である。

36 号溝 (SD36)

調査区西側から検出した溝で、幅 30cm、長さ 23m、深さ最大 15cm である。溝は南北の調査区外まで続く。前述した 34 号、35 号溝と同様である。

37 号溝 (SD37) (第 27 図, 第 28 図, 図版 12-②)

調査区全体から検出した溝で、最大幅 60cm、長さ 40m、深さ最大 35cm である。溝は南側調査区外まで続き、調査区北側付近で西に曲がりそのまま調査区内で終端となる。南側で 38 号溝と合流する。直線的な位置関係から E2 区の 12 号溝と同様の溝であると思われるが距離があるため定かではない。また、西側の終端先は 41 号溝となるが、これも同様の溝と思われる。D1 区 37 号・41 号溝、E2 区 12 号溝の三つが同じ溝であった場合、総延長距離は少なくとも 80m 以上はあると思われる。溝は北上し、曲がり西に向かって傾いている。出土遺物はわずかで 1 の磁器の碗のみである。見込みに蛇ノ目釉剥ぎの上に黒色の色絵を施している。他は全て小片のため図示出来なかった。

38 号溝 (SD38) (第 27 図, 図版 12-③, 12-④)

調査区南側から検出した溝で、最大幅 60cm、長さ 18.5m、深さ最大 50cm である。溝は東西に向かって走る形で東側は 37 号溝に合流し西側は調査区外まで続く。溝は西に向かって傾いている。出土遺物はわずかだが全て小片のため図示出来なかった。

39 号溝 (SD39) (第 27 図, 第 28 図, 図版 12-⑤)

調査区南側から検出した溝で、最大幅 40cm、長さ 19m、深さ最大 10cm である。溝は東西に向かって走る形で東側は調査区内で終端となり、西側は調査区外まで続く。

出土遺物は 2 の磁器の染付碗のみで、他は全て小片のため図示出来なかった。

40 号溝 (SD40) (第 27 図, 図版 12-⑥, 12-⑦, 13-②)

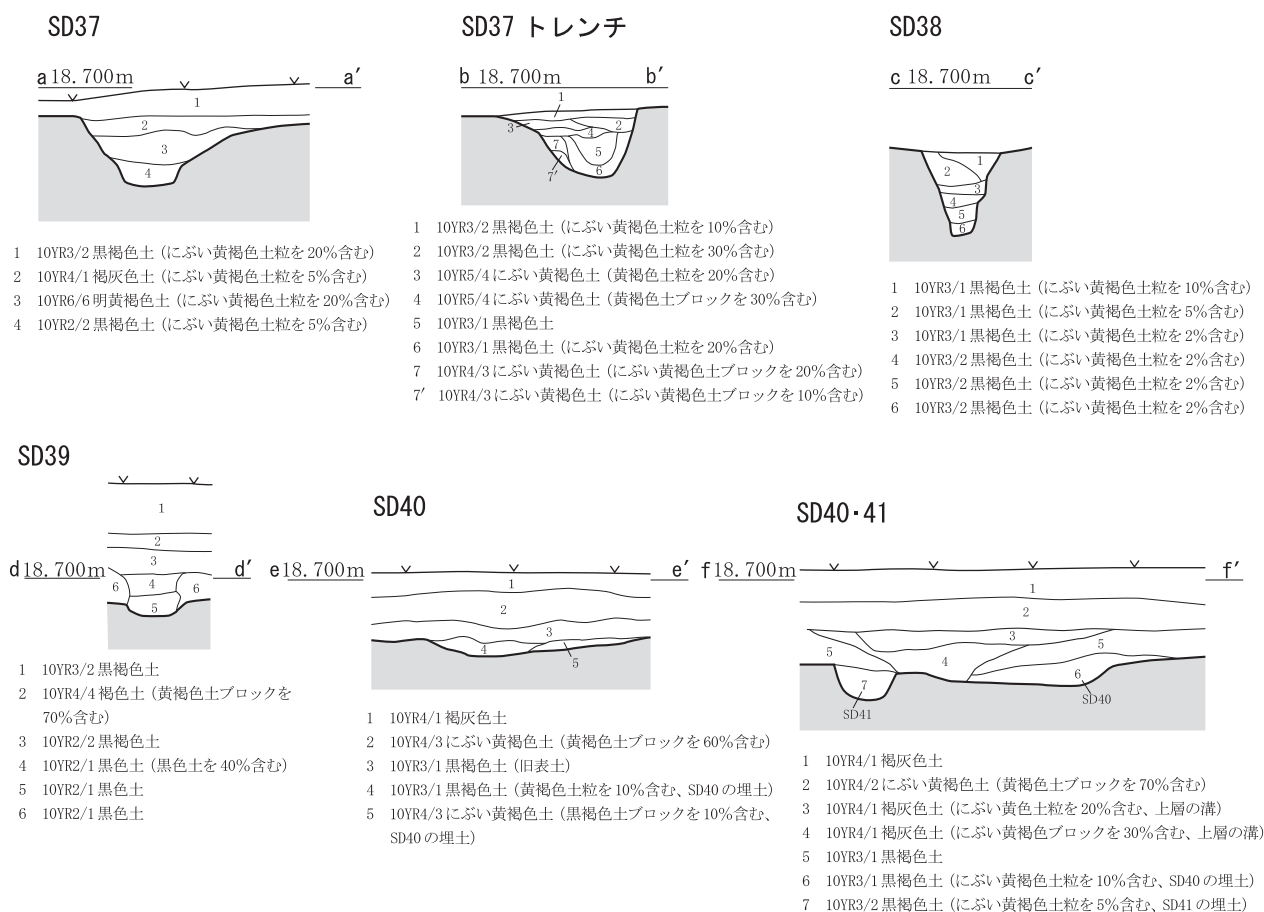
調査区北西側から検出した溝で、最大幅 1.2m、長さ 15m、深さ最大 10cm である。溝は北側調査区

外まで続き溝の途中で直角に曲がり西側調査区外まで続く。溝は南下し西に向かって傾いている。東西に走る溝の下層から焼土と思われる赤色土を検出した。しかし、本溝の曲がった先の北部分では焼土は検出しておらず、また、隣の41号溝でも焼土のようなものは検出されなかった。出土遺物はわずかだが全て小片のため図示出来なかった。

41号溝 (SD41) (第27図, 図版13-①, 13-②)

調査区西側から検出した溝で、最大幅50cm、長さ8.7m、深さ最大15cmである。溝は東西に走る形で東側は調査区内で終端となり西側は調査区外まで続く。東側の終端先は37号溝となり同様の溝と思われる。溝は西に向かって傾いている。出土遺物はわずかだが全て小片のため図示出来なかった。

40号・41号溝の南壁土層断面から二つの溝の上を走る溝を1条確認した。しかし、土層から確認した溝は二つの溝の上を走るが、はっきりとした掘方がほとんど残っていないため、平面図上で一部のみの復元図となっている。(第27図, 第30図)



第27図 D1区 37号、38号、39号、40号、41号溝 土層断面図 (S=1/40)

D2 区 遺構と遺物

溝

43 号溝 (SD43) (図版 13-③)

調査区中央付近から検出した溝で、最大幅 2m、長さ 22.5m、深さ最大 2cm である。溝は数 cm と残りが悪い。溝は東西に走る形で東側は調査区外まで続き、途中で北に曲がり、より細くなって調査区外まで続く。D2 区の北の C2 区東地点の 23 号溝と同一の溝と思われる。出土遺物はわずかだが全て小片のため図示出来なかった。

D3 区・D4 区 遺構と遺物

溝

31 号溝 (SD31) (第 29 図, 図版 13-④, 13-⑤, 13-⑥)

D4 区の調査区中央付近と D3 区の調査区北の隅から検出した溝で、最大幅 2m、長さ 37m、深さ最大 35cm である。溝は北側調査区外まで続き、途中 S 字に曲がりくねる形で、東の曲がり角で 33 号溝が、南の曲がり角で 32 号溝がそれぞれ合流し、D3 区の北側調査区外まで続く。溝は北に向かって傾いている。また、各角で合流する溝も 31 号溝に流れ込む形になっている。出土遺物はわずかである。

〔出土遺物〕(第 28 図, 図版 21)

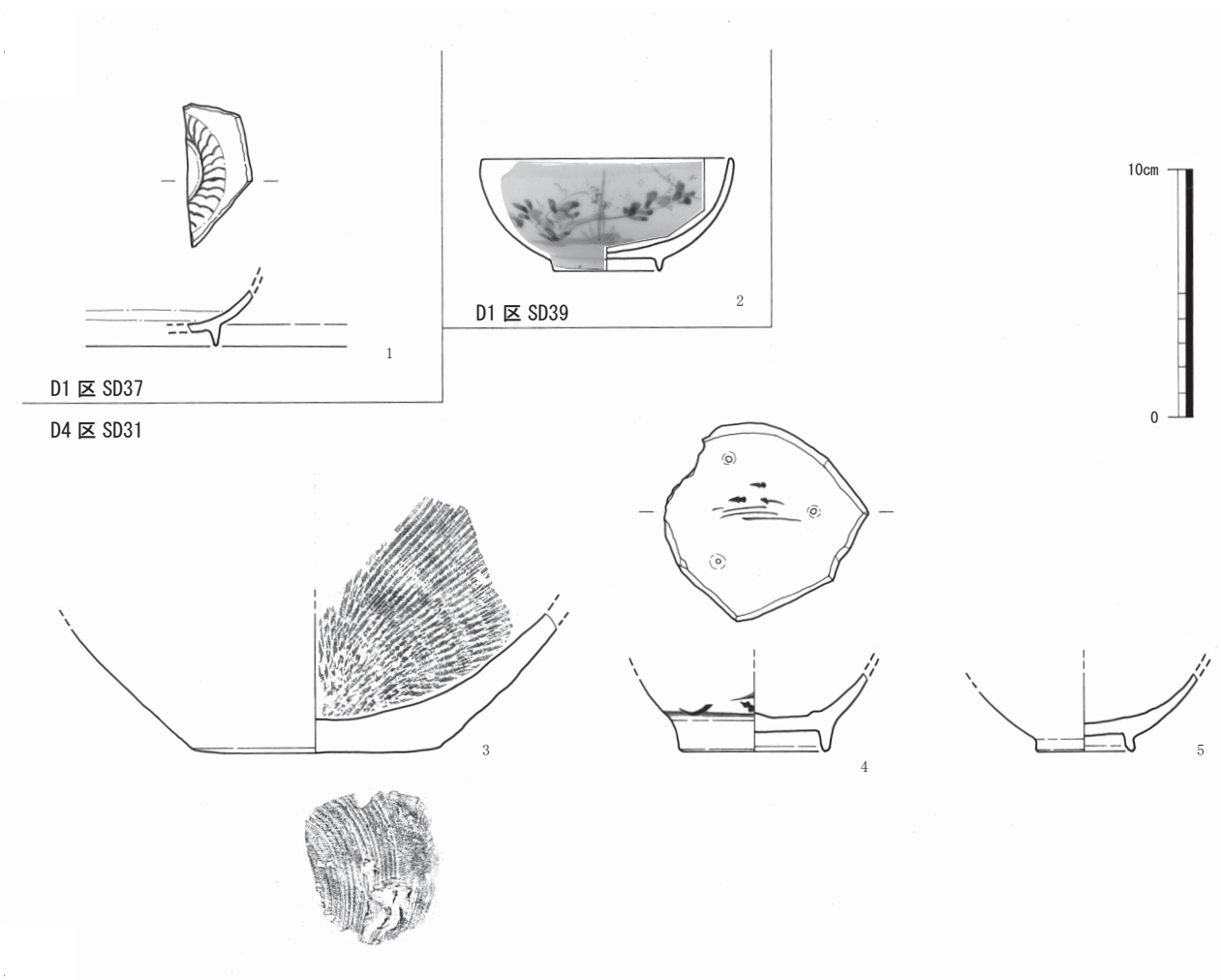
3 は陶器のすり鉢。底部に糸切りの跡あり。4 は磁器の染付碗。見込みに道具の痕あり。5 は磁器の碗。胴部外面の文様は銅板による転写で描かれている。

32 号溝 (SD32) (第 29 図, 図版 13-⑦, 14-①)

D4 区の調査区南側と D3 区の調査区東の隅から検出した溝で、最大幅 1.2m、長さ 15m、深さ最大 25cm である。溝は南北に走る形で、北は 31 号溝に合流し南は D3 区の東の隅を通過してそのまま調査区外まで南下する。溝は 31 号溝に向かって傾いており、31 号溝に流れ込む形となっている。出土遺物はわずかだが全て小片のため図示出来なかった。

33 号溝 (SD33) (第 29 図, 図版 14-②, 14-③)

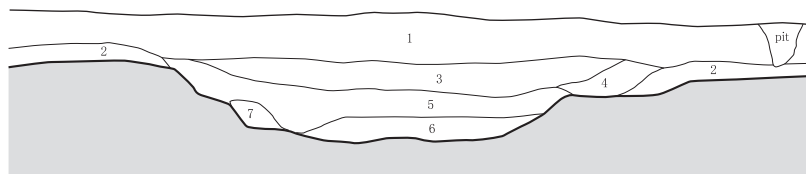
D4 区の調査区中央付近から検出した溝で、最大幅 80cm、長さ 2m、深さ最大 20cm である。溝は東西を走る形で、西側は 31 号溝と合流し東側は調査区外まで続く。溝は 31 号溝に向かって傾いており、31 号溝に流れ込む形となっている。出土遺物はわずかだが全て小片のため図示出来なかった。



第 28 図 D1 区 37 号、39 号溝、D4 区 31 号溝 出土遺物実測図 (S=1/3)

SD31

a 19. 200m

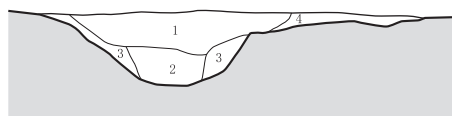


- 1 7.5YR4/1 褐灰色土 (よくしまっている)
- 2 7.5YR3/1 黒褐色土
- 3 10YR4/2 灰黄褐色土 (しまりが弱い、ボソボソの土である)
- 4 10YR3/2 黒褐色土
- 5 10YR3/3 暗褐色土 (粘質が高い)
- 6 10YR3/3 暗褐色土 (粘質が高い、2.5Y8/6 黄色粘土ブロックを微量に含む)
- 7 10YR3/3 暗褐色土 (粘質が高い、2.5Y8/6 黄色粘土ブロックを微量に含む)

SD31 トレンチ 1

b 19. 000m

b'

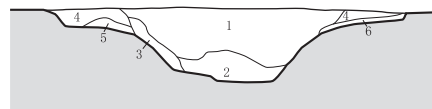


- 1 7.5YR4/1 褐灰色土 (よくしまっている、鉄分を含む)
- 2 7.5YR3/1 黒褐色土
- 3 7.5YR3/1 黒褐色土 (2.5Y8/6 黄色粘土ブロックを含む)
- 4 7.5YR5/4 にぶい黄褐色土 (しまりがなくボソボソの土)

SD31 トレンチ 2

c 19. 000m

c'

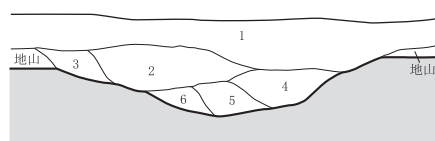


- 1 10YR4/2 灰黄褐色土
- 2 10YR4/2 灰黄褐色土
- 3 10YR4/2 灰黄褐色土 (黄色の土を少し含む)
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色土
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐色土
- 6 10YR7/4 にぶい黄褐色土

SD32

e 19. 200m

e'

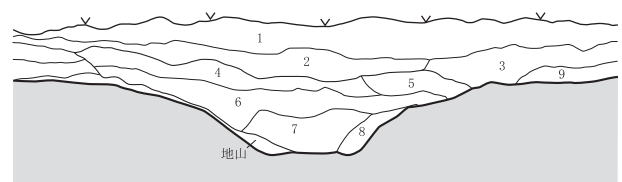


- 1 7.5YR4/1 褐灰色土 (よくしまる)
- 2 7.5YR4/1 褐灰色土 (よくしまる、鉄分を多量に含む)
- 3 2.5Y2/1 赤黒色土
- 4 7.5YR3/1 黒褐色土 (しまりが弱い、ボソボソの土)
- 5 7.5Y4/1 褐灰色土
- 6 7.5Y4/1 灰色土+2.5YR8/6 黄色粘土ブロック

SD31

d 19. 100m

d'

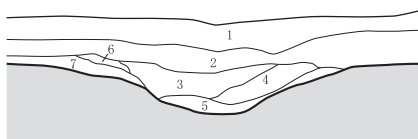


- 1 7.5YR3/2 黒褐色土+5YR4/8 赤褐色土
- 2 7.5YR2/1 黒色土+10YR6/6 明黄褐色土
- 3 10YR3/3 暗褐色土
- 4 10YR3/2 黒褐色土+10YR6/6 明黄褐色土
- 5 10YR2/2 黒褐色土+10YR6/6 明黄褐色土
- 6 2.5Y3/1 黒褐色土
- 7 2.5Y3/2 黒褐色土
- 8 2.5Y3/2 黒褐色土
- 9 10YR2/2 黒褐色土

SD33

f 19. 100m

f'

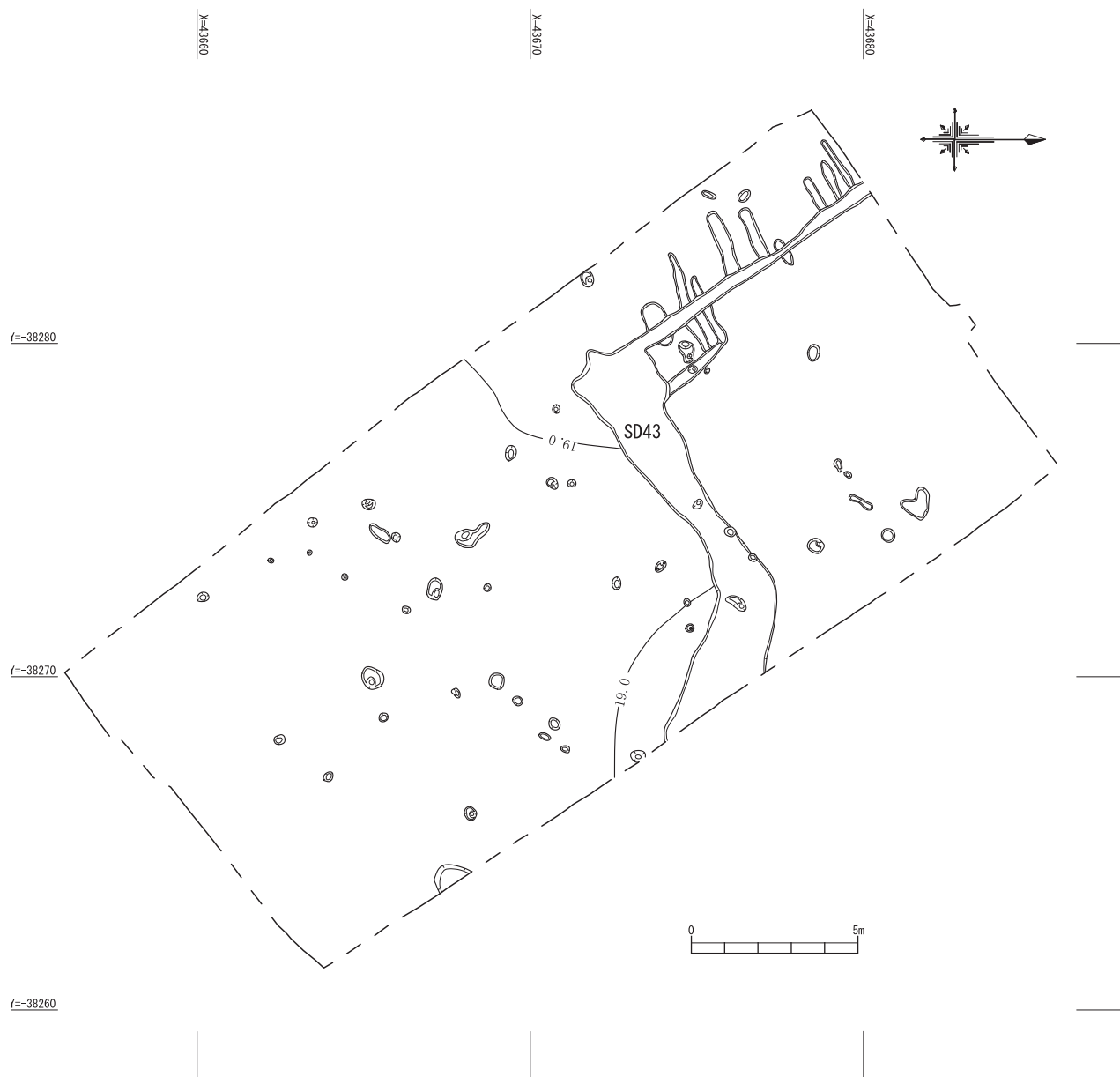


- 1 10YR2/3 黒褐色土、5YR5/8 明赤褐色土
- 2 7.5YR3/2 黒褐色土
- 3 2.5Y3/1 黒褐色土
- 4 2.5Y3/2 黒褐色土
- 5 5Y3/1 オリーブ黒色土
- 6 10YR2/3 黒褐色土
- 7 2.5Y3/2 黒褐色土

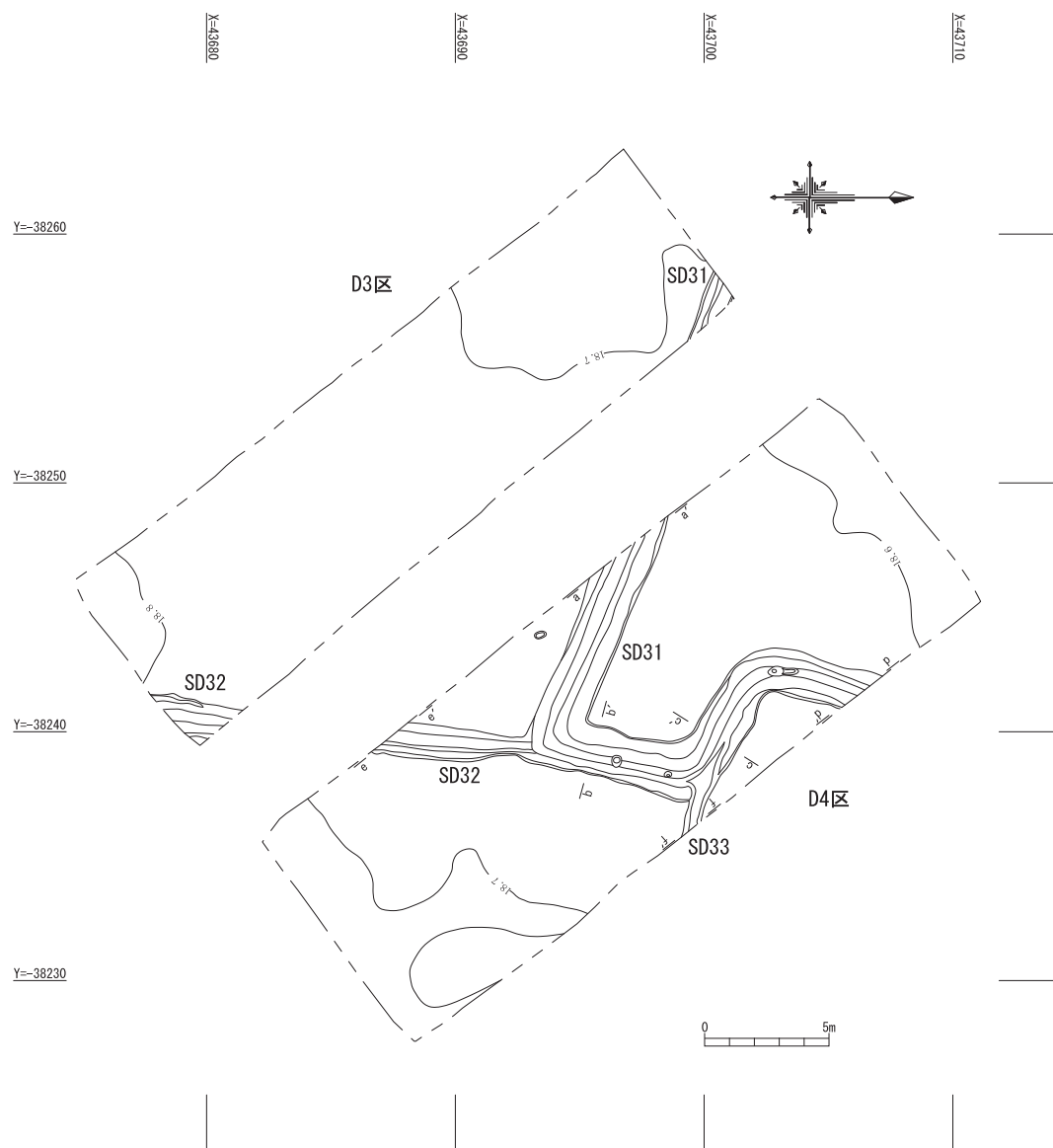




第 30 図 D1 区 遺構平面図 (S=1/300)



第 31 図 D2 区 遺構平面図 (S=1/200)



第 32 図 D3、4 区 遺構平面図 (S=1/300)

E1 区 遺構と遺物

溝

6号溝 (SD6) (第34図, 図版 14-④, 14-⑤, 14-⑦)

調査区東側から検出した溝で、最大幅 1.6m、長さ 14m、深さ最大 1m である。溝は北側の調査区外と南側の調査区外まで続く。E2 区でも 6 号溝を検出しているが、検出後すぐに、東へ屈折して攪乱によって切られている。総延長距離は少なくとも 25m 以上はあると思われる。溝は南に向かって傾いている。出土遺物はわずかである。

〔出土遺物〕(第33図)

1 は陶器の火入。外面から口縁内部までに銅緑釉がかかる。2 は磁器の染付瓶。文様は不明である。

7号溝 (SD7) (第33図, 第34図, 図版 14-④, 14-⑥, 14-⑦, 図版 21)

調査区東側から検出した溝で、最大幅 70cm、長さ 11m、深さ最大 65cm である。溝は東側調査区外まで続き、E2 区で再度検出。南側は途中 6 号溝に切られるが、調査区外まで続く。総延長距離は少なくとも 35m 以上はあると思われる。溝は南に向かって傾いている。出土遺物はわずかで 3 の陶器の蓋のみである。その他は全て小片のため図示出来なかった。

8号溝 (SD8) (第33図, 図版 15-①, 図版 21)

調査区中央やや西よりから検出した溝で、最大幅 1m、長さ 23m、深さ最大 65cm である。溝は南北に走る形で、北側は 9 号溝に合流し南側はそのまま調査区外まで続く。溝は南に向かって傾いている。出土遺物はわずかで 4 の陶器の甕または鉢の底部のみである。他は全て小片のため図示出来なかった。

9号溝 (SD9) (図版 15-②)

調査区西側の隅から検出した溝で、最大幅 1.5m、長さ 11m、深さ最大 40cm である。溝は北側調査区外から少し南下して直角に曲がりそのまま西側の調査区外まで続く。溝は南下し西に向かって傾いている。出土遺物はわずかだが全て小片のため図示出来なかった。

10号溝 (SD10)

調査区西側から検出した溝で、幅 40cm、長さ 15m、深さ最大 10cm である。溝は南北に走る形で両端ともに調査区内で終端となる。出土遺物はなし。遺構検出面が浅いことや溝の深さが浅いことなどから現代の溝と思われる。

E2 区 遺構と遺物

溝

6号溝 (SD6) (第33図)

調査区南側から検出した溝で、最大幅 1.5m、長さ 4.5m、深さ最大 60cm である。溝は E1 区からの続きで、南側調査区外から少し北上してから東に曲がりその先からは攪乱によって切られている。溝

は南に向かって傾いている。出土遺物はわずかで5の陶器の碗の底部のみで、他は全て小片のため図示出来なかった。

7号溝 (SD7) (第33図, 第34図, 図版15-③, 16-①)

調査区中央付近から検出した溝で、最大幅1m、長さ16.5m、深さ最大60cmである。溝はE1区からの続きで、南調査区外から北上し、途中12号溝と合流してそのまま調査区内で終端となる。溝は南に向かって傾いている。出土遺物はわずかで6の白磁の紅皿のみである。他は全て小片のため図示出来なかった。

11号溝 (SD11) (第34図, 図版15-④, 16-②)

調査区中央やや南よりから検出した溝で、最大幅1m、長さ17.5m、深さ最大75cmである。溝は6号溝の屈折部から北上し途中攪乱に切られながらもそのまま北側調査区外まで続くが、調査区外手前で溝が浅くなり、細い溝となって続いていると思われる。出土遺物はわずかである。

〔出土遺物〕(第33図)

7と8はともに磁器の碗。7は外面の文様はコンニャク印判か。

12号溝 (SD12) (第34図, 図版16-③, ⑤)

調査区北側から検出した溝で、最大幅60cm、長さ7.6m、深さ最大65cmである。溝は北調査区外まで続き南側は7号溝に合流する。溝は北に向かって傾いている。出土遺物はわずかだが全て小片のため図示出来なかった。

13号溝 (SD13) (第34図, 図版16-④, ⑥)

調査区東側から検出した溝で、最大幅1.3m、長さ6m、深さ最大80cmである。溝は両端ともに南北調査区外まで続く。溝は南に向かって傾いている。出土遺物はわずかである。

〔出土遺物〕(第33図, 図版21)

9は磁器の染付皿。見込み中央はコンニャク印判か。10は陶器の蓋のつまみ部分のみ。11は陶器の鉢の底部と思われる。12は磁器の染付の蓋。13は磁器の染付筒型碗。見込みにはコンニャク印判か。

土坑

4号土坑 (SK4) (第35図, 図版17-①, ②)

調査区中央やや北より、標高18.8m付近から検出した土坑で、長軸1m、短軸80cm、深さ最大25cmの不整円形である。出土遺物はわずかだが全て小片のため図示出来なかった。

5号土坑 (SK5) (第35図, 図版17-③, ④)

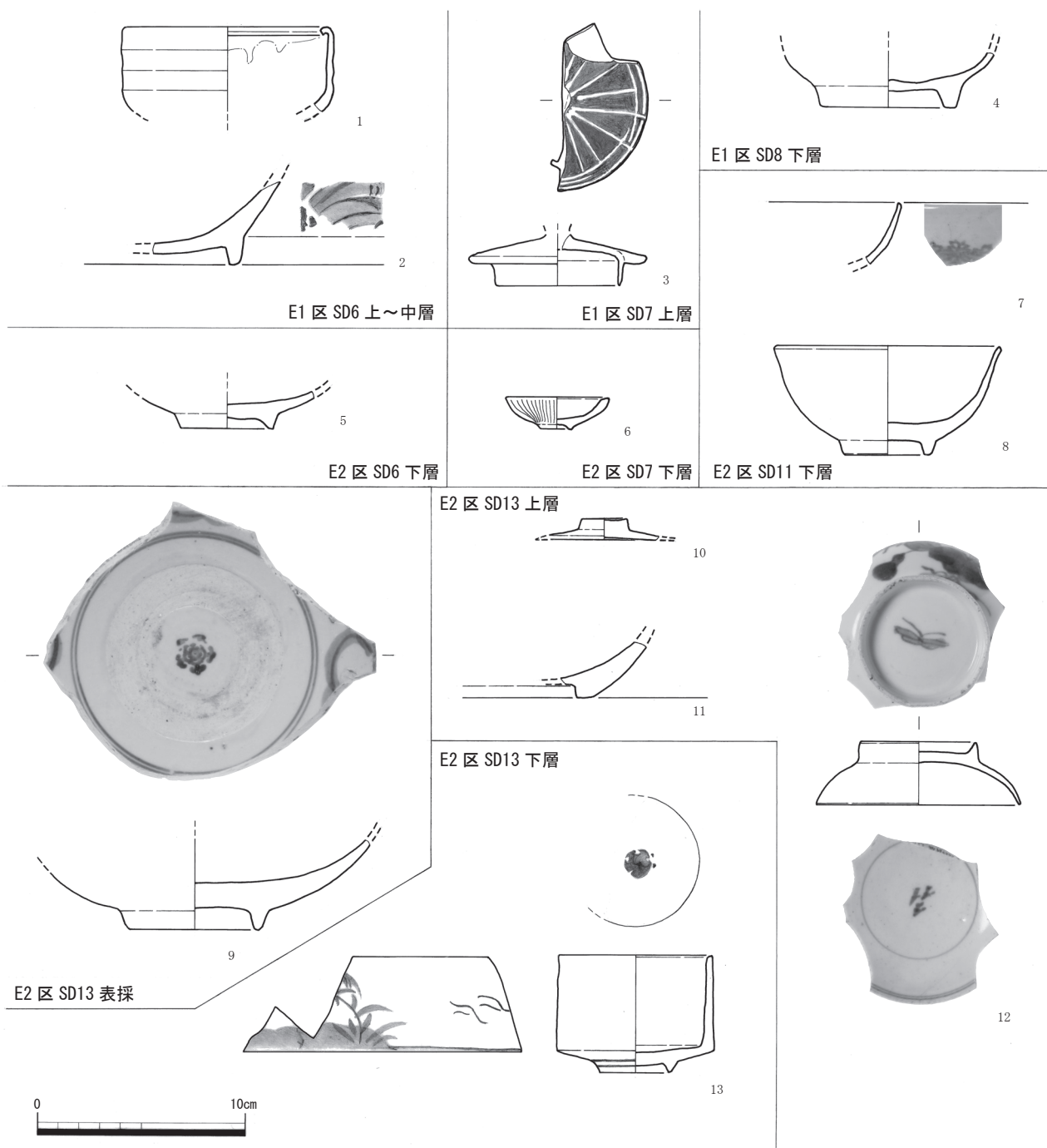
調査区中央やや北より、標高18.8m付近から検出した土坑で、長軸1.4m、短軸1.1m、深さ最大45cmの長方形である。遺構底面の一部がピット状に窪む。出土遺物はわずかだが全て小片のため図示出来なかった。

6号土坑 (SK6) (第35図, 図版17-⑤, ⑥)

調査区中央やや北より、標高 18.8m 付近から検出した土坑で、長軸 1.65m、短軸 1.2m、深さ最大 45cm の不定形である。何段ものテラスが形成されている段階掘りで、土坑というよりも何かしらの攪乱に近い遺構形態をしている。出土遺物はわずかだが全て小片のため図示出来なかった。

7号土坑 (SK7) (第35図)

調査区中央やや北より、標高 18.8m 付近から検出した土坑で、長軸 1.3m、短軸 80cm、深さ最大 30cm の不定形である。テラスを有する二段掘りで、土坑が一部ピットに切れ組み合わせられて出来た形をしている。出土遺物はわずかだが全て小片のため図示出来なかった。

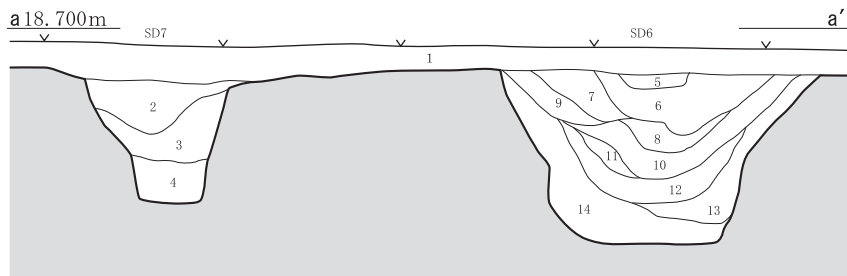


第33図 E1区 6号、7号、8号溝、E2区 6号、7号、11号、13号溝 出土遺物実測図 (S=1/3)

E1 区

SD6・7

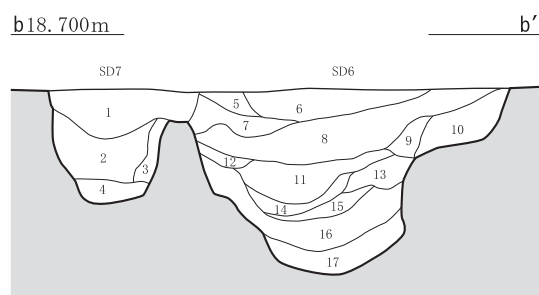
a 18.700m



- | | |
|-------------------------------------|--|
| 1 10YR5/2 灰黄褐色土 (耕作土) | 8 10YR5/3 にぶい黄褐色土 (にぶい黄褐色土粒を30%、ブロックを20%含む) |
| 2 10YR4/2 灰黄褐色土 (にぶい黄褐色土ブロックを2%含む) | 9 10YR3/2 黒褐色土 (にぶい黄褐色土粒を5%含む) |
| 3 10YR4/2 灰黄褐色土 (にぶい黄褐色土粒を10%含む) | 10 10YR4/2 灰黄褐色土 (にぶい黄褐色土ブロックを20%、黒色土ブロックを10%含む) |
| 4 10YR3/2 黒褐色土 (にぶい黄褐色土ブロックを1%含む) | 11 10YR5/3 にぶい黄褐色土 (明黄褐色土粒を20%含む) |
| 5 10YR4/2 灰黄褐色土 (にぶい黄褐色土粒を30%含む) | 12 10YR3/2 黒褐色土 (にぶい黄褐色土ブロックを20%含む) |
| 6 10YR5/3 にぶい黄褐色土 (明黄褐色土ブロックを50%含む) | 13 10YR4/2 灰黄褐色土 (にぶい黄褐色土粒を10%含む) |
| 7 10YR4/2 灰黄褐色土 (にぶい黄褐色土ブロックを2%含む) | 14 10YR4/2 灰黄褐色土 (明黄褐色土ブロックを40%含む) |

SD6・7 トレンチ

b 18.700m

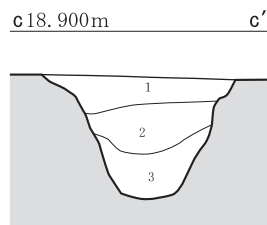


- | |
|---|
| 1 10YR4/2 灰黄褐色土 (にぶい黄褐色土ブロックを2%含む) |
| 2 10YR4/2 灰黄褐色土 (にぶい黄褐色土粒を10%含む) |
| 3 10YR4/2 灰黄褐色土 (にぶい黄褐色土粒を20%含む) |
| 4 10YR3/2 黒褐色土 (にぶい黄褐色土ブロックを1%含む) |
| 5 10YR4/2 灰黄褐色土 (にぶい黄褐色土ブロックを10%含む) |
| 6 10YR5/3 にぶい黄褐色土 (明黄褐色土ブロックを50%含む) |
| 7 10YR3/2 黒褐色土 (にぶい黄褐色土粒を5%含む) |
| 8 10YR5/3 にぶい黄褐色土 (明褐色土粒を30%含む) |
| 9 10YR4/2 灰黄褐色土 (にぶい黄褐色土粒を20%含む) |
| 10 10YR4/2 灰黄褐色土 (にぶい黄褐色土粒を30%含む) |
| 11 10YR4/2 灰黄褐色土 (にぶい黄褐色土粒を20%、黒色土を10%含む) |
| 12 10YR4/2 灰黄褐色土 (にぶい黄褐色土粒を2%含む) |
| 13 10YR4/2 灰黄褐色土 (にぶい黄褐色土粒を10%含む) |
| 14 10YR3/2 黒褐色土 (にぶい黄褐色土粒を5%含む) |
| 15 10YR3/2 黒褐色土 (にぶい黄褐色土粒を20%含む) |
| 16 10YR4/2 灰黄褐色土 (にぶい黄褐色土粒を5%含む) |
| 17 10YR4/2 灰黄褐色土 (明黄褐色ブロックを40%含む) |

E2 区

SD7

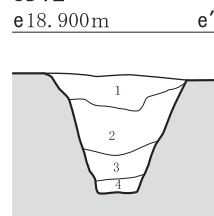
c 18.900m



- | |
|---------------------------------|
| 1 10YR4/2 灰褐色土 (にぶい黄褐色土粒を2%含む) |
| 2 10YR4/2 灰褐色土 (にぶい黄褐色土粒を3%含む) |
| 3 10YR3/2 黒褐色土 (にぶい黄褐色土粒を10%含む) |

SD12

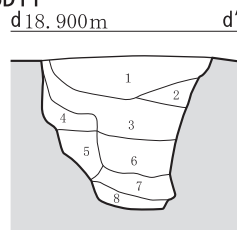
e 18.900m



- | |
|-----------------------------------|
| 1 10YR3/2 黒褐色土 (黄褐色土粒を10%含む) |
| 2 10YR2/2 黒褐色土 (黄褐色土粒を5%含む) |
| 3 10YR3/2 黒褐色土 (黄褐色土粒を10%含む) |
| 4 10YR4/3 にぶい黄褐色土 (黄褐色土ブロックを多く含む) |

SD11

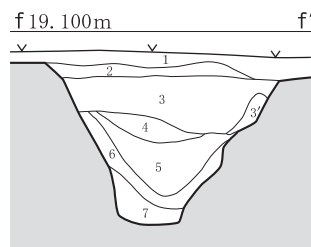
d 18.900m



- | |
|------------------------------------|
| 1 10YR4/3 にぶい黄褐色土 (黄褐色土粒を10%含む) |
| 2 10YR3/2 黒褐色土 (にぶい黄褐色土粒を2%含む) |
| 3 10YR3/2 黒褐色土 (にぶい黄褐色土粒を5%含む) |
| 4 10YR4/2 灰黄褐色土 (にぶい黄褐色土粒を10%含む) |
| 5 10YR6/6 明黄褐色土 (土地の崩落土) |
| 6 10YR3/2 黒褐色土 (にぶい黄褐色土ブロックを50%含む) |
| 7 10YR4/2 灰黄褐色土 (にぶい黄褐色土粒を30%含む) |
| 8 10YR3/2 黒褐色土 (にぶい黄褐色土粒を40%含む) |

SD13

f 19.100m

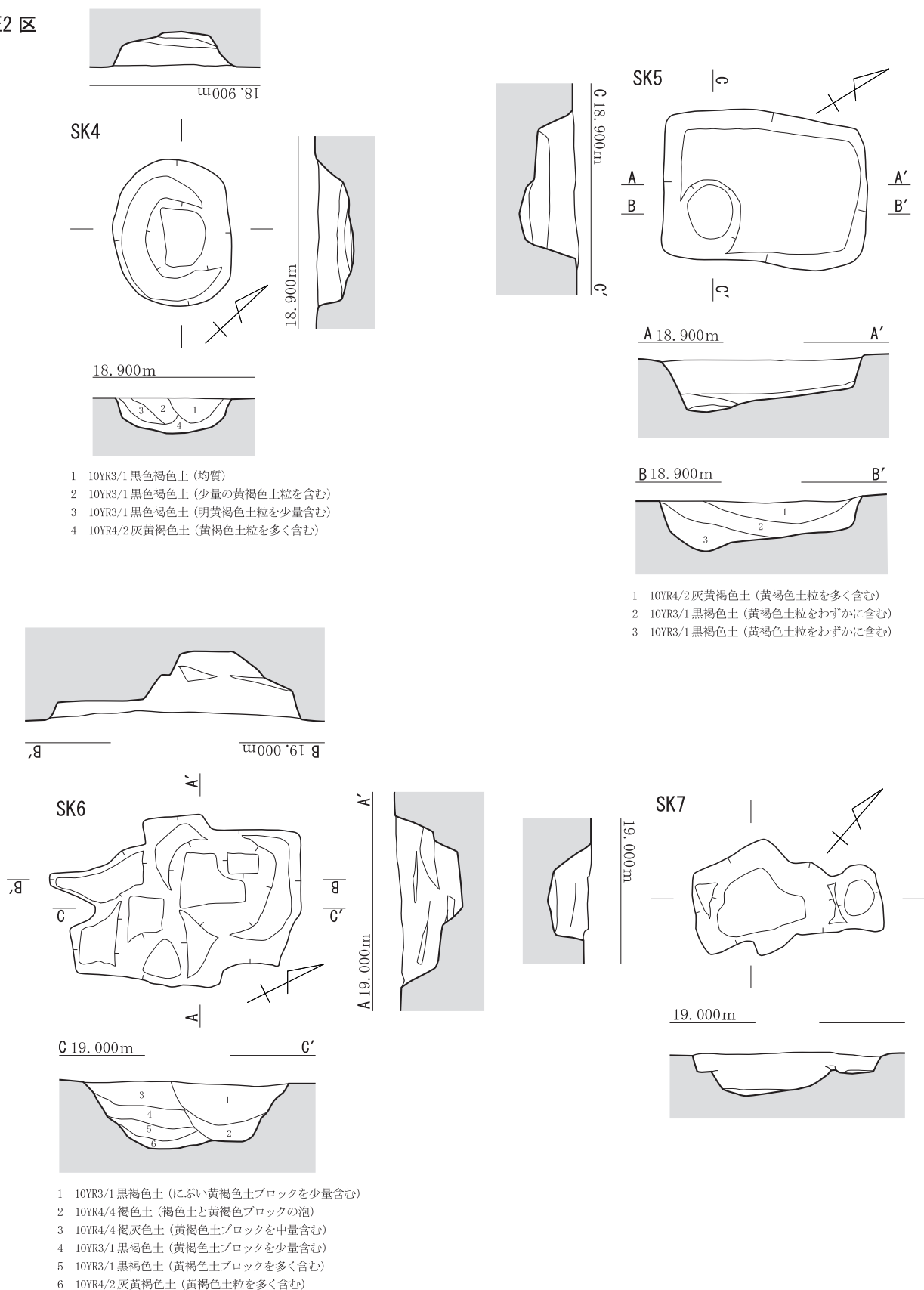


- | |
|----------------------------------|
| 1 10YR4/2 灰褐色土 (耕作土) |
| 2 10YR4/2 灰褐色土 (にぶい黄褐色土粒を20%含む) |
| 3 10YR4/2 黒褐色土 (にぶい黄褐色土粒を5%含む) |
| 3' 10YR4/2 黒褐色土 (にぶい黄褐色土粒を10%含む) |
| 4 10YR4/2 灰褐色土 (にぶい黄褐色土粒を1%含む) |
| 5 10YR3/2 黒褐色土 |
| 6 10YR3/2 黒褐色土 (にぶい黄褐色土粒を10%含む) |
| 7 10YR4/2 灰黄褐色土 (にぶい黄褐色土粒を20%含む) |

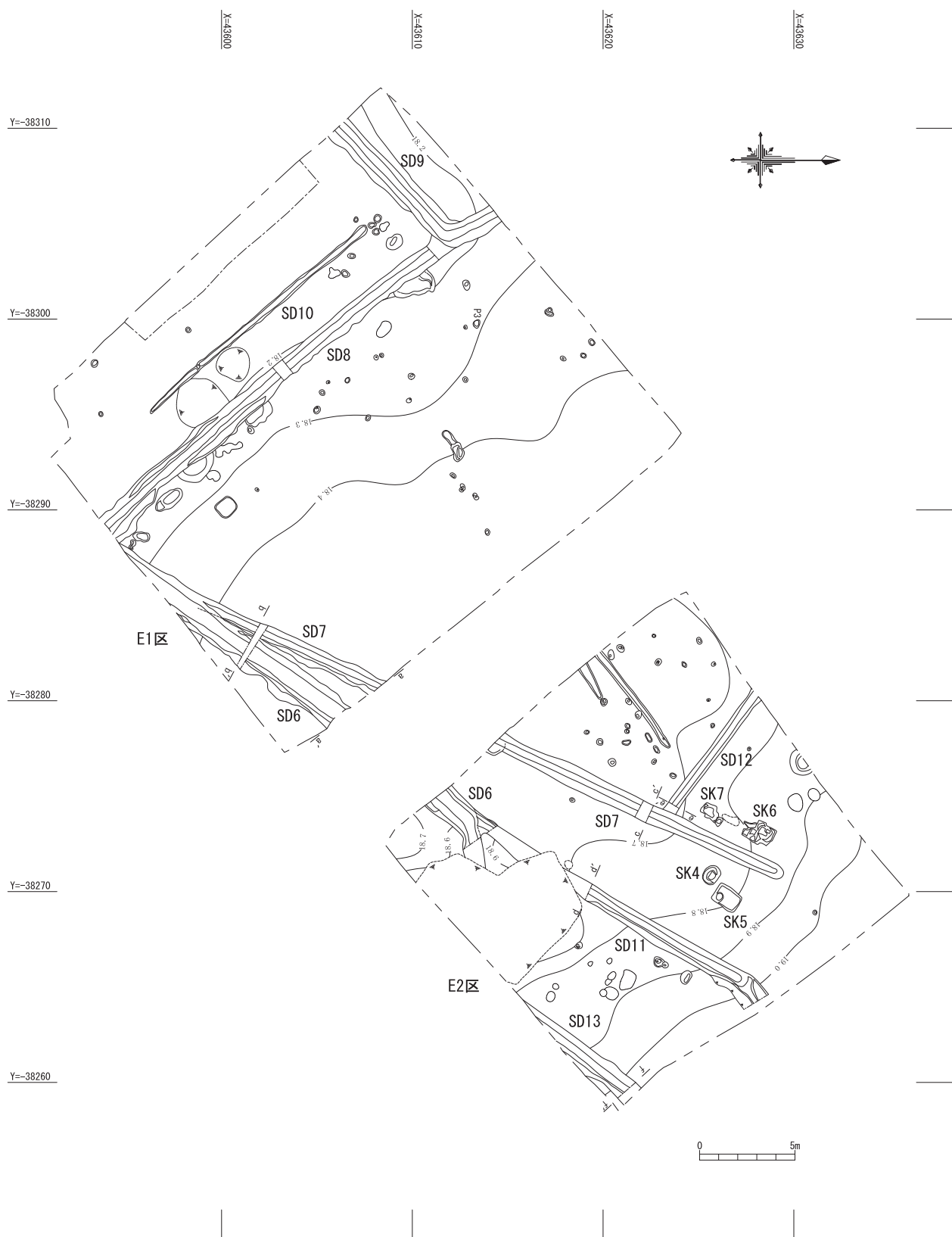


第34図 E1 区 6号、7号溝、E2 区 7号、11号、12号、13号溝 土層断面図 (S=1/40)

E2 区



第 35 図 E2 区 4 号、5 号、6 号、7 号土坑 土層断面図、平面図・断面図 (S=1/40)



第 36 図 E1、2 区 遺構平面図 (S=1/300)

その他の遺物（第 37 図，図版 21，図版 22）

本調査で出土した遺物は陶磁器類以外にもさまざまなものが出土した。以下は詳細な内容である。

縄文土器（第 37 図 1，図版 21）

A2 区の 29 号溝から縄文土器の破片が出土した。残存高 4.4cm、厚さ 10mm である。詳細な器形は不明だが、土器表面には縄の押し当て痕がはっきりと残っている。小郡中尾遺跡や干潟向畦ヶ浦遺跡などで出土している押型文土器と思われ、縄文時代早期頃の何かしらの遺構があったと思われる。

石器

砥石（第 37 図 2～5，図版 22）

2 は A1 区の 1 号溝から出土した流紋岩製の砥石。縦 4.3cm、横 4.5cm、幅 4.5cm、重さ 104g で砥面は 3 面残存しているが他は欠損している。3 は A1 区の 2 号溝から出土した流紋岩製の砥石。縦 2.1cm、横 5cm、幅 5.8cm、重さ 61.5g で砥面は 5 面残存、一部多面体のような砥面となっている。この 2 と 3 は材質や用途から近現代でも使用されている天草砥石と思われる。4 は B1 区の 14 号溝から出土した花崗岩製の砥石。縦 2.7cm、横 4.5cm、幅 9.9cm、重さ 189g で砥面は 2 面残存、他は欠損している。5 は D1 区の 37 号溝から出土した泥岩製の砥石。縦 1.5cm、横 4.8cm、幅 6cm、重さ 69g で砥面は 5 面残存、他は欠損している。

すり石（第 37 図 6）

B1 区の 14 号溝から安山岩製のすり石が出土した。縦 6.7cm、横 8.1cm、幅 9.4cm、重さ 710g で使用面は 2 面を確認した。

石鏃（第 37 図 7～9，図版 22）

7 は B3 区の 11 号土坑から出土した黒曜石製の打製石鏃（凹基式）。縦 2.7cm、横 2cm、厚さ 4mm、重さ 1.6g で下部が二叉に分かれているタイプの石鏃である。8 は E1 区の 6 号溝から出土した黒曜石製の打製石鏃（凹基式）。縦 1.9cm、横 1.7cm、厚さ 3mm、重さ 0.7g で下部が二叉に分かれているタイプである。基端右側をわずかに欠損している。9 は E1 区のピット 3 から出土したサヌカイト製の打製石鏃（凹基式）。縦 4cm、横 2cm、厚さ 4.5mm、重さ 3.4g で下部が二叉に分かれているタイプである。

土製品

土人形（第 37 図 10，図版 21）

E1 区の 6 号溝から蛙型の土人形が出土した。縦 1.6cm、横 2.4cm、幅 2cm で型ハメ成形で出来ている。表面は銅緑釉がかかっている。材質や製法などから、元々は陶器の何かしらの装飾の一部であった可能性がある。

瓦（第 37 図 11 ～ 13，図版 22）

11 は A1 区の 17 号溝から出土した平瓦。長さ 11.5cm、幅 11cm、厚さ 14mm で上面にハケ目がある。また、上面が黒褐色、下面が灰色と色が上下ではっきりと分かれているので焼きがうまくいったものと思われる。12 は E1 区の 8 号溝から出土した軒平瓦。残存高 4.5cm、長さ 3.5cm、幅 14cm である。ほとんど欠けていて判別しづらいが、模様の右側に花卉の模様がわずかに残っている。13 は E1 区の 7 号溝から出土した軒平瓦。残存高 4.2cm、長さ 3.6cm、幅 6.5cm である。模様は 15 枚の花卉の模様のみで他は欠損して不明である。

銅製品

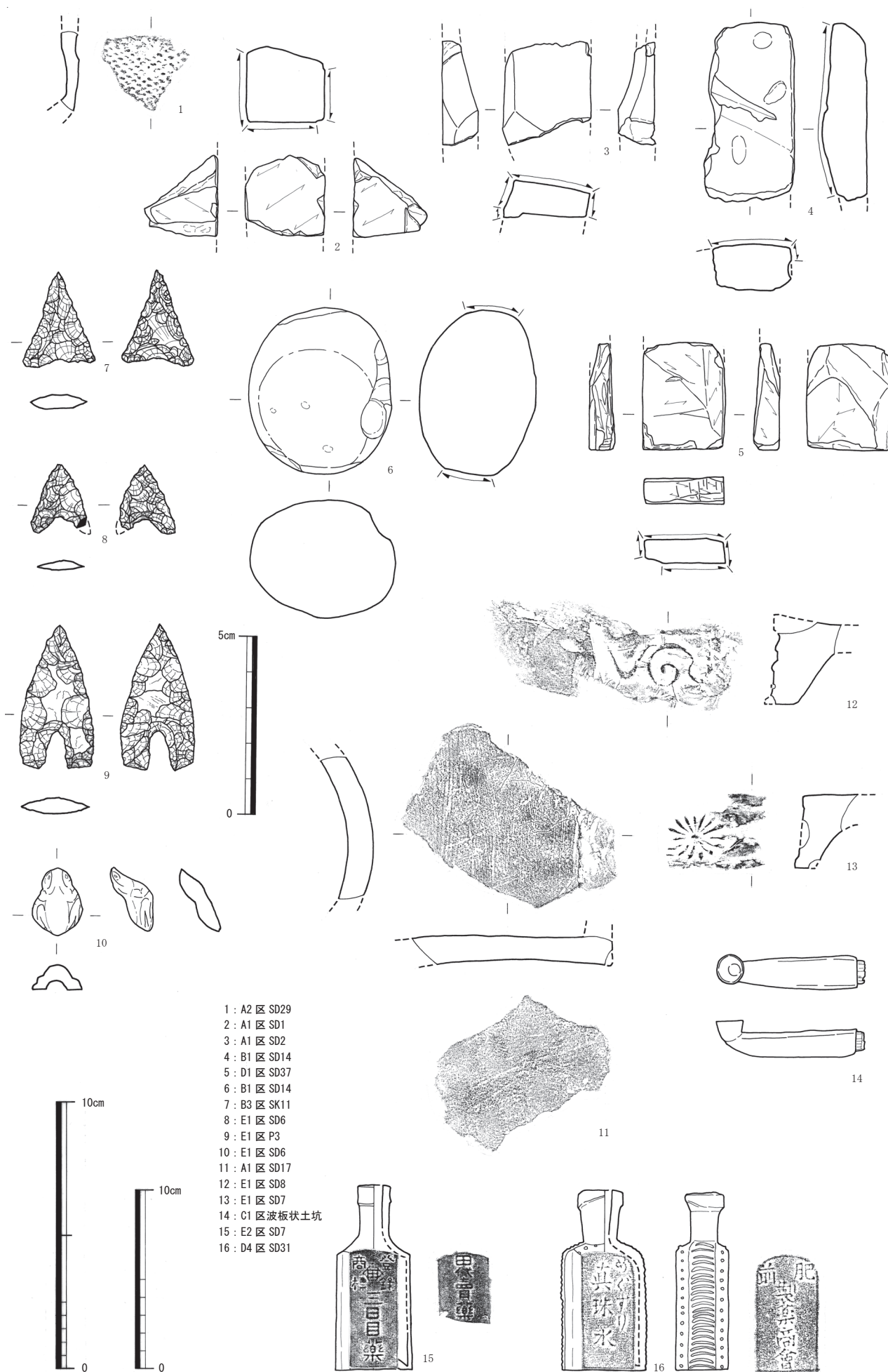
キセル（第 37 図 14，図版 22）

C1 区の 20 号溝の北の波板状土坑の一つから出土した。長さ 5.6cm、火皿口縁 1cm である。残存部分は雁首のみであるが、雁首の小口部分に薄い木製の羅字がわずかに残っている。火皿にはわずかにススが付着している。

ガラス製品

目薬瓶（第 37 図 15，16，図版 22）

15 は E1 区の 7 号溝から出土した。高さ 7cm、口縁 1cm、底形 3 × 2cm の不整六角形である。ガラス内には気泡が入っており、また瓶作成時のバリもはっきりと確認出来る。瓶表面には「商標登録 三日目薬」、その裏には「田代売薬」と書かれているが、それより下は破損により不明である。16 は D4 区の 31 号溝から出土した。高さ 6.8cm、口縁 1.7cm、底形 3.2 × 2cm の不整六角形である。ガラス内には気泡が入っており、また瓶作成時のバリもはっきりと確認出来る。しかし、口縁付近は歪な形となっており、作りが粗悪なものとなっている。瓶表面には「めぐすり真珠水」、その裏には「肥前製薬商會」と書かれている。



第 37 図 その他遺物、石器、土製品、瓦、銅製品、ガラス瓶等 遺物実測図
 (1 ~ 6・11 ~ 13 は S=1/3、7 ~ 9 は S=2/3、10・14 ~ 16 は S=1/2)

第4章 調査成果のまとめ

今回の調査では近世以降の土地などを区画した溝、または耕作用の水路跡のような溝が多く見つかった。本章は検出した遺構の形態や遺物などから時期の特定と、周辺遺跡との関連に軽く触れてまとめとしたい。

今回見つかった溝は、隣り合う地区で検出した続きと断定出来る溝（A1区2号溝とB1区2号溝のような溝）は1条とカウントして、総数37条を確認、その中から現代の溝と思われるものを除けば近世・近代のものと思われる溝は26条を確認した。検出当初は単なる溝や水路としか分からなかったが、調査区全体図面と、航空写真での全地区合成写真を確認して初めて、溝は土地を区画したような配置であることが分かった。そこで、小郡市には明治時代に作図された旧字図があり、作成前後の区画を表している。この調査地に当たる旧字図を見る限り、検出した溝は近世・近代頃の土地の境界線と合致しているように思える。しかし、はたして旧字図の土地境界線と検出した溝が本当に合致するのか、小郡市に所蔵されているこの旧字図をさらに詳しく確かめた。

まず、小郡市に所蔵されている本調査地に位置するであろう旧字図について、この旧字図は明治22～24年の間に作成されたとされるもので、これらに記されている線は当時の土地の境界などを示している。この旧字図によると、当時の調査地は現在と同じ田畑であった。だが、この旧字図には正確な座標などは記されていない、縮尺も現代地図ほど正確ではない。そのため旧字図同士でも若干のズレが認められる。これは測量方法が現代における世界測地系に則っての測量図ではないため、本調査地であろう旧字図もまた正確ではないと言える。しかし、旧字図が作成される前の17世紀後半から現在に至るまで、位置や土地の面積など旧松崎宿付近の旧字図は宿場時代を継承している部分が多く、ほとんど変わっていないとされる場所が一点存在する。それは『旧松崎宿旅籠油屋』である。

現在の旧松崎宿旅籠油屋の母屋や宿屋などの建物自体は建て替えや耐震補強などで当時の建物の復元物ではあるが、土地自体はほとんど変わっていない。旧字図でも土地の形や位置はほとんど変わっていなかった。そのため、今回この『旧松崎宿旅籠油屋』を基準に合成することが出来る。しかし、図面の合成において土地とは別にもう一つ合致させなければならないものがある。それが方位である。

違う図面同士をただ土地だけを合致させたとしても、南北が180度逆、あるいは大きくズレがあった場合、正確な合成とは言えないからだ。幸いなことに、方位自体はこの200～300年の間に南北の逆転、または大きく変わったことはない。もし当時と方位にズレがあったとしてもせいぜい数度程度と思われる。そもそも現代地図と旧字図とでは多少のズレがあるため、ここでは大して問題にはならないといえる。そうしたことを踏まえて、今回『旧松崎宿旅籠油屋』と、方位の二つを基点とした旧字図と調査区の図面の合成を試みた。

結果は、多少縮尺や位置のズレなどはあるものの、各調査地区で検出した溝のほとんどが調査区に位置すると思われる、当時の旧字図に記されている土地の境界線とほぼ合致していることが分かった。また、溝によっては規模が小さく、A1区の1号・2号溝のような大きい幅の深い溝もあれば、D4区の32・33号溝のような細く浅い溝もある。このように深さも大きさもばらばらの溝だが、旧字図に記されている土地の境界線とほぼ合致しているように窺える。（第38図）

このように旧字図の土地境界線と調査区から検出した溝を合成した結果、ほぼ合致したため溝は旧字図の境界線のものと言える。調査ではこうした溝からは色んな時期の陶磁器が出土した。以下は、出土した陶磁器の中からいくつかピックアップし九州陶磁編年をもとにそれぞれの時期を推定した。

まず、A1 区 1 号溝から 18 世紀後半～19 世紀中頃の磁器の仏飯具（第 4 図－10）が、A1 区 2 号溝の下層から 17 世紀前半の陶器の甕（第 4 図－22）が、A1 区 17 号溝から 18 世紀後半～19 世紀初頭の陶器の灯火具（第 5 図－3）が、B3 区 17 号溝から 18 世紀後半頃の磁器の染付皿（第 13 図－11）が、C1 区 20 号溝から 18 世紀後半頃の陶器のすり鉢（第 23 図－1）と、18 世紀後半～19 世紀初頭頃の磁器の染付皿（第 23 図－4）が、C3 区 30 号溝から 18 世紀後半頃の磁器染付皿（第 23 図－8）が、E2 区 7 号溝から 18 世紀末から 19 世紀頃の白磁の紅皿（第 33 図－6）が、E2 区 13 号溝の下層からは 18 世紀後半から 19 世紀初頭頃の磁器の筒型碗（第 33 図－13）など、土地の境界線と合致する調査区全体の溝から多くの陶磁器が出土した。また、上記のほかにも本調査地から最も多く出土した陶磁器は 18 世紀後半～19 世紀初頭のものが最多であった。しかし、これら以外にも 17 世紀前半からの陶磁器なども少なからず出土しており、一概にこの時期と断定は出来ない。

以上のことから、当時から区画などは多少変わっていたとしても、18 世紀後半前後と推定する。

次に、本調査地とその周辺に点在する遺跡との関連性だが、時期的に可能性があると言えるのは『旧松崎宿旅籠油屋』を含む松崎宿の宿場町全体と思われる。松崎宿は 1670 年代からの参勤交代制以降、明治の初期頃まで薩摩街道の宿場町として周囲とともに繁栄していったが、19 世紀後半からは参勤交代制度などはなくなり宿場自体は衰退した。しかし、周辺の耕作地は衰退することなくそのまま存続していたと思われる。事実、宿場が衰退した時期以降のものと考えられる陶磁器片や鉄製品類、ガラス瓶などが少なからず出土しているからである。また、本調査地に該当する旧字図には昭和 33 年に土地改良による区画改変が行われたとある。

以上から、本調査地で検出した溝の時期は現状、どんなに古くても 18 世紀後半から、旧字図にある昭和 33 年の土地改良による区画改変が行われるまでの間のものであると推察出来る。

また今回、本調査地では近世・近代の遺構の他に、縄文時代の遺物も数点確認出来た。B3 区の 10 号・11 号・12 号土坑は落とし穴状遺構の可能性があり、内一つの 11 号土坑から陶磁器類に混ざって黒曜石製の石鏃（第 37 図－7）が出土しており、さらに、その北に位置する A2 区の 29 号溝からは小片だが縄文時代早期頃の押型文土器（第 37 図－1）も出土した。

以上のことから、本調査地に縄文時代早期頃のなんらかの遺構があったと思われるが、地山がほとんど削られているため確かなことは言えない。

参考文献

- 九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年 九州近世陶磁学会 10 周年記念』
- 小郡市史編集委員会 1996 『小郡市史 第一巻 通史編 地理・原始・古代』
- 小郡市史編集委員会 2001 『小郡市史 第四巻 資料編 原始・古代』
- 小郡市教育委員会 2008 第 234 集『旧松崎旅籠油屋』
- 小郡市教育委員会 2018 第 317 集『旧松崎旅籠油屋 2』



第 38 図 松崎新堀遺跡 地籍図合成 (S=1/1, 200)

松崎新堀遺跡 出土遺物観察表

法量＝器：器高、口：口径、底：底径、頸：頸部径、胴：胴部径、つ：つまみ径、か：かえり径、(数値)：復元数値

挿図 番号	出土遺構	器種	器形	法量 (cm)				調整	装 飾			備考
				器	口	底	その他		染付・ 釉薬	文様	その他	
4-①	A1 区 SD1	須恵器	甕	2.5				口縁ユビナデ 内面ナデ				
4-②	A1 区 SD1	陶器	蓋	2.2	(7.6)		か：(9.8)	口縁ヘラケズリ			黒漆塗り	口縁～かえり一部後付け
4-③	A1 区 SD1	陶器	蓋	2.6	(8)		か：(9.2) つ：2.2	口縁ユビナデ	鉄釉	花文		口縁部後付
4-④	A1 区 SD1	陶器	鉢	4.5				回転ナデ ユビオサエによる注ぎ 口形成	鉄釉			注ぎ口あり 口縁部外面後付
4-⑤	A1 区 SD1	陶器	小壺	4				ロクロ水引	鉄釉			一部銅成分により青色変目
4-⑥	A1 区 SD1	陶器	瓶	3		(8)		底面糸切り 外面ヘラケズリ 内面ヘラケズリ・ナデ	灰釉			
4-⑦	A1 区 SD1	陶器	甕?	3.5		(14)		内外回転ナデ 底面ミガキ				胴部にわずかな釉薬の跡あり
4-⑧	A1 区 SD1	磁器	紅皿	1.3	4.4	1.4		型ハメ形成	白磁			
4-⑨	A1 区 SD1	磁器	盃	2.8	6.3	0.95 四方		ロクロ水引 高台上四方ヘラケズリ?	白磁			高台内渦巻き状の跡
4-⑩	A1 区 SD1	磁器	仏飯具	5.3	6.4	5.4	頸：1.8		染付	3本線が交差した文様		見込みに少量の外し砂が付着
4-⑪	A1 区 SD1	磁器	碗	5.5	10.2	4		ロクロ水引	染付	6枚葉		
4-⑫	A1 区 SD1	磁器	瓶	7.3		(7.4)		ロクロ水引 内面ヘラケズリ	染付	枝の絵上に丸い文様		丸い文様はスタンプか?
4-⑬	A1 区 SD1	磁器	お猪口	2.8	(4.8)	(2.4)		ロクロ水引?	色絵	赤色べた塗り		高台内に赤色文字(清又は清)
4-⑭	A1 区 SD1 下層	陶器	鉢	5.6				ロクロ水引	自然釉			口縁にわずかな外し砂付着
4-⑮	A1 区 SD1 下層	陶器	碗	4.5				ロクロ水引?	色絵	下絵付 矢羽根文		碗の下ほど摩滅している
4-⑯	A1 区 SD1 下層	磁器	窯道具	1.6							上面砂癒着 脚部・下面赤色絵	陶磁器等を焼く際、器同士がくっ つかないようにするもの
4-⑰	A1 区 SD2	土師 器	火鉢	3.9				口縁上・内面下ユビナデ 回転ナデ				口縁一部分のみ 内面若干スス付着
4-⑱	A1 区 SD2	陶器	壺	3.5		(8.6)		ロクロ水引 内面ヘラケズリ	銅緑釉?		碁筈底	外面に釉薬が付着した指の跡
4-⑲	A1 区 SD2	磁器	瓶	5		6.8		ロクロ水引	染付			内面に釉薬が垂れた跡
4-⑳	A1 区 SD2 下層	磁器	皿	4	(16)	9.2		ロクロ水引 高台内蛇ノ目凹型	染付	山水文	輪花形	高台内兜巾あり
4-㉑	A1 区 SD2 下層	磁器	碗	5.8	10	4.2		ロクロ水引	染付	不明		見込みに外し砂がわずかに付着
4-㉒	A1 区 SD2 下層	陶器	甕	14.5	(33)		頸：(32)	口縁指ナデ 頸部内ヘラケズリ 胴部内指オサエ?	鉄釉		突帯後付け棒状 工具による下から 上への圧痕	口縁上部一部釉薬の剥離跡 甕の上に陶磁器類を置いて焼いた 可能性あり
5-①	A1 区 SD17	須恵 器	鉢	3				回転ナデ				
5-②	A1 区 SD17	陶器	取っ手	2.2			幅：1.6 厚：0.7	取っ手部後付け後、 指ナデ付け 取っ手上部ヘラ彫り	銅緑釉			取っ手裏にスス付着
5-③	A1 区 SD17	陶器	灯火具	4.7	(4.4)	3.6		ロクロ水引 底面わずかに糸切りの 跡	鉄釉			脚部中央に釘穴 見込みに側面切り込みありの芯立 てを有するがほぼ欠損
5-④	A1 区 SD17	土師 質	火鉢?	6				回転ナデ 脚部外面棒状工具によ るナデ				脚部の一部がアーチ状になっている
5-⑤	A2 区 SD28	陶器	すり鉢	7				外面ヘラケズリ 内面すり目	鉄釉			すり目は少なくとも7～8条1組
5-⑥	A2 区 SD29	陶器	蓋	1.8		(6.4)		ロクロ水引 底面糸切り	鉄釉			上部一部釉薬剥離あり
5-⑦	A2 区 SD29	陶器	瓶	4		(3.3)		ロクロ水引	二彩			釉薬外面のみ
5-⑧	A2 区 SD29	磁器	皿	2.6	(5)	(3)		ロクロ水引	染付	梅木文	輪花形	
5-⑨	A2 区 SD29	磁器	徳利	4.3	2.3		頸：1.7	ロクロ水引 胴部内面ヘラケズリ	染付	梅木文	蕨形?	内面釉薬が垂れた跡あり
5-⑩	A2 区 SD29	磁器	瓶	6.3		(7)		ロクロ水引 内面ヘラケズリ	色絵?	花卉・鳥(絵付けはほぼ消失。 跡をうっすらと確認出来るほど)	絵の対角にも似た 構図の絵付けあり	底部内面極小の磁器片を含んだ外 し砂が付着
13-①	B1 区 SD2 上層	陶器	土瓶蓋	2.7	8.4	4	つ：1.7	ロクロ水引 底面糸切り	鉄釉			つまみ後付け つまみ上面 16 花卉模様
13-②	B1 区 SD2 上層	陶器	小皿	1.9	(7.8)	2.4		ロクロ水引 底面糸切り	鉄釉			灯明皿か?
13-③	B1 区 SD2 上層	磁器	碗	3.9	(8)	(3.2)		ロクロ水引	色絵	魚 胴部内外に赤色の文様		魚は薄い紫、魚の周りを青みが かった緑で塗る
13-④	B1 区 SD2 上層	磁器	皿	2.4	(9.4)	3.6		ロクロ水引 蛇ノ目軸剥ぎ?	染付	不明		蛇ノ目軸剥ぎの上に墨書
13-⑤	B1 区 SD14	陶器	火鉢	5		(24)		ロクロ水引 指ナデ				
13-⑥	B1 区 SD14	陶器	五徳	4				ロクロ水引? 突起部後付	珪藻土釉?			五徳の一部または七輪上部の一部 か?
13-⑦	B1 区 SD14	磁器	小壺	4.3	(5)		胴：(6.8)	ロクロ水引	金襴手?	不明(文様はほぼ消失。跡を うっすらと確認出来るほど)		金彩はごくわずか
13-⑧	B1 区 SD16	陶器	小皿	1.3		4.4		ロクロ水引 底面糸切り	鉄釉?			灯明皿か?
13-⑨	B3 区 SK11	陶器	鉢?	2.7				ロクロ水引				器形要検討
13-⑩	B3 区 SD17	陶器	鉢	2.1				ロクロ水引				すり鉢の可能性あり
13-⑪	B3 区 SD17	磁器	皿	3.6		(8.6)		ロクロ水引 蛇ノ目軸剥ぎ	染付			
23-①	C1 区 SD20	陶器	すり鉢	4.6				ロクロ水引 内面すり目	鉄釉			6～7条1組のすり目
23-②	C1 区 SD20	陶器	碗	1.7		(5)		ロクロ水引	鉄釉			見込みに5足の道具痕あり
23-③	C1 区 SD20	磁器	碗	2.5		5.75		ロクロ水引	染付			見込みに3足の道具痕あり

挿図 番号	出土遺構	器種	器形	法量 (cm)				調整	装 飾			備考
				器	口	底	その他		染付・ 釉薬	文様	その他	
23-④	C1 区 SD20	磁器	皿	3.2	(12.4)	(8.2)		ロクロ水引 高台内蛇ノ目凹型	染付	草花文?	輪花形	見込み剥離跡あり(道具痕削除のためか?)
23-⑤	C2 区 SD23	磁器	碗	3.8	(9)			ロクロ水引	染付	不明		
23-⑥	C3 区 SD20	磁器	碗	1.8		3.6		ロクロ水引	染付			見込み中央コンニャク印判
23-⑦	C3 区 SD20	磁器	碗	2.2		4		ロクロ水引	染付	草本文		見込みに重ね焼の輪状痕跡あり
23-⑧	C3 区 SD30	磁器	皿	2.2				ロクロ水引	染付	不明		
23-⑨	C3 区 SD30	磁器	碗	3.2				ロクロ水引	染付	草本文?		小型碗か?
28-①	D1 区 SD37	磁器	碗	2.2				ロクロ水引 蛇ノ目釉剥ぎ	色絵?			見込み蛇ノ目釉剥ぎの上に黒色の色絵
28-②	D1 区 SD39	磁器	碗	4.6	(10.4)	(4.4)		ロクロ水引	染付	草花文		
28-③	D4 区 SD31	陶器	すり鉢	5.7		(10.4)		ロクロ水引 内面すり目 底面糸切り				7条一組のすり目
28-④	D4 区 SD31	磁器	碗	3.1		(6.2)		ロクロ水引	染付	不明		見込みに3足の道具痕あり
28-⑤	D4 区 SD31	磁器	碗	3		(4.1)		ロクロ水引 蛇ノ目釉剥ぎ	染付		銅印判	
33-①	E1 区 SD6 上～中層	磁器	瓶	4				ロクロ水引	染付	不明		
33-②	E1 区 SD6 上～中層	陶器	火入	4	(10)			ロクロ水引	銅緑釉			口縁が内湾する 釉薬の濃さにムラがある
33-③	E1 区 SD7 上層	陶器	蓋	2.5	(6)		か:(8.5)	ロクロ水引	色絵?	深緑の上に白色の線描き		かえり部後付け
33-④	E1 区 SD8 下層	陶器	甕?	2.5		6.4		ロクロ水引	鉄釉			見込みに外し砂と一緒に陶器の小片も付着
33-⑤	E2 区 SD6 上層	陶器	碗	1.8		4.5		ロクロ水引 蛇ノ目釉剥ぎ	銅緑釉			
33-⑥	E2 区 SD7 上層	磁器	紅皿	1.5	(5)	1.5		型押し形成	白磁			
33-⑦	E2 区 SD11 下層	磁器	碗	2.9				ロクロ水引	染付	不明	コンニャク印判?	
33-⑧	E2 区 SD11 下層	磁器	碗	5.2	(11)	(4.2)		ロクロ水引 蛇ノ目釉剥ぎ	透明釉			
33-⑨	E2 区 SD13 表探	磁器	皿	4.3		(6.6)		ロクロ水引 蛇ノ目釉剥ぎ	染付			見込み中央コンニャク印判
33-⑩	E2 区 SD13 上層	陶器	蓋	1			つ:4	ロクロ水引	灰釉?			蓋上面赤褐色
33-⑪	E2 区 SD13 上層	陶器	鉢?	2.7				ロクロ水引			碁笥底	内面一部ガラス質化 外面スズ多量に付着
33-⑫	E2 区 SD13 上層	磁器	蓋	3	(9.8)	5.8		ロクロ水引	染付			
33-⑬	E2 区 SD13 下層	磁器	碗	5.5	(7.4)	3.5		ロクロ水引	染付	草本文		見込みコンニャク印判?

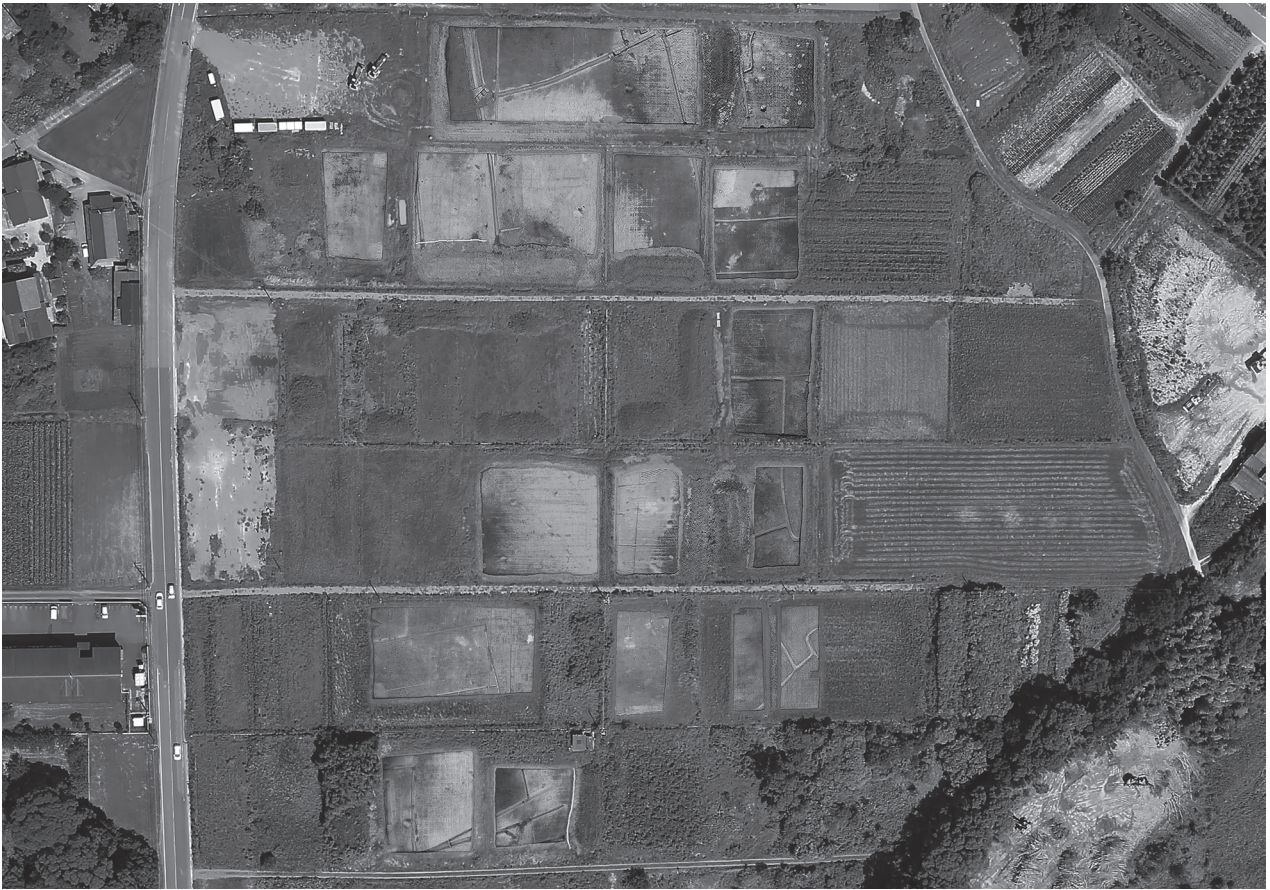
松崎新堀遺跡 その他出土遺物観察表

挿図 番号	出土遺構	器種	器形・ 材質	法量				調整・その他				備考	
				長さ (cm)		幅 (cm)	厚さ (mm)						重さ (g)
37-①	A2 区 SD29	縄文土器		器:4.4			10	外面縄押し当て痕					
37-②	A1 区 SD1	砥石	流紋岩	縦:4.3 横:4.5		4.5		104	砥面3面残存、他欠損				天草砥石か?
37-③	A1 区 SD2	砥石	流紋岩	縦:2.1 横:5		5.8		61.5	砥面5面残存、他欠損(一部多面体となっている)				天草砥石か?
37-④	B1 区 SD14	砥石	花崗岩	縦:2.7 横:4.5		9.9		189	砥面2面残存、他欠損				
37-⑤	D1 区 SD37	砥石	泥岩	縦:1.5 横:4.8		6		69	砥面5面残存、他欠損				
37-⑥	B1 区 SD14	すり石	安山岩	縦:6.7 横:8.1		9.4		710	すり面2箇所				
37-⑦	B3 区 SK11	石鏃	黒曜石	縦:2.7 横:2			4	1.6					
37-⑧	E1 区 SD6	石鏃	黒曜石	縦:1.9 横:1.7			3	0.7					
37-⑨	E1 区 P3	石鏃	サヌカイト	縦:4 横:2			4.5	3.4					
37-⑩	E1 区 SD6	蛙型土人形	土製品	縦:1.6 横:2.4		2		3.1	型ハメ成形 銅緑釉				何かしらの既製品の装飾の一部か?
37-⑪	A1 区 SD17	瓦	平瓦	長さ:11.5		11	14						
37-⑫	E1 区 SD8	瓦	軒平瓦	器:4.5 長さ:3.5		14							
37-⑬	E1 区 SD7	瓦	軒平瓦	器:4.2 長さ:3.6		6.5							
37-⑭	C1 区 波板状土坑	キセル 雁首	銅	長さ:5.6 火皿口:1				雁首の小口部分に薄い木製の羅宇あり				火皿にスズ付着	
37-⑮	E2 区 SD7	目薬瓶	ガラス	器:7 口:1.2 底:3×2			2	22.8	色調:濃青色透明	断面形:不整形	接合痕:なし	気泡:あり	表:商標登録三日目薬 裏:田代売薬
37-⑯	D4 区 SD31	目薬瓶	ガラス	器:6.8 口:1.7 底:3.2×2			3	29.6	色調:藍色透明	断面形:不整形	接合痕:なし	気泡:あり	表:めぐすり真珠水 裏:肥前製薬商會

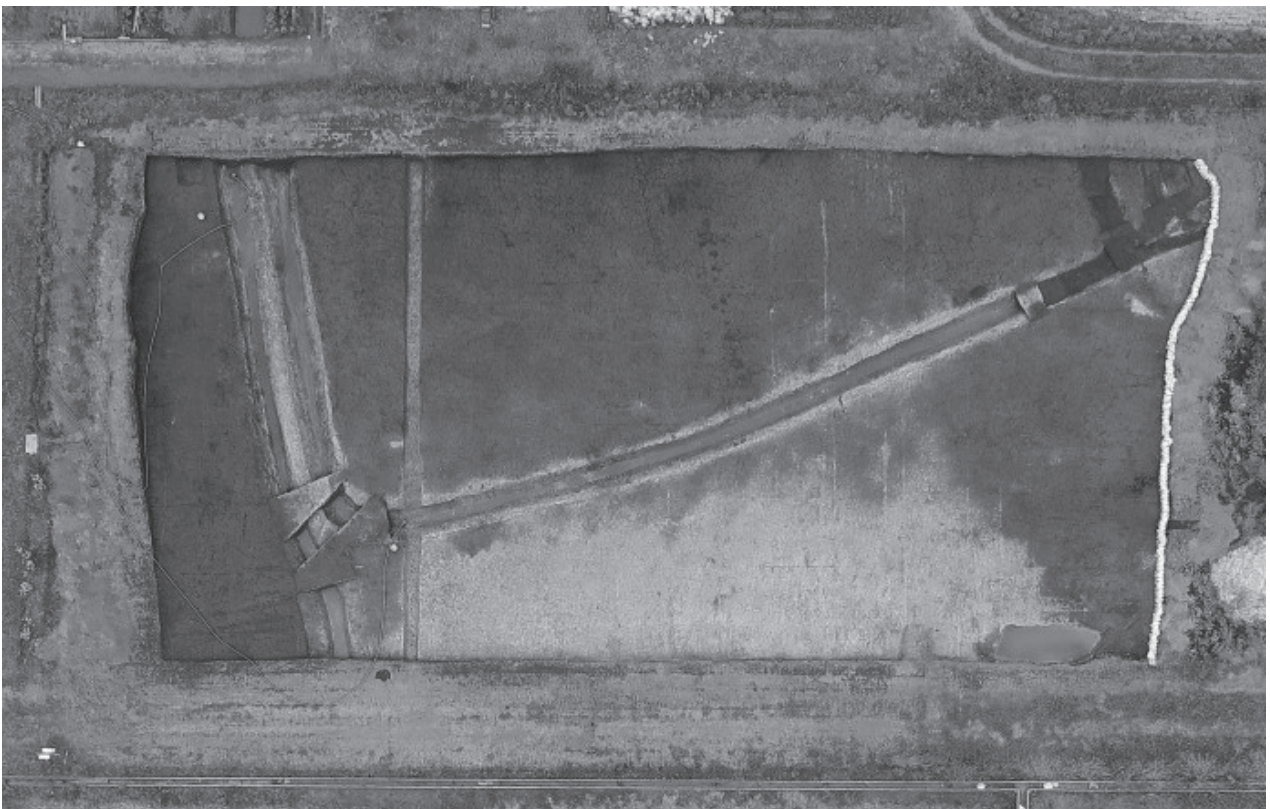
写 真 図 版



松崎新堀遺跡位置写真（南上空から花立山方向）



①松崎新堀全調査区 全景合成写真（上空から）



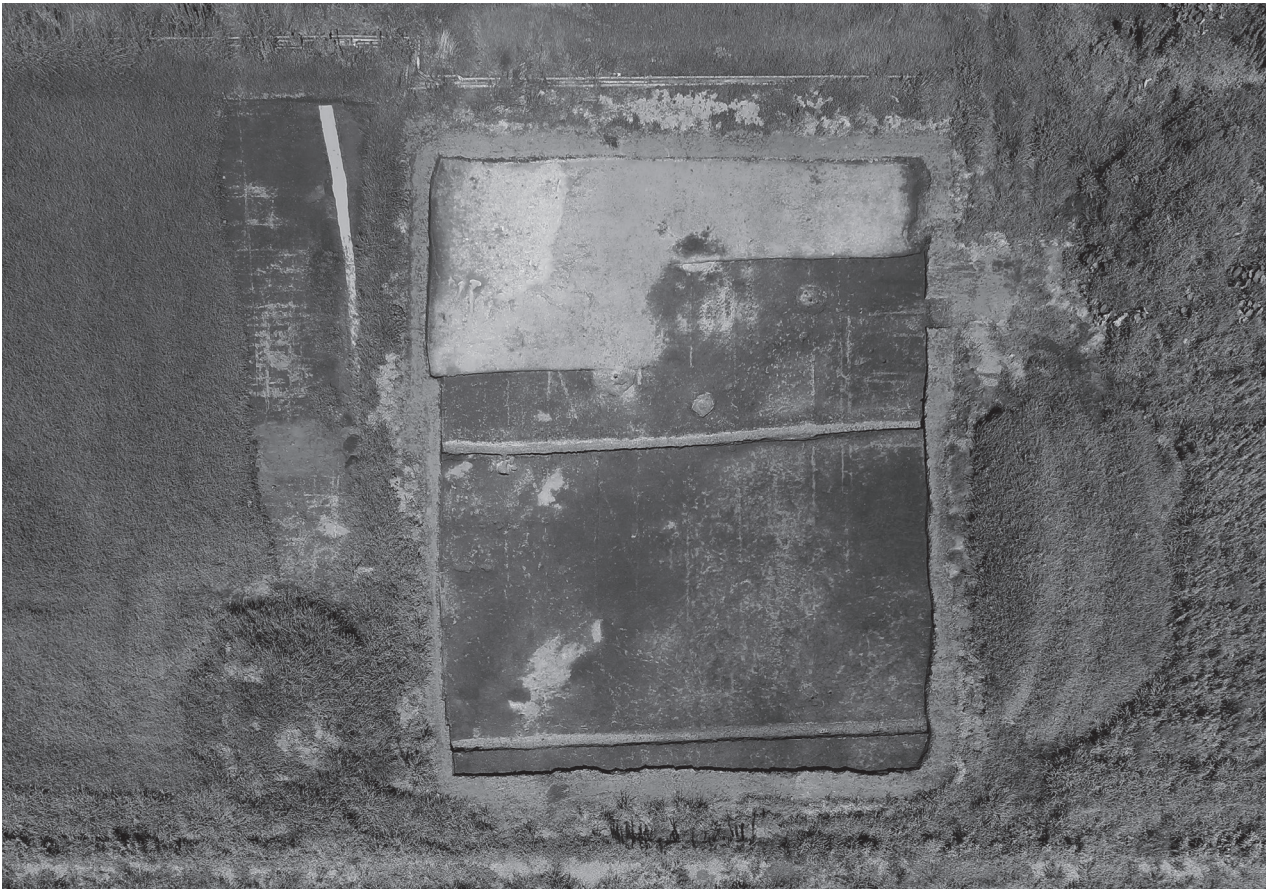
②A1区 全景写真（上空から）



① A1 区（左）、A2 区（右） 全景写真（上空から）



② B1 区（左）、B2 区（右） 全景写真（上空から）



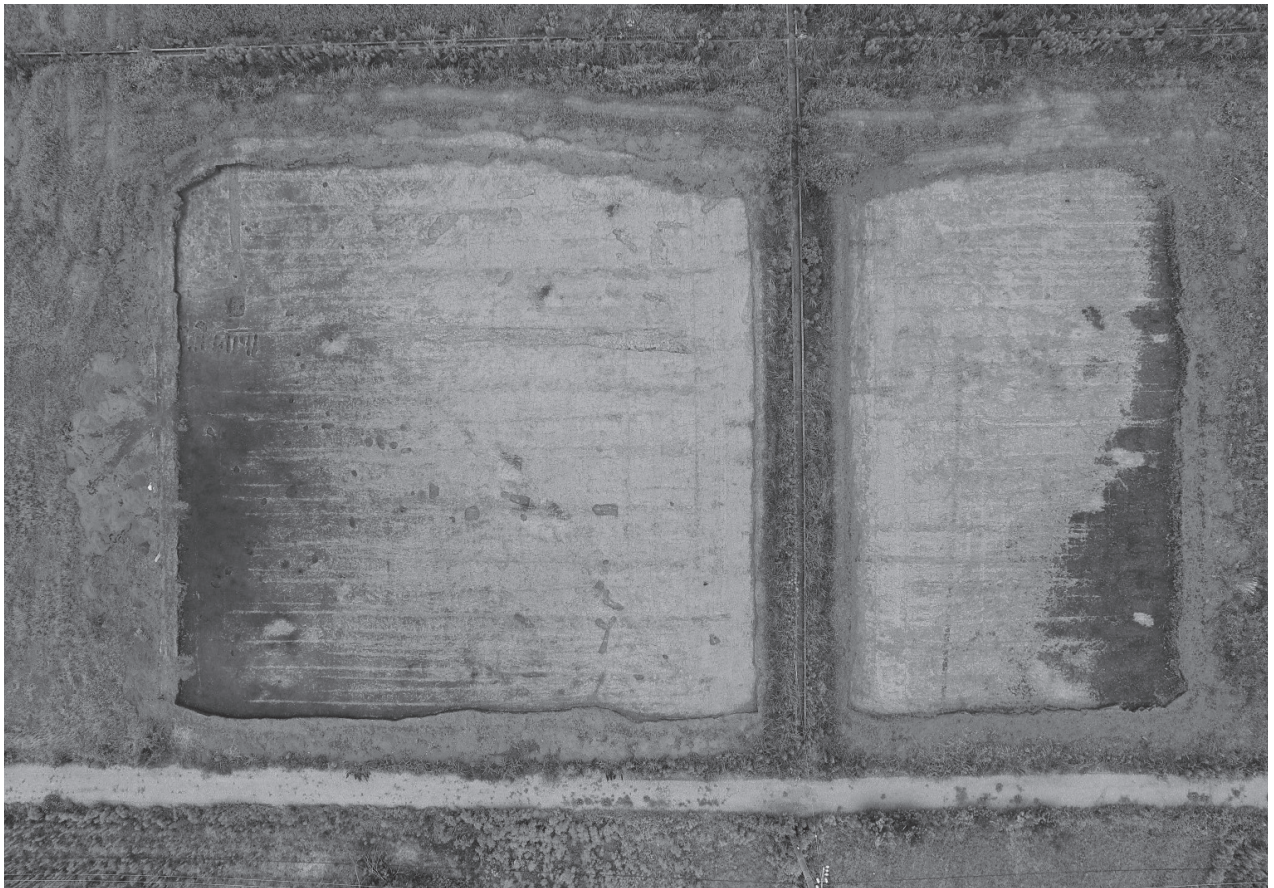
① B3 区 全景写真（上空から）



② B4 区 全景写真（上空から）



① C1 区 全景写真（上空から）



② C2 区西地点 全景写真（上空から）



① C2 区東地点（左）、C3 区（右） 全景写真（上空から）



② D1 区 全景写真（上空から）



① D2 区 全景写真（上空から）



② D3 区（左）、D4 区（右） 全景写真（上空から）



③ E1 区（左）、E2 区（右） 全景写真（上空から）



① A1 区 1 号溝完掘（南から）



② A1 区 2 号溝完掘（東から）



③ A1 区 1、2 号溝西壁土層断面（東から）



④ A1 区 4 号溝西壁土層断面（東から）



⑤ A1 区 17 号溝東壁土層断面（西から）



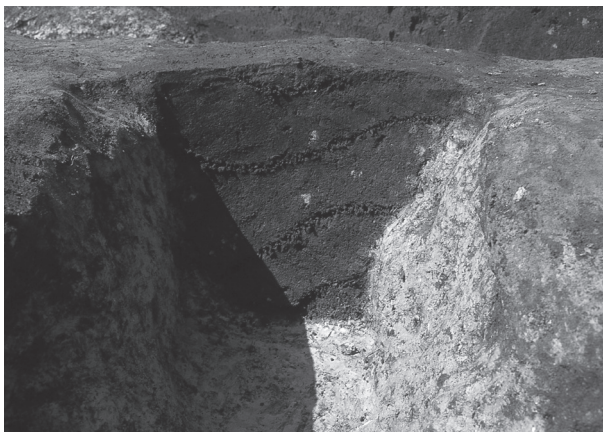
⑥ A1 区 13 号土坑西壁土層断面、完掘（東から）



① A2 区 28 号溝完掘（東から）



② A2 区 29 号溝完掘（東から）



③ A2 区 28 号溝土層断面（北から）



④ A2 区 29 号溝土層断面（西から）



⑤ A2 区 1 号井戸南壁土層断面（北から）



⑥ B1 区 2、16 号溝北壁土層断面（南から）



① B1 区 2、16 号溝完掘（北から）



② B1 区 14 号溝土層断面（北から）



④ B2 区 17 号溝北壁土層断面（南から）



③ B2 区 17 号溝完掘（北から）



⑤ B3 区 17 号溝完掘（北東から）



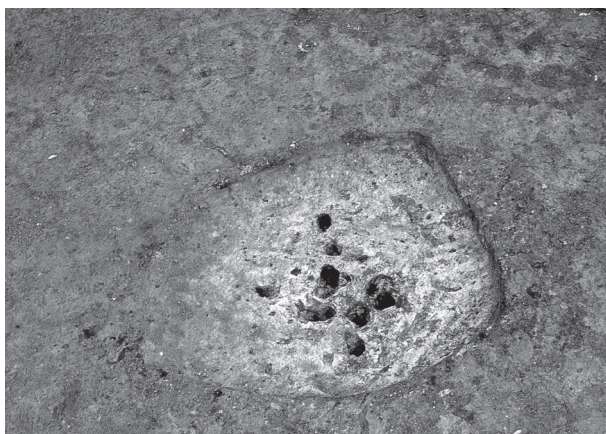
⑥ B3 区 17 号溝南壁土層断面（北東から）



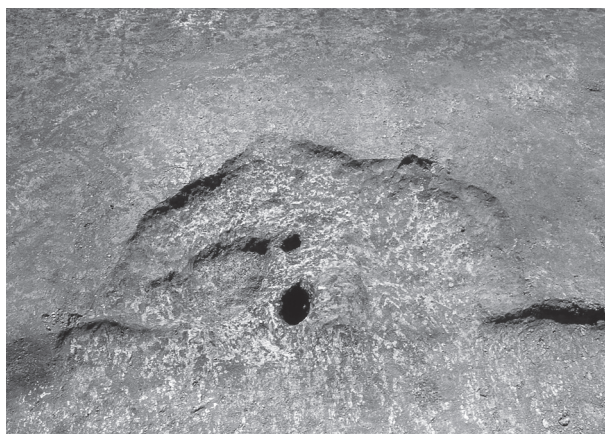
① B3 区 27 号溝完掘（南西から）



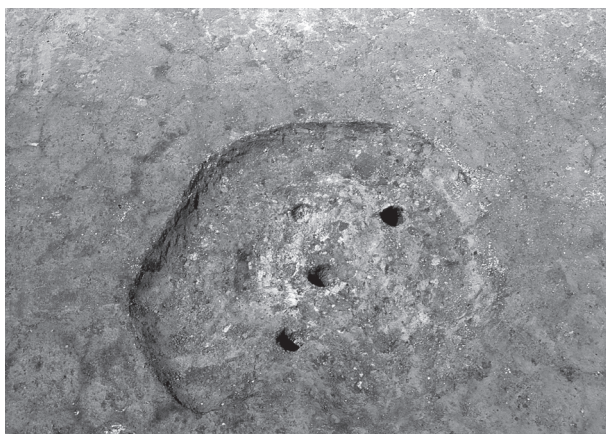
② B3 区 27 号溝東壁土層断面（南西から）



③ B3 区 10 号土坑完掘（西から）



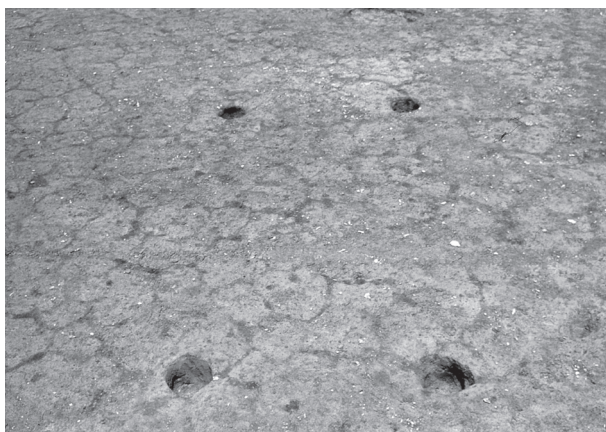
④ B3 区 11 号土坑完掘（北から）



⑤ B3 区 12 号土坑完掘（東から）



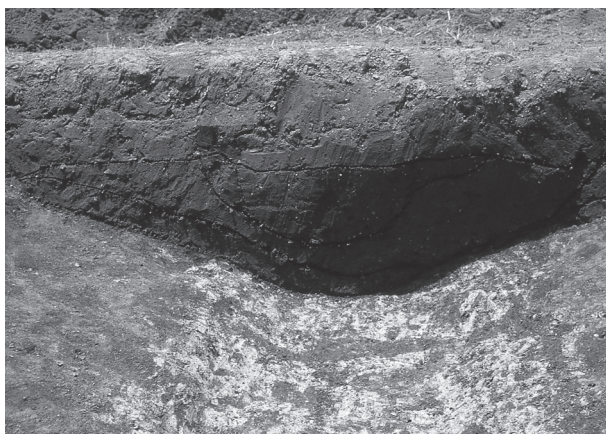
⑥ B4 区 2 号掘立柱建物跡？（東から）



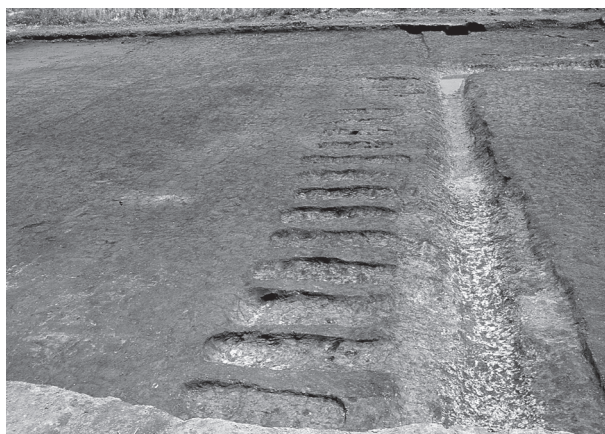
⑦ C1 区 1 号掘立柱建物跡完掘（南から）



⑧ C1 区 20 号溝完掘（西から）



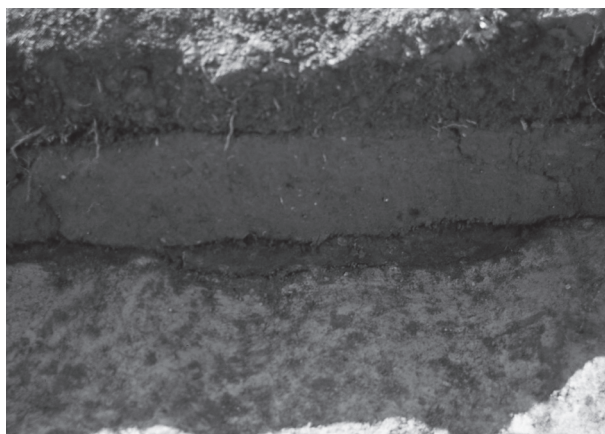
① C1 区 20 号溝南壁土層断面（北東から）



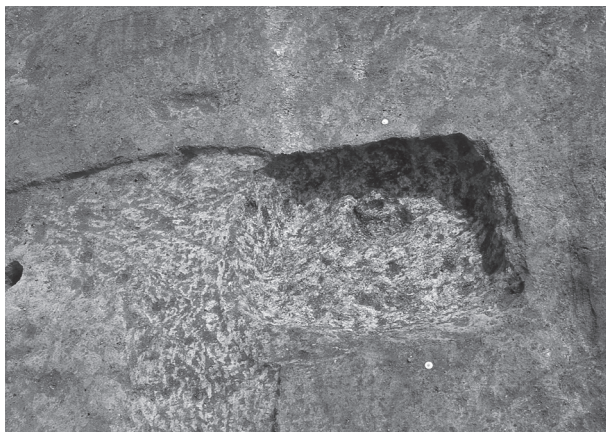
② C1 区 波板状土坑痕跡（南西から）



③ C2 区西地点 18 号溝完掘（北から）



④ C2 区西地点 18 号溝北壁土層断面（南東から）



⑤ C2 区西地点 8 号土坑完掘（南西から）



⑥ C2 区東地点 23 号溝完掘（南東から）



⑦ C3 区 20 号溝完掘（北から）



⑧ C3 区 20 号溝北壁土層断面（南から）



① C3 区 30 号溝完掘（南から）



② D1 区 37 号溝南壁土層断面（北から）



③ D1 区 38 号溝完掘（東から）



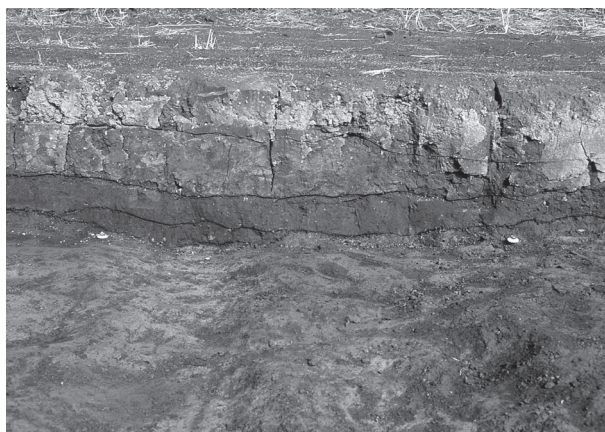
④ D1 区 38 号溝土層断面（東から）



⑤ D1 区 39 号溝西壁土層断面（東から）



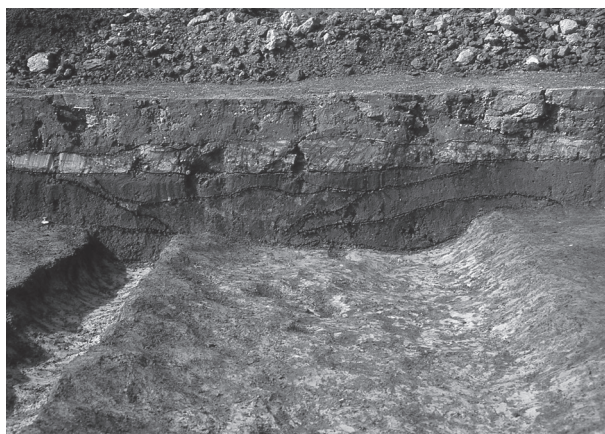
⑥ D1 区 40 号溝完掘（東から）



⑦ D1 区 40 号溝北壁土層断面（南から）



① D1 区 41 号溝完掘（東から）



② D1 区 40、41 号溝西壁土層断面（東から）



③ D2 区 43 号溝完掘（西から）



④ D4 区 31 号溝完掘（東から）



⑤ D4 区 31 号溝西壁土層断面（東から）



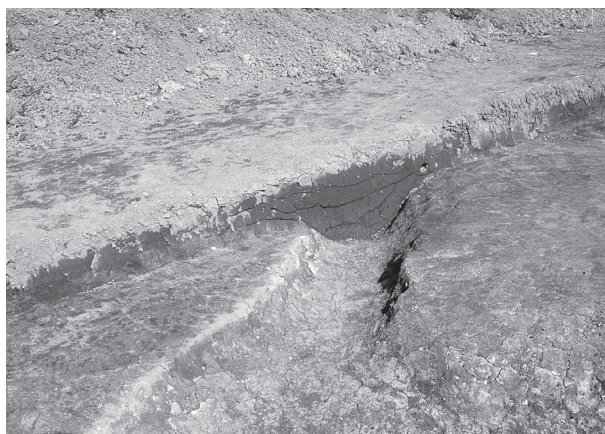
⑥ D4 区 31 号溝北壁土層断面（南西から）



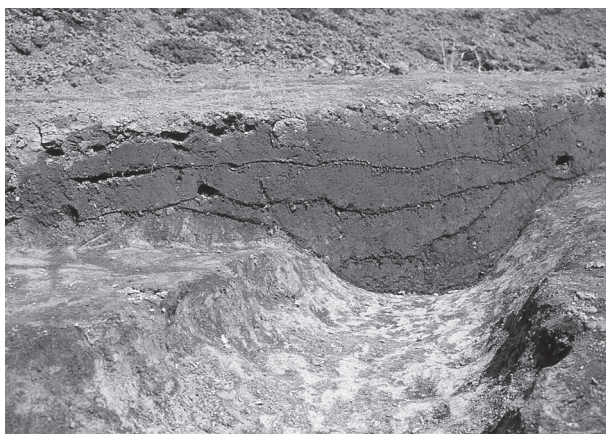
⑦ D4 区 32 号溝完掘（南から）



① D4 区 32 号溝南壁土層断面（北から）



② D4 区 33 号溝完掘（西から）



③ D4 区 33 号溝東壁土層断面（西から）



⑤ E1 区 6 号溝北壁土層断面（南から）



④ E1 区 6、7 号溝完掘（南から）



⑥ E1 区 7 号溝北壁土層断面（南から）



⑦ E1 区 6、7 号溝土層断面（南から）



① E1 区 8 号溝完掘（北から）



② E1 区 9 号溝完掘（東から）



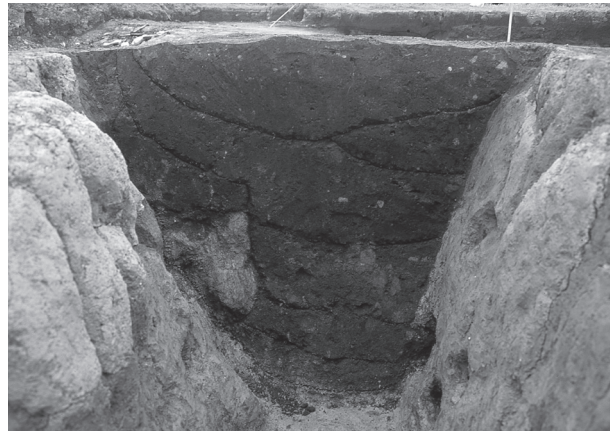
③ E2 区 7 号溝完掘（北から）



④ E2 区 11 号溝完掘（南から）



① E2 区 7号溝土層断面（北から）



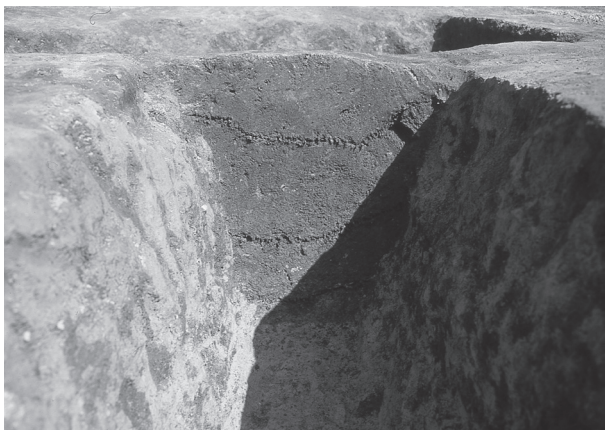
② E2 区 11号溝土層断面（北から）



③ E2 区 12号溝完掘（南から）



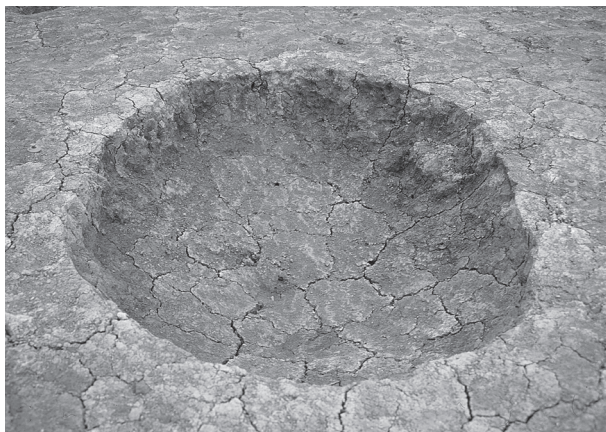
④ E2 区 13号溝完掘（南から）



⑤ E2 区 12号溝土層断面（北から）



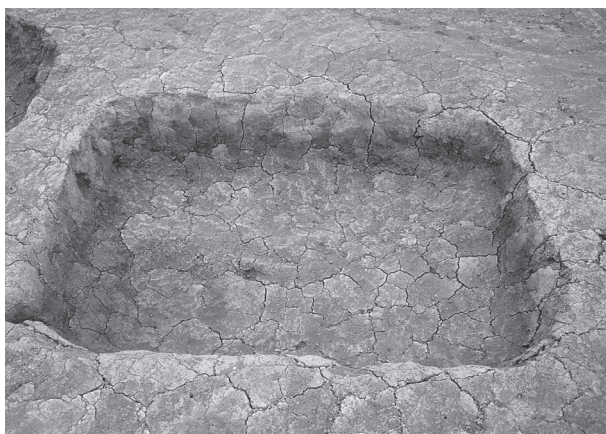
⑥ E2 区 13号溝土層断面（南から）



① E2 区 4号土坑完掘（南から）



② E2 区 4号土坑土層断面（南から）



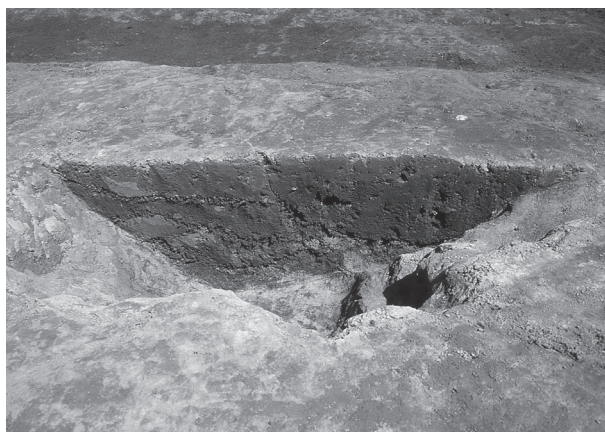
③ E2 区 5号土坑完掘（南から）



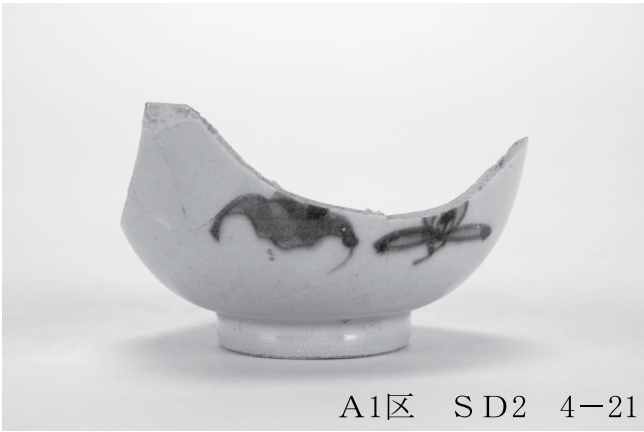
④ E2 区 5号土坑土層断面（南から）

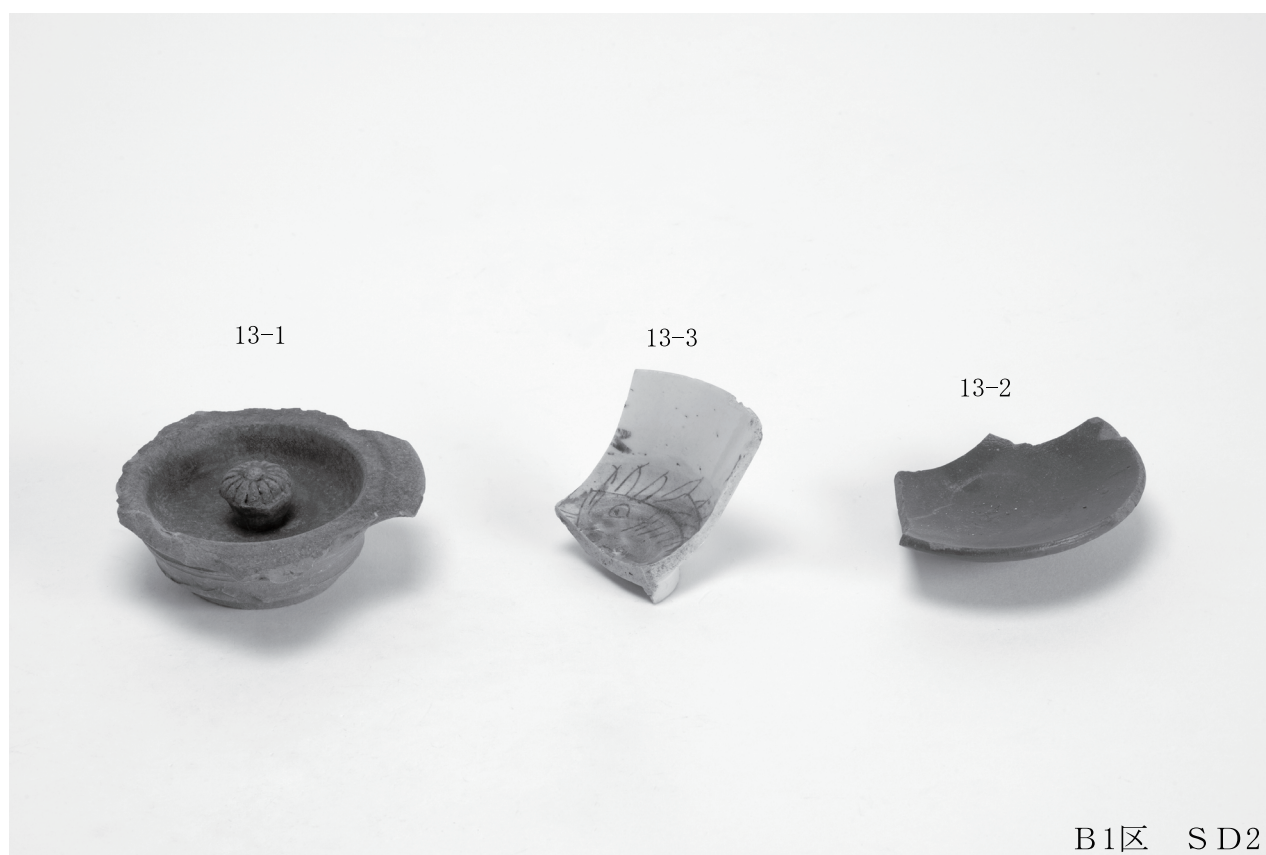


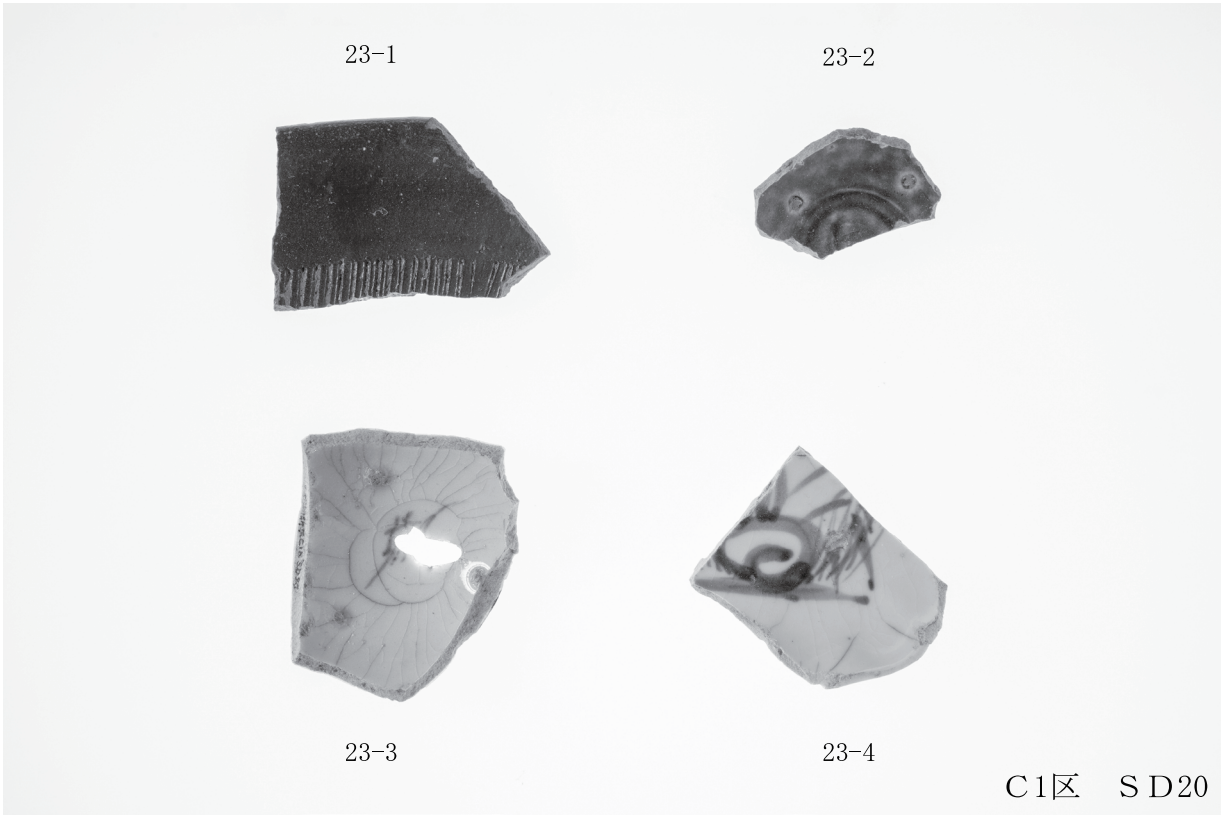
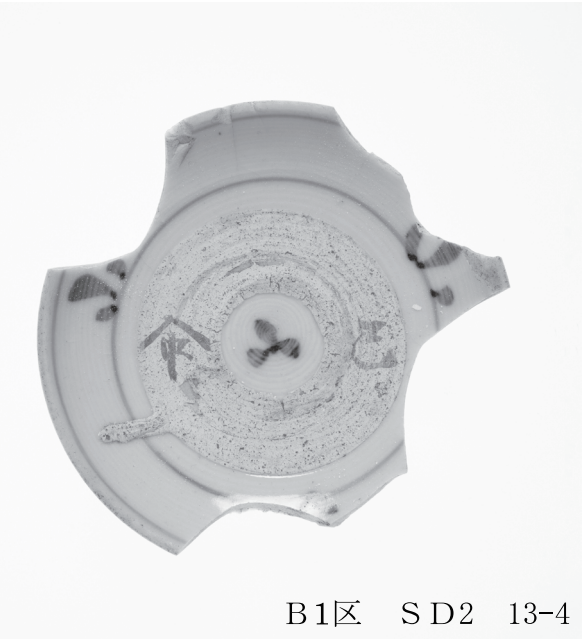
⑤ E2 区 6号土坑完掘（北から）

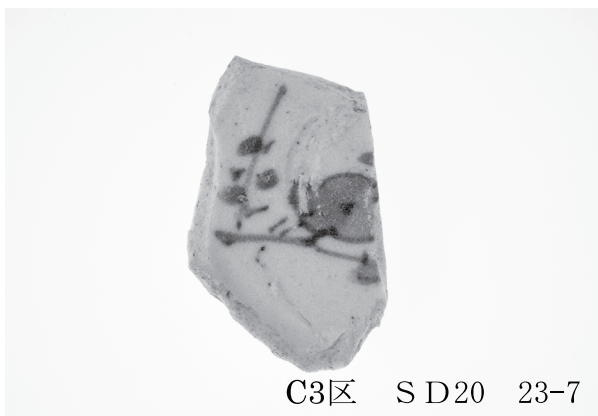


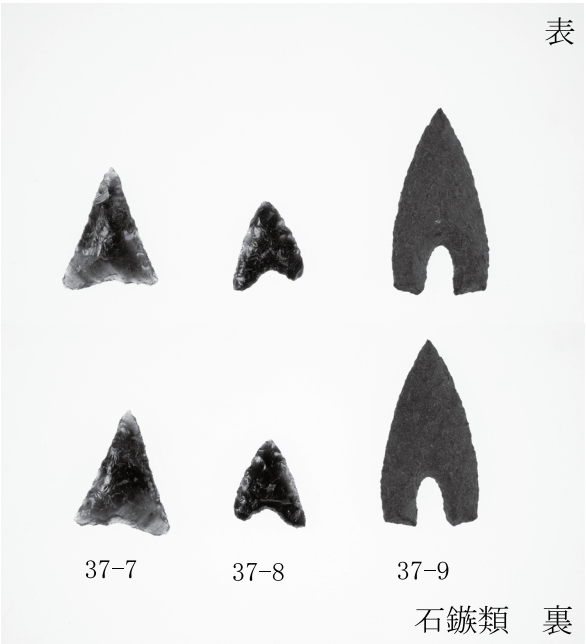
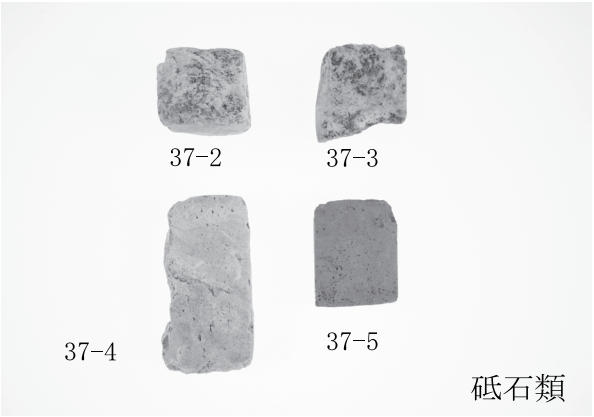
⑥ E2 区 6号土坑土層断面（北から）











報 告 書 抄 録

ふりがな	まつぎきしんぼりいせき							
書名	松崎新堀遺跡							
副書名	福岡県小郡市松崎所在遺跡の調査報告							
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 367 集							
編著者名	三津山 靖也 / 高橋 渉							
編集機関	小郡市教育委員会							
所在地	〒 838-0141 福岡県小郡市小郡 255-1 Tel. 0942-72-2111							
発行年月日	2025 年（令和 7 年）3 月 31 日							
保管場所	〔写真・図面・遺物〕小郡市埋蔵文化財調査センター							
保管場所所在地	〒 838-0106 福岡県小郡市三沢 5147-3 TEL.0942-75-7555							
(ふりがな) 所収遺跡名	(ふりがな) 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
まつぎきしんぼり 松崎新堀遺跡	ふくおかけん 福岡県 おごおりし 小郡市 まつぎき 松崎	40216		33° 39′ 34″	130° 58′ 81″	2023.03.22 } 2023.09.30	22,000㎡	物流倉庫 建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		
まつぎきしんぼり 松崎新堀遺跡	散布地	近世 近代		溝・土坑・井戸・ 掘立柱建物		陶器・磁器・石器・ガラス製品・ 瓦・土製品・銅製品		
特記事項	松崎新堀遺跡の調査は今回が初である。近世に隆盛した松崎宿のすぐ南に位置し、当時数多くあった宿場範圍内であるためか近世、近代頃の区画溝（水路）等が多く確認出来た。当時存在していた松崎宿南構口すぐの旅籠鶴小屋の裏手に位置する耕作地であるため、関連性がないとは言い切れない。							

松崎新堀遺跡

－福岡県小郡市松崎所在遺跡の調査報告－

小郡市埋蔵文化財調査報告書第 367 集

令和 7 年 3 月 31 日

発 行 小郡市教育委員会
小郡市小郡 255 － 1

印 刷 スマートファイズ
福岡県小郡市小郡 1572 － 9

